当時を偲んで

与那原節子

一九四七年五月、中央病院の庭には悌悟の老木があつて、真紅の花びらが地面一杯に散つていた。私は入学式が始るまでそのデコボコした根にもたれていた。四七年と云えば戦後一年で沖縄全体がまだ、戦闘気分から充分抜けきれない時であり、沖縄人の自由通行も許されてなかつた。石川からコザまで行くのに警察に行つて一々理由を話し、通行証明書をもらつて受験しに行つたものである。交通機関としては、公用車が一日何回かあつたが、私達等とうてい乗れる身分ではないので、今日も拾い車を利用して来たのである。私達のクラスは全部で入学当時は三十名であつたが、卒業の時には二十三名になつていた。やめた人達の理由については余りはつきりおぼえていない。

看護婦宿舎が六号室まであつて、一つの部屋に五名宛配置された。私の部屋は二号室で人員は十六名位だつた。部屋には部屋長がいて晩八時になつたら、婦長が雨の日も風の日も点呼にまわる。部屋は棟続きではなく、カマボコ型のコンセットで部屋と部屋は五米位離れていた。毎晩の様に黒人が病院に入りこんで宿舎や病室をのぞき見に来るので、戸締は勿論、外出や外泊については特に厳しく簡単に許可してくれなかつた。

一年生の日課として午前五時起床、朝食の七時までに分担された場所の掃除を済ます。特に門から食堂までの約百米の庭掃除は一番楽しかつた。夜明に掃いた後の波の様な線は何とも云えないすがすがしい気分を私達に与えてくれた。授業は二時間乃至四時間で、残りは病棟実習であつた。看護学の講師は勿論医師だけで、本らしい本もなく戦争中誰かゞ大事持に歩いたであらう、ボロ〳〵の本を写本して講義を受けた。当時中央病院は綜合病院で、優秀な各専門医師が集つていたため、本は無くとも自分の専門の講義をすればよかつたので、割と先生方は苦労しなかつたんじやないかと思う。病棟に於ける一年生の仕事は、何時の間にか決められていた。病棟の掃除、排泄の世話、特に便器がピカ〳〵光る事を私達は自慢にした。それから包帯やガーゼの再製、配膳、大きな鍋を二人でヤイヤイ持つて（病棟の遠い所は食堂から二百米位離れていた。）雨の日などの配膳は今から考えるとまつたく夢の様である。

患者の取り扱いについては戦前そのまゝの看護法で、どの病棟も付添人がベツトの囲りに鍋やカマを広げ、患者の着替え、自分の

等一切を下級生に任せるし、又学年にも色々なタイプがあり三年生は一年生の指導をし平静で信頼感はもてるが敬遠され親しみにくかつた。二年生は些細な事でも理屈なしにがみがみ叱り、平気で他人の人格を無視する様な言動を使い、作業中歌もで唄うものなら直ちに叱責を浴びる始末でどこへ行つても束縛された毎日であつた。勤務が終つても反省する余地もなく、只無心に泣く事が応々あつた。学生態度についての批評会は頭髪の型から言葉使い、歩き方等について一々批判を受け、オカツパの髪は早く延ばすように等と随分無理な注文で、実習意欲はさておきその侭自家に逃げ帰りたい衝動にかられたりした。但し学期試験の事を考えるとそう我侭ばかりも言つていられず再出発の意が湧いたりした。学期末には学年別に席次発表があり全学生の成績が誰にもわかるように講堂に掲示され、お互に反省し合う仕組になつていて四―五日前からはその心配で不眠がちになつたりした。

当時は朝晩二回点呼があり、朝の点呼は身体検査が主で殊に外科三、四病棟では宮里先生自ら点呼をとられ頭の天辺から足先まで御覧になりボタン一つ縫目一針でもほつれを見付けられると直ちに付け直しを命ぜられる。付け直してから再び検査と云う具合できびしく凡帖面な先生のお顔が今でもありありと浮ぶ程なつかしい先生でした。晩は九時各部屋で整列し不動の姿勢で受け仲々順調に出来ずによく注意を受けた。点呼終了後は消灯、自習時間となつていたが特別の場合を除き十二時以後は就床するように言われていた。このような生活も二学期になるとだんだんと習慣付けられたように身につき以前程苦にもせず過すようになつた。一年の一学期たつたかはつきり記憶しないがとにかく入学まもない時に伊江島沖での爆発事故で相当数の負傷が運ばれて来たことがあつたがその時以来私達にナースとしての使命を根強く自覚させたのではなかろうか。四肢は切断され胴体だけが残り、ひきちぎられた肉体も生々しく虫の息づかいをしている者、片足の飛び散つてしまつた者等兎に角野戦を思はせる様なさま〴〵な患者が運ばれて来た時、私自身おそらく皆もそうだつたに違いない。恐怖で手足のふるえがとまにぬ侭担架を運び乍らも何処をどう歩いているのか足の踏み場を知らずたゞ無我無中だつた事を憶えている。当時は全職員、軍病院総出で、救急処置に当つたが死亡者が多く又病室も間に合す野外テントを使用して、一―二週間は多忙な日々を過した思い出もありナースになつた事を誇りに思つたこともあつたが思えば三ケ年間学生であり乍ら学生らしい生活を送れなかつた事を残念に思つている。

お互い差別なく尊重し合う生活を送つていたならば、きつと朗らかで意志の強いナースになつていたかも知れない。成長期にあつた私達は何事にも感じ易い時期であつたためか前記の様に束縛されると自然に卑屈になり、知らず知らずに消極的なナースになつてしまつたが、顧みると私達の学生生活は辛苦な生活で思い出多い日々であつた。故にこれからの健康的なナースになるには日頃から論じ合う自由な生活であつて欲しいと思う。その点でもう一度現在ののびのびした新教育を受け、朗らかなナースになりたいと常に思うこの頃である。

（コザ中央病院）

想い出

諸見里キヨ子

当時は時代の転換期とも云うべき時期で、何もかもが貧しかつた時であつた。

さて私は一九四八年、確か終戦四年目のどさくさの中で未来への心の動揺を感じ乍ら、姉のすゝめでこちらへの入学を思い立ち、見るもの、聞くもの、総べてが今までと異つた事柄で面喰う事ばかりだつた。さゝやか乍ら厳粛な入学式を終え、当時の校長の宮里進先生は新入生を睨む様にいやこれからのきびしい学生生活を自覚させるかの様に、学校の在り方、上級生に対する下級生の態度礼儀等について色々と注意を下さつたが、聞く私達も終始緊張した姿勢で拝聴していたことを思い出す。当時は物質不足もさること乍ら、私達に配られた学生服は青服で布地は丈夫であつたが髪型の整わない私達が着用すると間の抜けた囚人のそれにも以てお互に相手の服装を笑い合い無邪気にはしやいだが、思えばその日から私達に厳しい訓練が始つたのである。

朝五時に起床し分担掃除と称して各科、校舎、院内道路と病院内外を午前七時迄に清掃を終え（今では衛生員の仕事にも等しい）午前八時迄に朝食を済ますと各自青服に着換えて始めて病室実習に出るのだが、そこでも病棟内の掃除が一年生を待つていると言う具合で一年中掃除ばかりしていたので、まるで看護実習を忘れて掃除婦のように、私達に与えられた仕事だと思い後には不平を言う力さえなく只黙々と過したが、重働労でやはり厳しい生活だつた。

実習時間は午前八時ー午后五時迄で、午后一時から二ー三時間は学生に与えられた僅な講義があつたが、この時間でさえ重要な実習の最中では受けられない時もあり、学習が先か実習が先か全く分別のつかないまゝ過してしまつたが、今考えてみるとナースが気が配つて上げるべきだつたのではないかとも思う。又或る病棟では実習時間はとうに過ぎているにもかゝわらず、色々雑用をさせ仲々宿舎に帰してくれず、疲れ果てゝやつと宿舎に帰つても、昼受講した整理物や写本等で時間がなくつい徹夜をする日もあり翌日活気がないと叱責を頂くことも多々あつた。それから朝の宿舎の清掃もおろそかには出来ず、一々部屋長が点検しヤットの置き方でも一寸間違うものなら、最初からやり直しをやらさせるので何時でも緊張の連続と言うありさまで、今考えてみると人権なんて当時はあり得なかつたのかも知れません。上級生ナースの態度は冷たく、食后の片付け

着替等を積重みね、長期入院患者になると、間借り生活みたいであつた。付添のいないTB患者になると、自分で玉子を焼いたりお粥を炊いたりしていた。時たま軍政府の偉い方々の視察がある時は病棟内の患者の荷物を草むらにかくすのに私達まで汗だく〳〵であつた。病棟主任さんは大多数が戦闘参加者であつたため言葉使いも軍隊調でぼや〳〵していると今にでもけとばしそうそうな気配があつた。当時はなんでもなかつた事が、今では時々夢に見て冷汗をかく事がある。それは朝の死体解剖で余り良い気はしなかつた。一ケ月に一回位当番が廻つて来る、当番は四—五名位で、後片付けをして死体を安置室に移していたが、二年、三年と立つにつれて解剖患者も減つていた。

当時の一番の思い出はなんといつても食量不足である。御飯は一年に一、二回で私達は御飯の事を銀飯と呼んでいた。栄養と云うよりお腹を満すことに一生県命で、学生の私達は誰の土地かわからない畠を耕し、いもを植えて食べた。それも二年生位まで〻三年生になつた頃からは食量事情も大分よくなつていた。今なら金さえあれば便利な食堂があるけど当時は食堂もなければ店もなく、食料品もみな配給であつた。娯楽としては三ケ年間の学生生活で映画が一回、芝居が一回位見学があつたが、その代り一年に二、三回は職員だけの素人演芸をした。私達のクラスは芸上手な人達が多く、四八年の演劇コンクールに出演した。今でも当時の写真を見てふき出したくなる。釣鐘草の熱演のあまり基にとびついたら基が動いて悲劇が喜劇に変つた等楽しかつた。

十ケ年前をゆつくり振り返つて当時の先生方、先輩、患者、そして病院内外の一木一草までが走馬灯の様に浮んで来る。この十ケ年間にこゝまで進歩して来た病院看護の在り方に改めて吃驚させられる。私達も時代の波に一人とり残こされない様、そして后輩に負けない様一生県命努力しなければいけないと思う。

（琉球厚生局）

思い出

大見謝春子

一九四六年四月、終戦直後初の看護学校に大きな希望を抱いて入学したのが十五年前のことである。三ケ年間胡屋の森のコンセットで寝食を共にし、学習に実習に楽しかつた学生時代のことを思い出し書いてみたい。何しろ私達の時代は終戦直后でしたので、現在の様な設備の整つた学校ではありませんでしたが、当時は医師の開業が許されてなかつたので優秀な先生が一ケ所に集つて居られ、立派な総合病院だつた、その先生方から熱心な指導を受けることが出来ました事を私達は唯一の誇りとして居ります。服装も始の一ケ年はアメリカ軍服を更生したズボンと、上衣に下駄ばきといつたいでたち、買うにもお金も店もないのですからどうすることも出来ませんでしたし、又欲しいとも思いませんでしたH、B、T、を着込んで意気込んで居た事を思うと、なつかしさと同時にこみ上げてくる微

苦笑を禁ずることが出来ません。当時は食糧事情も悪く、ボロボロのお粥だつたり、ポーポー（ホツトケーキ）一枚と、ミルク一杯、一番よかつたのがマツシユポテトだつた様に覚えて居ります。三度の食事以外には全然買う場所もないのですから、これには食べ盛りだつた私達はとつても困りました。それで、実習交代とか看護婦の勤務交代の歓迎会とか、色々理由をつけまして栄養会をやつたもんでダす。その栄養会なるものが又けつさくで、病院の周囲からカンバー（さつま芋の葉）を沢山つんで、バケツにゆでゝ、酢味噌あえをするのです。その料理が素晴しく美味しかつたので胡屋の旧病院時代の名物になつて居りました。食事には私達も困りましたが、病人も気の毒でした。今の様に美味しい果物はないし、どんなに色々な食べ物が欲しかつた事でしよう。又あの頃は娯楽施設がなかつたので、私達は弁論大会、演芸大会等を良くやりました。二年生になつて始めて演芸部が出来、とつても演芸が盛んになりました。演芸会になると入院患者、隣近所の部落から見物人が押かけ、食堂前の広場を埋めつくすほどの人出で演芸部員の熱演は人々の涙をさそい、腹をかゝえて笑わせる等、思えばつい昨日のことの様な気が致します。私の印象に残つて居る劇を挙げてみますと、悲劇として、父帰る、第二の母、泊阿嘉、喜劇に、石地蔵、チーフアヨー等で、これ等は先生方、試験室、看護婦、看護学生、其の他全職員の合併作に依るものでしたが、仲々の好評で皆んなから喜ばれました。スポーツはバレーボールが盛んでしたが、名護看護学校のチームが断然強く、遠征して来ても大てい名護チームにやられ、残念会に終つた様に覚えて居ます。こお楽しかつた事ばかり想い出していると、私達は遊んでばかり居た様に思われますがどうして、どうして、学科の方もずい分頑張つたつもりです。学期試験の競争も大変なものでした。担任の宮里先生に勉強を忘れぬよおに指導されて居りましたので怠ける者は一人も居りませんでした。当時忘れてならない名物の一つに解剖、外傷も挙げられます。終戦直后で人の気持も荒れていたせいもあつたでしようが、外傷がとても多く、トラック顛覆事故があつた時、病院では早朝から看護学生の非常召集があり、二五名即死者と、二〇数名の負傷者の処置に看護婦さんと一諸に冷汗をかいての大活躍をしました。その外苦しかつたことを挙げると限りないのですが、楽しかつた思い出も又尽きません。胡屋の森に数々の思い出を残して別れを惜んだのもこの前の様に思い出はつきない。静かにふりかえつて見て、私達がこうして無の時代から現在に到る迄、生長して来たのも、固く結ばれた友情と、良き師と先輩に恵まれて居たからだと思い感謝して居ります。

看護協会十年の歩みを祝して

－白衣の天使
ナイチンゲールの諸姉へ－

川平朝申

島の秋音もなくおとずれて
南の空はなごみそめたり。

すつかり秋めいてまいりました。たびたびN子様達看護協会の幹部の方々が、私のオフイスをお訪ね下さつた由、誠に申訳けありません。目下結核予防シールのキヤンペインの最中で座の暖まる暇のない毎日を過ごしていますが、それでも貴姉の御申越しに対しては、寧ろ光栄に思いつゝ、こうして南島の旅の宿でペンを執つています。「十年一日の如く」と申しますが、真に早いもので御座います。もう「看護協会」が、発足して一世紀の中の一と駒を奉仕された。貴会員の皆様に対し心から「白衣の天使有難う！」と最敬礼を致します。扨二次世界大戦を境いとして日本に於ける女性の地位は著しく向上しました。その事は単なる観念的な言い方でなく、事実看護婦さん達の資格は高等学校を卒業し、短期大学制の看護学校三年を修めインターンの後扨一線の看護婦として勤務する様になつていますし、公衆衛生看護婦になるには更に一ケ年間、公衆衛生看護学校で勉強しなければなりません。これは琉球大学の単位になるといわれております。この様に看護婦の社会地位は名実ともに向上して参りました。特に公衆衛生看護婦の諸姉は各市町村に駐在勤務して、その管轄の公衆衛生、結核管理、予防指導、産児計画母子保健等と種々雑多な業務が、山積みされています。諸姉はこれを手際よく処理されなければなりませんが、琉球政府の公看諸姉は、それらの重荷のためにあえぎあえぎ何時つきるとも知らない遠い道を忍耐強く歩き続けている様に思えてなりません。私は諸姉のその後光の輝く英姿を心から美しく見守つています。あなた方の御仂きが、愛の発露であることは今更申上げるまでもありませんが、会員の諸姉がナイチンゲールの精神を常に心にとぼしていられることを信じています。近年祖国日本では医療団

や看護婦が、盛に職場斗争と云う事件がありましたが、私は単にその事を否定しようというのではありませんが、戦場に於けるナイチンゲールのあの精神を考えます時には矢張り、プライドをしつかり持つて対等に論じあつて、その要望を貫撤することが、大事だと思いました。幸い琉球の看護協会では、まだその様な深刻な問題はありませんでせうが、看護婦の義務と責任そして各自の地位を高く自覚すべきでありませう。看護婦が昔なりの医師の従属者であるというコンプレックスを捨て、医師のよき協力者でありその忠実な看護者であるという立場をしつかり確認すべきであります。無医村では公看がいろいろと苦労が多いようであります。公看は常に村の指導者の地位にいなければなりません。私は常に各市町村を巡回講演しておりますが、「公衆衛生看護婦を是非村の顔役に加えて欲しい」と叫んでいます。N子様でどうぞ貴姉の協会がますます健やかに御発展されることを心から御祈り申上げます。

琉球結核予防会常任理事
沖縄社協保健衛生委員長

看護協会創立十周年をお祝して

厚生省医務局
看護参事官　永野貞

琉球看護協会々員の皆様

此たび琉球看護協会創立十周年に際して記念誌を発行されるのに当りまして一言御祝いの言葉をのべる機会を与えられましたことを心から喜ぶものでございます。

琉球看護協会の会員の皆様も私共と同じ様に病院におつとめの看護婦の方々或は開業の助産婦として保健所や学校、工場におつとめの公家衛生看護婦の方々と看護職の方々が広く含まれていられるのでせうね。そしてその運営は会員の総意を代表する人々の選挙によつて選ばれた理事役員によつて運営されているでしせうね。私は今でも幾度か日本看護協会の総会々場で貴女方の代表の方々からの心からなるメツセージとそれを感激の中に伺つたあの会場の雰

囲気の高まりを忘れる事は出来ません。私は昨年十月金子前看護参事官の後をうけて厚生省医務局で看護参事官の任務についているものでございますが、厚生省に移ります前の十二年間公衆衛生院看護学部で仂いておりました関係で真玉橋ノブ子さんをはじめ金城好子さん其他多くの沖縄の御友達をもつております。又厚生省に参りましてから三ケ月或は六ケ月と病院に見学実習に来られる方々に御目にかゝつてお話合いをする機会もございますので、日本を通じて或は耳を通して多少は知つているつもりでございますが実際には一度も御伺いする機会がなくつい知識も足りなく或は御地に対する理解に欠げるのではないかと存じます。しかし私の立場で何か御役に立つ適切なことがあれば喜んで御用を御引受けしたいと心から望んでおります。私が厚生省に勤める様になりましてまだ日は浅うございますがこの間特に強く感じましたことを申してみたいと存じます。それは国の看護行政と看護職業団体はそれぞれ異つた立場からそれぞれの役割を自覚し、積極的にしかも忍耐強く助け合つて活動してゆかねばならないということでございます。そしてその場合特に団体に望むことは広い視野に立つた又充分他の関係団体と連絡のとれた活動を期待するのでございます。このことこそ専門職業団体として縦横に関拓出来る分野ではないかと存じます。私自身日本看護協会の存在にどれだけ励まされているか知れません。勿論或場合は先輩諸姉にひどくお叱をうける事も反対に慰さめられいたわられる事もございます。私も心から職業団体が正しく強く発展する事を希うております。

琉球の看護協会ということを想うだけでも何か私達には自分達の妹に対すると同じ気持になつてしまひます。本当は同級のお友達なのでせうが!!創立十年を迎えられました琉球看護協会の皆様どうぞ今後とも仲よくお互に助け合い励し合つて更に更に看護の職業団体を強め成長させませう。

終りに当りまして会長、役員をはじめ会員の御一人御一人の御健康と御多幸を祈りつゝペンをおきます。

看護協会創立十周年をお祝して

日本看護協会
保健婦会長　金子光

もう五～六年前のことになりましようか。私が貴協会のお招きをうけてその総会に臨み、皆様の御活躍の様子を親しく拝見する機会が与えられたのは……など想い出を新にしながら、今、十周年の記念が行われることを感慨深くしのび、心からお祝いとおよろこびを申上げます。

十年と一口にいゝましても、それは過ぎてみれば一口であつて、その間には実に不断の努力と精進、たのしみと辛苦、よろこびと悲しみなど、様々な尊い体験が積み重ねられ、確固たる団結の力となつて今日の成果をかち得られたのでありますから、大いに自信をもつて目標に向い一層会員の総意を集結して前進されるよう、心から声援をおくります。

私共日本看護協会は今年は氷一五回の総会を開きましたそして貴協会金城会長の御出席とメツセージをいたゞいて集つた五千余の会員の心の奥深く、琉球看護協会をしのび思いをよせ、扶け合うことを自覚したことと信じます。看護の途のけわしさは皆様のところも私共のところも同じだと思います。昨秋から全国的におこつた病院の争戦のことを御存知のことゝ思います。表面に看護婦が出ていましたのであたかも彼女達が争戦の中心分子だと誤解されましたが、事実は気の毒な役者にすぎなかつたので、争戦の基本的原因は病院の封建性の強い前時代的な経営管理のためであつた事を今日、皆は知り得たのですが、同時に看護婦の立場の低さも、取扱いの拙劣さも明るみに出ました。このことは本当に辛いことでしたが正しく展開するためによい機会であつたと考えられます。病院の経営管理の古さをなじつたり待遇の悪さをせめたり怒つたりするのでなく、何故こうなつたかを私共看護婦は自分達の問題として検討し、研究しなくてはならないと思います。看護の独自性を主張する看護婦は、それを他にみとめさせる仇きをしているでしようが、非専門者と同じような仕事を日常行つていて専門職業の名のりはあげられるでせうが、その違いを、その意味のあり方をどの場で、どのようにして証明しているでせうか。単に空文になつているおそれはないでしようか。

これが今の問題です。更につゝこめば、看護婦又看護婦自身そのことを自覚して、みんなでその方向に歩調をそろえる必要性を果して痛感しているのでせうかということを考えます。

看護婦に対する社会の見方、扱い方をあるべき姿に改善するためには、看護婦自体のあり方、あるべき姿こそ向上し改善しなくてはならないでしょうか。特に問題が起らないからといつて正しいとはいえないし、それでよいともいえません。しかし、長い従来の慣習のあとの急激な変化である看護体制のレボリユーシヨンは一朝にしてはならないのは当然で二〇年も三〇年もかゝるかもしれません。アメリカの現状が必ずしも理想的とはいえませんが、看護婦の社会的地位は或程度きづかれています。アメリカは今日になるのに二五年を経過したそうです。社会生活習慣、特に男女の相互関係が日本の場合とは比較にならない考え方をしているアメリカにおいてすらなお二五年という長い才月を必要とした努力の蓄積であつた事を思えば、十年や十五年の私共の歴史はまだまだ浅く、ほんの緒の口でしかないわけです。今後の十年、二〇年を目指して看護婦にその精神、その考え方、そしてその使命を伝え伝えて輝やかしい暁を迎えるために今の私共に課せられた荷物は大きく又重いものであります。同じ目的に励むお互いは、今後なお一層その連けいを緊密に保ち合い、相互の声に托されている、やめる人々の幸のために、最も適確な手段でこたえることができるよう努力と精進をつゞけてゆきませう。大空は不変です。黒雲が蔽うことがあつてもそれは一時的です。その雲をつきぬけて更に高くすゝめば、そこには必ず蒼空が陽に輝いているのです。

おわりに、皆様の御健康と琉球看護協会の御発展を心からお祈りいたします。

病人食であるということ

嘉手川　あき子

秋もしのびやかに窓辺に近づいたと感覚的に想われる或る土曜日の帰りのバス。軍基地の五百燭光と対照的に光る星の数々を見つめ乍ら、ふと思ひ出した糖尿病の息子とその老婆の顔幼い腎炎の患者を息子に持つ若い母親！私の十数年の栄養士生活の中に苦しく、にがい印象となつてしまつた事柄の一つである。

「糖尿病の患者さんが入りましたから御願いします」と差出された食餌箋の文字からすぐ直感したのが極期であるという事それにまだ若いという事は、私に別の希望を与えてくれた。「この人は少し我侭だと言つています」同僚の患者への評価らしい句をつけ加へ係のナースは白い服の背を廊下にゆつくり歩いていつた。

又もかと思うのが私の癖である。うの花に御飯の量を頭にならべ乍ら片方では二三才といふ青白い青年を想像した。二、三日食餌状態を気にしながら献立を組み、どうなつたかと気にはなつたけど、別に病棟よりの連絡もないので調子はわいんだなと自分なりの解釈をしていた。

一週間目の朝「あの糖尿病の患者さんの食餌はどうなつていますか」と太いバスのF医師の声、

「ものすごく糖が出ているんだけどなあ」

「先生の指示通り含水炭素一二〇gですけど」

「不思議だなあ」。これが私と御医者さんとの一問一答である。その日の午後も係のナースから異常のない事を聞き更に「ひもじい」といふ通俗的な返事を聞いた。それでも糖は酷いといふ事であつた。暫くたつた或る日、とうとうその実態がわかつたことをナースが告げに来た有得る事だと納得はいつたけど、人間の食欲の恐ろしさを更に認識させられた。同室の患者の食べ残りを皿にもらつて係のナースの隙を見て食べるといふあさましい話だつた。そこには協力者がいたことがわかり罪のない協力者に注意することになつた。それで二、三日は分量通り辛棒してすんでいたわけだが、二週間目と思はれる暑い日の午後あんまり身なりのよくない老婆が私の背後の金網越しによく聞きとれない声で「病人かい、飯かますつとくまーくまるヤがヤー」と案内を乞うている。内に招き入れて見ると御飯を一杯くれないかと言うことである。やつてもいいが「何故どうしたか」と問い返えした。例の糖尿病患者の親である。この老婆に納得のいく話をするのに三〇分も話し続け、その間に出た老婆の返事「一椀小飯食ちようてい自分の子死なするばあい」とわめく老婆をこれが病人食であるということを説明するのに、かれこれ、二時間の時が過ぎていつた。悪口をならべていつた老婆の後姿をせつなく見送つた時、とつぷり夜のとばりがおりていた。

その後老婆は病棟での医師、ナースの注意も耳に入らずして腹一杯ごはんをやらないという事を理由に一人息子をつれてかえつて行つた。後日聞いた話では二ケ月後亡くなつたと老婆が嘆いていたという事である。

（コザ病院栄養士）

興味ある手術室の汚染度

棚原節子

近年医学は急速に進歩し、その一分科である外科学も重要な地位を占めている。特に外科学が近代の様に進歩発達した由縁は無通法と消毒法の進歩に依るものと云われている。この様にして外科学を進歩させた基礎の一つとして消毒法（無通法）はそれ程に重要視されている。それ故に手術室勤務者として私どもは無菌法と無菌操作に明け暮れていると云つても過言でない。

その無菌法と無菌操作の方法の一つとして室内環境の保清がある手術に使用される諸物品又は手術野、術者その他の手洗い者等がどんなに完全な消毒が施こされていても室内の空気が汚染されていては満足した手術の成果は期待出来ない事は周知の通りである。室内の保清には、現在行われているのは手術室に立入る前に更衣をなし、マスク帽子を着用したり、室内には乱りな出入りを禁じ又術前術後には室内を清拭する等で室内の保清に努めてはいるがそれ等の方法は先輩方の指導に依つて或は本を通して伝統的に行われて来た様なものである。従つて如何なる場合に最も汚染されるとは概念的には知つていても果してそれがどの程度のものであるかは理解されていない状態である。このような事からして習慣的に行われている無菌操作がマンネリズムになりはしないかと懸念するものであり今回の検査を試た。

検査の方法と結果

検査対象の部屋を二部屋に定め、術中、術直后、これは患者を病室え送つてから、清掃後三十分、手術前の四状態に分けて検査を行つた。培養及び細菌の鑑定を当病院、病理検査室細菌部に依頼した六四平方糎の寒天培地を検査対象の場所に五分間開放し、二十四時間培養して空気中の落下細菌に依るコロニーの状態を観る方の落下法を行つた。

検査対象の部屋の温度が摂氏二十六度、湿度が七十三％（手術室ではやゝ高め）で尚当病院手術室は冷暖房及ラクト式に依る換気装置が施され室内の空気が二十分間では殆んど全部浄化されるという室内環境の状態で試験を行い表の様な結果が示された。

表に依ると両部屋とも術中及び術直後が多少汚染されている事を表わして居り、清掃後、或いは手術前には殆んど細菌の集落が見られない。Aルームの術直後の入口が他のどの場合よりも多く見られるのは後片けで人の往来でドアの開閉が頻繁に行われて居る場合であ

手術室内に於ける落下細菌測の結果

ルーム	状態	コロニー数	菌の型態	記載事項
Aルーム	OP 前	0	グラム（十）双球菌	肺外科手術中で室内の人員は5人。
	OP 中 入口	2	〃 〃 〃	
	内部	3	〃 （一） 〃	
	OP 直後 入口	7	グラム（＋）双球菌	
	内部	1	〃 （一） 〃	
	清掃後	0	グラム（＋） 〃	
Bルーム	OP 前	0	グラム（＋）双球菌	肺外科手術中で癒着がひどく出血量がやゝ多い症例のOPである
	OP 中 入口	4	〃 〃 〃	
	内部	6	〃 （一） 〃	
	OP 直後	0		
	清掃後	0		

り、又A、Bのルームの術中を比較した場合、BルームがAよりも汚染されているのは、Bルームの表の様な手術の症例であるため輸血が三ケ所から行われて居り雑用の看護婦はかなり忙しく立ち働いていた。この様な人の動きが影響しているのではないかと思われる又Bルームの術直後になにも集落が見られなかったのは培地を置く時が良いタイミングではなかったかと思われる。落下された細菌の型態は表の通りで、殆んどグラム陽性又は陰性の双球菌として表われている。然しこれ等の細菌が必ずしも病原体であるか否かは鑑定してないが手術室となると気にならないでもない。参考のために普通一般の住居に於ける落下細菌集落数は一〇〇W下七五といわれている。

（むすび）この様な検査を通して室内を汚染させるに最も多く影響があるのは、人の動作、ドアの開閉等がそれである事を更に深く認識させられた。現在まで習慣的に或は伝統的に極力、術中の出入りを制限したり、術前術後の室内清拭をしては来たが、これ等が、室内保清にこれ程までに役に立つたかを実際に知る事が出来、手術勤務者であれば、これ等を周知徹底して行うべきであると思われた。又清掃が行き届いて居れば必ずしも殺菌灯を必要とせずして室内の浄化を計る事が出来ると思う。本手術室に於いて現在まであまり二次的感染は見られないが、これからも機会ある毎に種々な面から検査を御願いしてこれに対応し出来るだけ完全無に近い操作を行い手術室勤務者としての使命を充分に果し度いものである。

尚本病院、病理検査室主任上田朝高氏が忙しい折柄心よく御協力下さいました事を深く感謝します。

（那覇病院勤務）

詩

しゅじゅつのとき

チイーン、カチン、カチン
何かの音がした
こわれたブリキのそこを拍子に
母が唄つた子守うたなのか
白い大きな建物に
黒い目と水晶をのせた額
そこだけをえがいた生物が
全神経を眉間にあつめて
私の腹部を凝視している
あゝ、今私はそこに
真の人間の姿を見た
一心不乱に手を動かしている
そつと壁と壁の間から天井をみた
パクリ、あかい大きな口が
ものほしそうにあいている
いつかみた紅い唇の女
あの目だけの生物が
ときどき食物を与えるけれど
すぐ吐き出させてしまい
実にざんこくなありさまだ
ガチャン
ふくれ顔をしておわんわつたときの音
おわんのかけらをひろおうと
手をのばすと
地球が私に倒れかかつた
〃あゝ痛い！そのとき
あの白い建物の目が
安堵の色にもえた。

一九六一、八、十五

金武保養院看護婦
武峯子

短歌

雑詠

八重山病院　田真富子

ひたすらに癒ゆる日祈つゝ新療者に
　看護（トトリ）の今日も静かに暮れゆく

ネズミ捕籠（カゴ）に揚羽蝶を入れおきて
　永病む幼な童（ゴ）ベツトに楽しむ

怒りたる事を悔いつゝ勤ムする
　今宵のわれは心わびしも

金武保養院　宮城民子

五機のしげく飛び交う安静時
　いかりを秘めた病舎の窓

私服着けバツク肩にし戯れて
　家恋しさをしばし慰さむ

我が心もかくあるべきと我願う
　いつも美し金武の眺めに

コザ病院　大工廻明子

たまりいる仏僧華の露落ちゆれて
　静かな赤にふと息つく

静かな心を隅におしやるよう
　ひゞく声明るく又迷う

名ゴ病院　山城はま子

さみしさに君に待たるゝ心地して
　浜におりいて愛と云う字書く

二人していう言葉なくながめおる
　月下の花になびく秋風

おごそかに花に吸わるゝわが心
　月下の命よ永遠ならなくに

さ夜ふけてめしべ重なり又おしべ
　短かかりしか花の命は

（月下美人によせて）

伊平屋　松元サヨ

朝ぎりの海風強くこの部屋に
　こゝろのこして我子かえりなむ
あなあはれ痛ましきかな
　台風の被害を受けし村人の里
楽しみを極めてのちの人のごと
　夜もすが友をしのびて時を送らむ
島にきて嬉しかりけり村人の
　心ぞ今も変らざること

きよし

うすれゆく夢をたどりつ今朝は唯
　現実の前に固く目をとず
云い合いてわかれて三月臥す吾に
　便りなつかしへのへのの字の
息こらし射したる針の又狂い
　延べたる腕にふるへ伝い来ぬ

半山和尚

老の身の散る日思えば若人の
　面輪以に光射しくる
年若き人の子いとしたゆみなき
　業にさゝくる御魂安かれ
幾度も訪ふ翁所めなく
　笑顔尊し白衣の人の

国仲穂水

「荒城の月」粛々と眠ほそめつゝ
　歌う看護婦このときやさし
北海の友が贈りし鈴蘭の
　心にしみて部屋に匂へり
新しき患者迎ふる船の音
　暮れゆく島の入江にひゞく

俳句

雑詠

コザ病院　やまざと　のぶこ

あめ色の茶をくむ朝の野分けかな
迎え火やすわる座なく嫁ぎきて

落ちそうな三日月基地の町更けて

国仲穂水

迷いきし蝿に手術の静寂あり
夏密柑むく力なく友病める

南静園　仲里実孝

初売の煙草分合う園の秋
髪洗う水に溢るゝ秋の色

川柳

コザ病院　玉城繁子

「ゆうべ崖からころがり落ちる夢を見たんだがね。落ちる間に金を借りてる奴等が片つ端から目の前に現われて来たよ」
「へエ、片つ端からかい。」
「そうさ」
「フーム、よつほど長い間、落ちたんだろうな。」
「魚はだんだん大きくなるだろうか」
「そういうこともあるね。比の前父が釣つた魚は話のたびに一尺づゝ大きくなるんでね。」
「次郎や学校へ行くの好きかい。」
「うん、それから学校から帰るのも好きだよ。その真中が好かないんだよ。」
「記憶力がなくなつたもんで今日医者のところへ行つたよ。」
「そうしたらどうだつた。」
「前金をとられたよ。」
客「刈り込めはいくらだね。」
床屋「五〇セントです。」
客「五〇セント、そりや高い、剃りはいくらだね。」
床屋「二〇セントです。」
客「よし、じやあ坊主頭にしてもらおう。」

先生！わたしたちは女です

いつものおと子

一、点　数

「ものの考え方」というものは大変大切なことだと何時も思っている比嘉良夫先生は、そのくせ、はなはだ単純な「ものの考え方」に生きている。

野球のこと新聞に、ことこまかにでている。得点だけでなく時にその人のゴシップまで、ピンポンにしてもそうだ。

古い時代に育った比嘉良夫先生「スポーツは学問でない」と固く信じている。だから「化学」という学問は「野球」や「ピンポン」より遙かに高い尚いものである。こうした考え方から出発して!!学問でないスポーツが得点を公表しているのに、それより、とても高尚な学問である「化学」は新聞に公表するだけでなくテレビをはじめ、あらゆるコンミュニケイションの手段に訴えて発表してもよいという雄大な「結論」をもつていらつしやる。

比嘉良夫先生はこうした「ものの考え方」を深く考えもせず、反省することなく、すぐ実行に移してしまう。だから私は比嘉良夫先生の「ものの考え方」は単純だというのである。

二、大　先　生

試験しないということ、すでに伝説になつて学生達は先輩からこの伝説を受け継いだとき、よろこびのあまり涙を流したものだ。

比嘉良夫先生は有難い先生だ！。偉い先生だ！。と思い、それがいつのまにか大先生だ！と語られていくのである。

「まさか？」疑い深い学生、あまりよくない比嘉良夫先生の顔のツクリを心で「ケイベツ」しながら

「試験をやらないなんて、そんな等ない！」

勝手な結論を下す。

「すなお」な学生は信じ、「すなお」でない学生は疑いつつ、「化学」のクラスがはじまる。

確かに凄い、比嘉良夫先生は実に豊富な話題を持つていらつしやる居ねむりをするトキを与えないし、私達にとつて新鮮な話。

時々「エンマ帖」をめくる。何となく、むかしやつた悪いことがなんでも書いてありそうで心理的な圧力を感ず。

三、宿　題

「伝説は、すべての真理を伝えるものでない。」

こういうことがわかつた頃、すでにおそい。宿題につぐ宿題に追いまわされ、目をまわしている自己をこれほどミジメに感じたことはない。

その宿題も、ふるつているが点数はプリントにしてまるで新聞を配るように全員にくばる。だから点数を、かくしたり、ごまかしたり絶対にできない。

勝気でクラスの人気者が渋い点、「ざま見ろ。」と痛快。よごれた香りのする服を何時も着ている学生が案外な点。人のことばかり笑うわけにいかない。自分のこととなると息がつまりそう。

宿題はうんざり、毎日、毎日硝子細工だけでも夜中の二時頃までかかるのに……宇宙のはじまりから恋愛に及ぶ、全く手も足もでない。

それに入学以来「比嘉良夫先生は女性に甘い、点数にコセコセするな！」と先輩の言葉。これを善意に解釈してエライ目にあつた。

「化学」は木曜日。「宿題は水曜日のヨルで大丈夫」とたかをくくる。ところがである。その宿題は……

「私と化学」

「一週間の学習計画」

「化学者は恋愛してもよいか？」

「地球の誕生日について」

「月は何時生れたか？生みの苦しみは何年続いたか？」

「宇宙のはじめには何があつた？。何もなかつたか？何もないとはどういうことか？……」

「偶然とは何か？」

こうしたもの、何処から手をつけてよいかわからない。時間がない参考書はみつからない。お手あげ。

四、プライド

「してやられた」と思つているうちに学期末シケン。

「ゴリラ」「タヌキ」それに「ゴジラ」と代々ピツタリしたアダ名を先輩はつけて来た。この「タヌキ」のような比嘉良夫先生は、例のハナハダ単純な「ものの考え方」で宿題を野放図にだす。

この先生には「化学」以外は学問でないらしい。

明日「解剖生理」のシケンだというのに又宿題である。

「旋光性について」

「トラベルミンの化学構造」

「糖分測のレポート」

……

すつかりイライラしてしまう。それだけでない明日までに「関節の分類」「骨格筋の形状と名称」そして「血液型」まで、うんざり。ニタニタしている比嘉良夫先生が憎らしい。

「来週の今日までに、今までのレポート、宿題はキチント綴じて一冊の書物のようにして提出すること。採点は字の美しさによつてA・B・C……区別する。誰でもキレイなものは好きだからね……ハハハ……。

あゝ、それから、勿論のことだが成績はプリントにして皆さんに配ります。」

「コンチキショウ何が皆さん！」腹が立つ、「四月のはじめのレポートだとよ！何処にとんだか、わかつたものか！」足をすり、机を叩き、クラスは騒然となる。まさにジヤングル、クラス。

突然川上さんが立ち上つた。顔をマツ赤にして

「先生私達オンナです！」
よく言つてくれた。私達は胸につかえたものが落ちてスーとした。まさに痛快。
はじめ比嘉良夫先生ビクツトした様子、威厳をつくりなおすと。いともオゴソカな顔になつて
「よく存じあげております」
しかし、明らかに比嘉良夫先生には川上さんが何を言いたいのかわかつていなかつた。落ちつきを失つた先生の目の光はみじめなほど川上さんは勇ましくコトバを続けた。
「だから点数を公表しないで下さい。女の人にもプライドがあります……」川上さんの肩は上下に二十糎もふるえていた。
私はこの時ほどオトコを憎らしいと思い、比嘉良夫先生をみすぼらしく見たことはなかつた。

お母さんへ

座波常子

お母さん久し振りにお便りします。コザにいた頃はよくお便りさしあげたものですが、こちらへ就職してからはお家へ帰る数が増えたせいなのかさつぱり書かなくなりました。しかしお母さん今日はいろいろとお手紙を通してお話したいと思います。
先日帰宅した時私が教会え行つて居り近く洗礼を受けたいと思うと言うことを話しましたでしよう。そしたらお母さんはクリスチヤンの生活は窮屈ではないのか、少し位悪い事をしたつて普通の生活の方がいゝんじやない？と言うようなことを話してましたね。一年位前の私であればそれに同意したかも知れません。クリスチヤンを善人ぶつた、うとましい存在だとしか思つてなかつたのですから。しかもその考えが全くくつがえされてしまつたのです。今から考えれば神さまの導きであつたと思いますが。去年の三月頃こゝのお友達二、三名で英会話を習うために教会へ行つた事があるのです。その時の和やかな雰囲気が私の心を捕え、聖書のお話を聞いたわけでないのに妙な感動を覚えたものです。自分がたえず求めていたものがそこに満ちあふれているような思いにかられました。その頃の私は職場でいろいろ煩しい事が起り、人との交りの難しさを痛感しうつとうしい毎日であつたせいもあろうと思いますが、その日教会にいらつしていた方達の柔和な物腰や、親切さに爽やかな気持にさせられ、安らぎさえ覚えたものです。で又その交りへ加りたくなり以前から聖書に非常な興味を持つていた事も手伝つてせつせと教会へ通い始めました。そしているうちに少しづつではあつたけれども心の変化が生じて来たのです。何をするにも人に対してではなく主に対するように心から働きなさい。「あなたがたはキリストに仕えているのである。」（コロサイ人への手紙三章二三節―二四節）お母さん私達は自分で生きているのではなくて天地を創造された神さまによつて生かされていると言うことがわかつてきたのです。「主を恐れることは知識のはじめである。」（箴言一章七節）（とありますように今までの考え方が間違つていた事、或は自分の心の中に潜む罪の意識が頭をもたげてきて怖くなつてきたのです。神の目から見たならば何と罪だらけな汚れた思いに満ちた自分であろうと、そしてイエス様が十字架で私達の罪の贖いをして下さつた愛の深

さを思う時私は悔改めざるを得ませんでした。「十字架の言は滅びゆく者には愚かであるが救いにあづかる私達には神の力である。」（コリント人への手紙一章十八節）

私はいよいよ決意を致しました。これからの人生を神にゆだね従っていきたいと八月十七日の洗礼式に臨みました。お母さん一九六一年の八月二十七日は私がクリスチヤンとして誕生した記念すべき日なのです。どうぞお母さん覚えて下さい。身心共に私は生れ変ったのです。イエス様が十字架にかゝり今尚生きていらっしやるのと同じように今までの私は全く葬られ新しく生まれたのです。お母さんこの幸いを祝福して下さいますように！

「キリストには変えられません。
世の宝も又富もこのお方がわたしに変つて死んだ故です。
世の楽しみよ去れ、世のほまれよ行け、キリストには変えられません。世の何ものも。」

聖歌の中にある文句なのですが、私も全く世の快楽を求めなくなりました。私達が見上げべきものは只神さまだけです。受けるよりは与える方が幸いであると私もその愛の完全を担い日々神との交りを持ち全き人生を歩みたいと思います。

神さまの恵みについてうまく言い表わすことはできませんが又折を見て話します。

お母さんも神さまを見い出す日が一日も早からんことを常に祈っています。

主の恵みが豊かにありますように……

（琉球結核研究所）

T子さんへ

大嶺千枝子

お別れして本当に久しぶりで御ざいますね。お元気で何よりです。随分お変りになつた事でしようね。長い学校生活を共に過したのに今何処かで「働くアクセサリーをお供に」ランデブーを楽しんでいるのではなかろうかと、私一人ぼつちでペンを進めています。

「何時になつたら」から始まつてサラリーマンと云う言葉に夢を託し、超現実的話題に花を咲かせた日々も何時の間にやら過去の事となり月日の立つのは……を実感しながらすべての語らいが過去の幸福の一時であつた事を楽しい思い出と考える一方、毎日々々をたゞ握齪して送り、何一つ思う様に運ばない現実の自分を悔がゆく思い腹を立て続けて最早六カ月も去つてしまいました。

その間に私は大名行列の様な「病院」と名称するピエロの一細胞となつて始めていかにお裾もちが情ないみじめな存在であるかを知つた様な気が致します。それは「未然なるが故」で仕方のない事であつてはいけないと思つています。戦々恐々としていては楽しいはずがないし、第一仕事に熱がなくなるのじやない？。少しのミスも転ばぬ先の杖ではなくつて理もなく頭ごなし打ちのめされる時は性格だから気にしなさんな、と言われても耐えがたくなるし「性格」なのだと開き流し出来るのだつたらどんなに素敵だろうかと思つてます。とにかくその為にも私はもつと時間を稼がなければいけない

でしようね。猿は木から落ちないと云う様な信念をもつている様な人が自分の絶対的完全の為に服従者視し未然であつても完完全である事を常に念頭に慎重に仕事を勤めている心算なのにその意志なくて単純に行動しているかの様に無視される時は本当に情なくなります。つまらぬ愚痴ばかりでごめんなさいね。たまらなく厭な事があつても一人で消化する事がどれ程必要であるか位は知つてますけど…。自分が未熟であると云う事がこんなひがみをもたせるのでしようか？貴女はきつと心から楽しく自分を生かしている事でしようよね美ましい限り。私は「白衣の天使」と人々が美しい夢物語を幻想する様に過去の私もある夢を描いていたのがいかに幼稚な考え方であつたかがいやと云う程実感しております。私達の看護が職業化されたきつかけは戦争の為であり貧困者、農民の中の極めて下級な女子でその質の向上に上流夫人が名を連ねて「白衣の天使」と名をうち聖職を作りあげて天職の衣を着せられて来た為あまりにも第三者の頭の中には極めて観念的な「白衣の天使」が私をも無知にしたのだと思つてます。これからは作られて着せられた職業精神でなく本当に人間的な美しさを発揮して自分でそれを作つてみたいと思つています。お互に対象が何であつても常にエンゼル的でどんなに辛くいやな事があつても人生を楽しく深く生きましようね。最後になりましたが私が何のゆとりもなく束縛された生活の連続であると云うわけでもございませんので御心配なくね。声高に喋りたい位幸福感に満ちた職場の雰囲気も充分に味わつており怖ろしくも又優しくもある諸姉の事を次便で山々お聞かせいたします。ではこの辺でペンを止めます。お体を大切に仕事に私事にお励み下さい。小夜奈良

挨拶

琉球米国民政府公衆衛生看護顧問
バーバラ・エル・シエーイ

琉球看護婦協会第十周年記念への挨拶

皆様方は短期間に看護の専門的技術と知識の水準向上に類のない進歩を遂げました。現在のこのすばらしい業績に対して、皆様方お一人一人にお祝いの言葉を申し上げます。

琉球の全ての人々の発展はその健康状態にかゝつているのであります。それ故に皆様が病人の知的看護と、人々が良い健康状態を保つための、指導に貢献することは琉球の将来にとつて重要なことであります。

この十周年記念が協会に新たな力を増し、会員の増加と、看護水準の改善向上による発展がありますようにお祈り致します。

注　この方は、民政府公衆衛生部に看護顧問として、新しく着任されました。

三共 SANKYO

綜合的なビタミン補給に

高単位綜合ビタミン剤

強力ミネビタール

13ビタミン・12ミネラル・肝臓エキス高単位配合
疲労回復・体力増強・妊産婦・療養者に 30錠 100錠

三共株式會社

特的代理店

那覇藥品株式会社

那覇市松尾183番地(政府前大通り)

電話 ⑧ 4183・4184

外科・皮膚科
耳鼻喉咽科・肛門科

照屋医院

医師 照屋規太郎

名護町大東区（電話七番）

内臓外科 眼科 皮膚科
レントゲン設備あり

名嘉眞医院

医師 名嘉真武豊

名護町大東区

歯科医

眞喜屋実義
眞喜屋剛

名護町字大東三六二
電話四三番

歯科

名嘉真歯科医院

医師 名嘉真武治

名護町大東区四班
電話七六番

花城医院

医師 花城清順

コザ市字胡屋一三三四

コザ病院

コザ血液銀行

院長 新垣浄治

潮平医院

医師 潮平親誼

コザ市琉銀支店裏

書籍文具

川 川端書店

川端正次

コザ市字胡屋一三四七番地

コザ病院通り

循環器科　胃腸科
呼吸器科　小児科

宮城内科

医師　宮城文雄

那覇市美栄橋町2の6
病院センター　山城時計店横入る
電話（8）4580番

内臓外科　整形外科　肛門科

中央外科医院

医師　名嘉真武護

名護町バスターミナル東隣り
電話118番

思い出のまゝ

勝連盛文

協会員の皆様、創立拾週年を迎え心からお喜び申し上げます。十年の過ぎ越し昔を想えば終戦直后で多事多難、感無量なるものがあると思います。当時はワーターワーさんの他にランデーさん、二世の金子さん達が居られたのを憶えています。古きを尋ねて新しきを知るとの諺もあるので少し当時のことを想い出してみましょう。

十年前と云えば現在のコザ病院が胡屋の部落より移転したのが、一九五二年十月で今年で丁度九ケ年、其の一ケ年前で沖縄中央病院と云われた当時に協会は発足した訳です。旧病院は四十数個の長いコンセットが緑の森の中に包まれ春ともなれば、デイゴの花が真紅に咲きほこつて如何にも看護精神を象徴するかのようでした。当時こう云うことがあった。

一、看護婦外出の際は私服を着用し一週一度外出を許可す。終戦后混頓としていた頃で事故を心配しての規則だったと思うが、今頃こんな規則をつくつたら看護婦の希望者はなくおまけに人権擁護協会に訴えられることでしょう。

二、指定の場所以外炊事用薪を置くべからず。当時は附添でも自炊を許可していた頃だからさありなん。今日は石油や電気コンロ、プロパン瓦斯等ありて薪はキャンプに使う位でしょう。

三、消毒器で芋を煮くな、食糧配給時代で吾々は芋や野菜の買出しに遠くは今帰仁や上本部、久志まで行つた事がある。芋でも夜食せないと腹が空いて夜勤も務まらなかつたと思う。今では一歩外へ出れば食堂あり、音楽喫茶ありで隔世の感がする。

四、看校生入校後一ケ月は外出禁止のこと。今日では想像も出来ない。

五、モデル病棟実施について、医師反対一〇、静観三、賛成なし、モデル病棟とは現在実施している三交代制の病棟のことです。当時は当直制でしたので三交代制勤務は医師の指示や申し送りが不徹底になり、責任の所在が判然としないとかで反対が多かつたのです。現在は八時間労働は法が保護してくれます、

十年一昔と云うがこんなに変るものか。現在は肺外科あり、血液銀行あり、断層撮影ありコバルト六〇が近く沖縄にも入るとか。研修の面では陸軍病院での臨床看護、物理療法の研修遠くは海を越えて米国あるいは本土での研修等と、看護面では恐らく水準以上でないかと思う。人工衛星は星空を飛び交し、月世界に土地を予約する気の早い話のある今日、原子力の発達と共に医学の分野も何処まで進歩するのか？ホトーギスの浪子が今頃生きて居たら「人間は何故死なないでしよう」と前言取消しをするかもしれない。

皆様の今日迄の御奮斗に敬意を表しつゝ今後の御発展を切にお祈りします。

コザ病院　事務長

酒について

公衆衛生看護学校
川上郁子

項目

一、酒についての研究動機
二、酒が個人と社会に与える影響
三、酒が治療として用いられる
四、アルコールの栄養価
五、酒の種類と成分
六、酒の肴の必要性
七、酒と肴
八、アルコール中毒について
九、アルコールによる続発、合併症
十、酒気運転の取扱例

この中で私が力を入れたのは「酒と肴」である

一、酒についての研究動機

「酒について」私が興味をもち始め、それについて考え始めたのは看護学校三年の夏休み前からのことである。あれからもう一年半にもなる。

というのは私の父が大の酒好きで毎晩酒を食事の前に何かつまみながら飲んでいた頃のある日、何かの祝いに招ねかれて泥酔の状態で帰って来たその翌朝から一歩も歩く事ができなくなつてからのことである。その時に始めて、私は酒による疾害というものの惨めさを心深く感じせしめられ、その時以来どうにかして酒による害を少しでも避ける方法はないものかと考えたのです。

酒による害を防ぐ為に最も良い方法は、まず酒を飲まないことであるが、私の父は若い頃から酒が好きで私達が「酒を飲まない方がよい」というと「酒があるから楽しいのだ」という程だつたので私もそれほど好きな酒を止めさせようとは思わなかつたし、むしろこれを適当に利用して害を防ぐ方法はないものかと考えたのです。その時に最も関係があり興味をひいたのが「酒と肴」であり、肴によつてどうにか楽しく害のない方法を知り、進めたいと思つたのが動機である。

ところが色々調らべてみると、酒についてのまとまつた資料がない事に気づき、それについて資料をまとめたいと思つたのがこの「

酒について」である。

多分に私の考えの足りなさや、文章の綴りに理解しにくいところや、矛盾したところ、或るいはもつと加えるべき大切なことを抜かしているかもしれないが、そのことについては又読者の御指導を仰ぎたい。これをまとめるにあたつて御指導を下さつた新里千代先生と玉城静子先生に深く感謝致します。

二、酒が個人と社会に与える影響

飲料酒はエチルアルコールである。エチルアルコールは胃腸から吸収され大脳を軽く麻痺させ、不安、緊張、憤、苦痛を忘れさせ快感を覚えさせ、食物は美味で、人に接しては楽しく、感じせしめるので休養、祝宴、社交に使用される。しかしながら酒に対する反応は個人差が甚しく陽気にならずに憂鬱になり泣く者もあり、狂暴になり喧嘩をしたり物を破壊する者もある。

苦痛を忘れることは同時に、責任義務をも忘れ、公私の重大な仕事を怠ることもある。感覚が鈍り、運動失調となり、自分は仕事が良く出来ると思つても、作業が不確実となつて、色々の災害事故を起す。飲酒の習慣が続くと、漸次用量を増し、飲まないではいられなくなり、遂に慢性中毒症に罹る。慢性中毒者は時々、乱酔にも及び精神は乱れ、錯覚幻覚が生じ、職場や、家庭生活に適しない精神病者となる。

日本における酒による精神病者は一般精神病の$\frac{1}{6}$パーセントをしめるといわれる。

※交通事故は飲酒した後で起しやすいといわれる。したがつて、これに関する調査研究は多いが、実際に起つた事故を一番精密に分析してえたカナダのデーターをみると、血中のアルコール濃度が〇・一パーセントになると、〇・〇五パーセントよりも事故が二倍頻発し、さらに〇、一五パーセントになると一〇倍も頻発するという。しかし〇、〇五パーセントよりも低ければ、ほとんど事故を起さないことが示された。しかしながら、実駅室内で行つた操縦能力検査からは、〇・〇五パーセント～〇・〇五パーセントの血中濃度で、すでに対照に比して二五～三〇パーセント点数が下ることが示されている。これを日本酒の量に換算して考えると、ほぼ〇・五勺にあたるから、お酌子半分ですでに事故を起す危険が強まるわけである。

このように飲酒によつて事故がふえる原因としては、精神々経活動への悪影響のほかに、視力を悪化することがあげられているので夜間酔つぱらい運転にいかに事故が多いかの理由がよくわかる。

三、酒が治療として用いられる

一、不眠の治療として

よく寝つかれない時、少量の酒を飲むと寝つきがよくなり、ぐつすり寝ることがある。これは酒を不眠の治療として用いたのであるしかし、寝つかれないからというのでずつと酒にたよることは酒の量を増すことになり、慢性の中毒をおこすおそれがあるのでよく体によくない。

二、登とウイスキー

高山では一般に気圧が低く、そのために空気中の酸素が少なくなり体内の酸素欠乏を起して呼吸が苦しくなる。こういう時、ウイスキーを飲むと体内に入つたアルコールが延髄の呼吸運動中枢、その他

の他の中枢を刺激して呼吸運動を増加させ、人々に活力を与え元気づける。

三、マツサージとして用いられる。これはスポンジ、バスの原理と同様で、その効用を利用したものと思う。

四、脳貧血などに「気つけ薬」として用いることがあるが、その効果に疑問をもつ学者もある。

五、冠動脈狭窄、その他の循環障害がある患者が適当量を飲むことは、無害であるばかりか、アルコールに末梢血管を拡張させて血液循環を助ける作用もあるというから、老人性変化がある場合に適度の飲酒をすることはかへつて有益でないかとも考えられる。

四、アルコール栄養価

アルコール類は分類上は糖質の中に入れるが、他の糖質とはやゝ異なる。しかしエネルギーの発生（一グラムのエネルギー発生は七カロリー）並びに最後にグリコーゲンとなることでは他の糖質と変りがない。ただ吸収が非常に早いので血液中に速かにアルコールが現われる。これは酒を飲むと酔うことによつてもわかる、人によつて異なるが酒を飲むと泥酔するのは、血液中にアルコールが〇・三パーセントになるとそのような症状が現はれる。血中アルコール量は尿中のアルコール量と平衡しており、酒を飲んでアルコールが血中に入り又尿中に出る。

血中からアルコールが消えるのは大体二四時間かゝる。

アルコール類の有毒度順をメチル、エチル、プロピル、プチル、アミルアルコールであり炭素数の多い程、毒性が強い。

戦後メチルアルコールを飲んで失明した人もあつた。普通の飲料酒はエチルアルコールである。

※アルコールの一グラムのエネルギーの発生は七カロリーであるが飲料酒の一グラムのエネルギー発生とは異なる。すなわち飲料酒を一〇グラム飲んだからといつて七〇カロリーになるとは限らない。

五、酒の種類と成分

種類（原料分類による）

一、ビール　（穀物酒）
二、日本酒又は清酒　（穀物酒）
三、ブドウ酒又はワイン　（果実酒）
四、焼酒又は人工酒　（穀物酒）
五、リキユー酒
六、ウイスキー　（穀物酒）

成分

一、ビール　原料は大麦、麦芽、酵毒、水で発酵させたもの、水、九〇パーセント、アルコール、四・七パーセント、糖質、五パーセント、炭酸ガスは少量

※糖質が多いから太り易く、炭酸ガスがあるから泡が立つ、炭酸ガスは胃の活動は盛んにする作用があるため、胃からのアルコールの吸収をよくする。したがつてビール中のアルコール濃度は比較的低いにもかゝわらず、かなり酔うことがある。

又ビールは腐れ易いのでサルチル酸（防腐剤）を使つている。生ビールとはこのサルチル酸の入つてないものにいう

二、日本酒又は清酒の原料は、むし米、こうじ水である。アルコ

ールニ〇パーセント前後、底温製造で新しいもの程美味しい。

三、ブドウ酒（ワイン）の原料は成熟したブドウで、それを発酵して作つたものである。アルコール、一〇パーセントに対してビール五パーセント入つている。

四、焼酒（人工酒）の原料は穀類である。穀類を発酵したものを蒸溜、冷やしたもの、アルコールは二五～五〇パーセントで最も高い酒である。

※沖縄で作られてい泡盛、その他の酒はほとんど焼酒である

ウイスキーと泡盛は古いもの程おいしい。

五、リキユー酒の原料はアルコールに庶糖、さらに植物エキスでつくられている。

六、ウイスキー（洋酒の一例）の原料は大麦、酵毒で、これらを蒸溜したものをさらに蒸溜してアルコール分量を高くしたもの、アルコール含有量は四〇～五〇パーセント前後であるが、うすめて飲むのが普通である。※洋酒とは日本酒に対して言う酒で洋酒は再蒸溜してアルコール度の高い酒ですので、そのまゝ飲むことは少くなく、ほとんどカクテルの基酒（ベース、ジンとも言う）として利用される洋酒にはウイスキーの他にウオツカ、ブランデー、ラム、テキラ、ブドウ酒等がある。

※胃腸のアルコール吸収率は一五～二〇パーセントで、小腸では八十パーセントであるアルコールは胃からも直接吸収されるか。それよりも小腸から吸収される率が多い。

六、酒の肴の必要性

「空き腹」に酒はいけないと言う。これは食物の入つてない胃には酒はよくないと言う意味である。何ぜでしよう。それはアルコールによつて胃を直接刺激し、胃潰瘍や二日酔の原因となるからというだからと言うので私達は空き腹をうめるにはどんな食物でも、ただ食べたらよい。というわけにはいかない。例えば、甘い物は酒の肴に向かないというし、又、酒飲みも好ない。これも理のあることである（酒と糖とB1のところでのべる）。すなわち、アルコールと共に食べる食物によつて、私達の身体に障害を助長するもの、障害を防ぐものもあるので、私達は酒を楽しく飲むに当つて是非とも身体の保護になり、アルコールの害を防ぐことの出来る食物を進めたいのである。それでは酒と関係のある栄養素について、次の項目で考えてみよう。

七、酒と肴

一概に酒と肴といつても色々な意味があるでしようが、私がここで述べようとしていることは、酒に関係のある食物がどのような栄養的な意味があるのかを考えてみたいと思うのである。

酒と蛋白質

まず蛋白質の特長である窒素の給与は肝臓にアミノ酸を与え、肝臓に脂肪が沈着するのを防ぐ、即ちアミノ酸には必須アミノ酸と呼ばれるものがあつて、その中に抗脂肝因子と呼ばれるものがある。

それではどのような食品を摂れば、これらのアミノ酸の供給になるかと言うと、脂肪のついてない牛肉、豚肉、卵、魚、及び大豆、豆腐等に多い。脂肪がついてないということは大切なことで脂肝因子を除くことである。しかし、肉には脂肪がついているのが普通だから、肉を摂ることは脂肪を摂ることにもなるので、その点をよく

注意して出来るだけ脂肪の少ないものを選ぶ。

※必須アミノ酸とはイソロイシン、ロイシン、スレオニン、メチオニン、バリン、フエニルアラニン、トリプトファン、リジン、で抗脂肝因子とはメチオニンである。

二、蛋白質は酸とアルカリの平衡を保つ、蛋白質は酸とアルカリの両性化合物であるから、酒を飲むと血中の酸度が高くなるのを蛋白質を摂ることによつて防ぐことが出来る。

三、肝ぞうの保護になる

吸収されたアルコールは肝臓に行く、即ち、肝臓は刺激され活発に働かなくてはいけない。そこで肝臓が充分働くだけの力がなくては肝臓はアルコールのために障害をおこす。この肝臓の働きを保護し助長するために、肝臓は必須アミノ酸を必要とする。

蛋白質を摂らなくてはいけない理由は大体以上の通りであるが、いくらアルコールの吸収のよい人でも体内での燃焼速度の速い人は、ひどく酔うことはない。この燃焼速度には肝臓の機能の良否も大いに関係する。メチオニンが飲酒時に推奨されているのは、メチオニンが肝臓の活動に必要なアミノ酸であり、したがつて、ある程度の悪酔いがメチオニンによつて防げるという考えがあるからである。

※酒を飲むと肝臓はアルコールで刺激されるのであるから、その他の刺激物で肝臓を刺激しないようにしなければならない。

例えば、辛すぎるもの、酸味の強いもの、胡椒類は少量もちいるようにする。

酒と糖とヴイタミンB1

酒は糖質に入る。御飯、パン、菓子類及び甘い物等は糖質である。この糖質が酸化分解してエネルギーになるにはビタミンB1を必要とする。糖質の多い食品を酒の肴にすると、B1の消耗を増大することになるのでよくない。ビタミンB1の欠乏は脚気の他に神経の障害特に神経痛を起し易いといわれる。そこで私達はB1を含む食品を酒の肴として摂ることは酒の酸化を促すのでよい。

ビタミンB1の含有食品は豚肉、鶏肉、卵黄、肝臓、落花生、大豆青野菜、トマト類に多い。

酒と脂肪

脂肪は胃内の蠕動と胃液の分泌をゆるやかにするので、胃の負担にならない。又、胃液の分泌をゆるやかにすることは胃液自体による胃壁の消化を防ぐため、胃潰瘍の予防になると言う人もいるが、はたしてどれだけの効果があるのかはつきりしたことわからない。

酒の肴に脂肪を摂ると、胃からの直接の吸収をおくらせ、胃の疲労を軽くする。ということになるが、「酒は肝臓で飲むものである」と言われるように酒を飲む時は、まず肝臓の保護を考えるべきであるから、脂肪を摂ることは前にも書いたように肝臓に脂肪を沈着させるおそれが多分にあるので避けた方がよい。ところが脂肪には動物性のものと、植物性のものがあり、その中には肝脂肪の予防や治療になる抗脂肝因子と呼ばれる脂肪があるので、私はこの脂肪を奨めたい。

例えば、植物油のリノール油、大豆油、落花生の油等は動物性の脂肪、ラードや牛脂よりも二倍以上の抗脂肝因子が含くまれているので、動物性の脂肪より植物性の油で料理した方が謀酒の肴にはよいのである。

又、動物性の脂肪には動脈硬化の原因であるコレステリンが含まれているのに対して、植物油は抗脂肝因子と同物質である動脈硬化を防ぐリノール酸、リノレン酸が含まれている点からも使用した方がよいと思う。

魚の脂肪は淡白のものには一般に脂肪が少なく、赤味のものには多い。淡白の魚類にはアジ、タイ、イカ、エビ等があり、赤味の魚類にはイワシ、サンマ、サケ、サバ、魚の卵ずめ等がある。

酒とヴイタミンB複合体

酒の酸化作用にはヴイタミンB1が必要であることは既に述べたので、ここでは説明をしようらくする。その他のB複合体、B12、イノシトール、コリンは抗脂肝因子である。

これらの含有食品は肝臓、牛乳、卵、酵母、野菜、魚、納豆、海藻類等に多い。

※コリンは又、蛋白質のメチオニンから体内で合成される。蛋白質を摂らなければならない理由はここにもある。

酒とその他のヴイタミン

その他肝臓の保護に関係するヴイタミンは、A、C、K、Pである。これ等の含有食品は、卵黄、ほうれん草、からしな、にがうり、人参、大根、キヤベツ、緑茶、肝臓、新鮮な青野菜及び海藻類である

酒とコーヒー

酒を飲むと、そのアルコールはアセトアルデヒドとなり腎臓から排泄される、が腎臓の働きが悪いと二日酔の原因となる。

ところがコーヒーは腎臓に働きかけてアセトアルデヒドを排泄させる作用があるので、アルコールを飲んだ明日の朝、コーヒーを飲むとよい。コーヒーの一日適量はコップの二杯。

酒とタバコ

酒とタバコは刺激物に入る。酒は直接胃に消化器外の臓器に刺激を与えることは少くないが、タバコのニコチンは直接、心臓、血管系副腎を刺激するのでよくない。

酒とタバコでは、タバコの方が害が大なのであるから日頃から過度にならないようにし、障害が起つたら禁煙、出来なければ節煙する必要がある。

結論

さて、以上は酒に関係の深い栄養素について述べて来たが、その他の栄養素も決して不必要であるとは言わない。むしろ、酒飲は日頃から酒による障害を防ぐために健康な人よりも正しい食事を充分取らなければならない。しかし、酒を飲む時は、以上の事に注意して、酒の肴を取るよう進めるのである。

以上の事を簡単にまとめてみると

一、飲料酒はエチルアルコールであること。
二、空き腹に酒を飲ないこと。
三、料理には植物油を利用すること。
四、甘過ずる食品、穀類を多く取らないこと。
五、辛すぎ、醸味の強いもの、塩すぎるものもさけること。
六、肉、魚、カニ、エビ、豆等の蛋白質の含有食品を必ず取ること。
七、野菜、海藻、根類等のヴイタミンの含有食品を必ずとること。
八、酒を飲んだ後、冷水を一―二杯飲むのもよい。

九、酒を飲んだ明朝は、コーヒー一杯飲むのもよい。

十、酒は毎日少量でも続けて飲むのは避けること。

※酒の肴の例を上げてみると、

サシミ、魚の料理、牛肉とホウレン草の料理、豆腐の野菜料理、卵を薄くあげ、その上にチーズ、バター等をのばしたもの、コンブの煮つめ、コンブの肉、ゴボウ、人参、カマボコ、ソーセージを巻いたもの、エビの料理、エビを乾燥させて味づけしビニール袋で販売されているのもよい。イカの料理等の他にキュウリ、サラダ、生野菜、茶椀むし等のようにあつさりしたものは酒を飲みおえた後の食事に好まれるので、是非与えるようにしたい。

要するに酒の肴と言つても、特別にあるのではなく、普通の食事に一寸工夫すればそれでいいのです。ただ出来るだけ動物性の脂肪を避け、胡淑、酸等のような刺激物を取り過ぎないようにすればいいのです。

※洋酒とオツマミものについて

洋酒も同じくアルコールの成分であることには相違ありませんが、日本酒と洋酒のちがいは「オツマミもの」にもあらわれる。とも言われますので一寸述べてみたいと思う。

洋酒の場合に顕著なのは新鮮な洋菜がピツタリ、マツチすることです。もちろん日本酒でも新鮮な野菜は好まれますが、洋菜よりもホウレン草、白菜、サヤベツ等が好まれるのです。

洋菜の食べ方について

洋菜にはピーマン、アスパラガス、セロリ、赤ガラス、トマト、カリフラワー、パセ、サラダ菜等はそのまゝ塩をふりかけてパリパリ食べるか、さつと湯でた後、トマトケチヤツプ、マヨリネーズをつけるかして、手軽に食べられます。

洋菜の他にツマミものとしては、クラツカー、おかき、オリーブ、さくらんぼ、ピーナツ、おくら、ソーセージ、ハム、チーズ、ベーコン、きゆうり、人参、玉ネギ、卵、ジヤガイモ等無限にあるのです。ただそれに塩、味の素、マヨネーズ、トマトケチヤプ、胡椒等を軽くふりかければそれでいゝのです。

八、アルコール中毒について

アルコール中毒には酒を飲んでいる時、又は飲みおえた後に起る急性のものと、飲み続けている内に習慣性となつて起る慢性のものとがある。まず前者のものから先に書いてみよう。

急性中毒症について

その発生速度は

一、酒の量が多い程、早く起る。

二、強い酒の場合、早く起る。

三、肴の量が少ない程、早く起る。

四、フーゼリ油の多い程、早く起る、

以上の事から急性中毒症を防ぐには右の四に気をつければいいことになる。

例えば、酒の量を少くする。強い酒を薄めて飲むか、又は弱い量を飲む、酒の肴を多くする。フーゼリ油の多く酒つた酒を飲まない等である。

では、この四つについて説明してみよう。

一、酒の量については一概に示すことは出来ない。それは個人差

が著しく、酒の種類によつても異なるからである、したがつて、どんな酒をどれ程飲むと、どんな状態になるという、酒の量を自から知る他に方法はないのである。

※一般に性格的弱点のある人、若い人は、自制力が足りないので、乱酔しがちであり、又習慣性になり易いから、酒の量には十分注意し、多くても自己を保もてる程度の量にしなくてはいけない。

二、強い酒とはアルコール含有量の多い酒のことである。例えば、泡盛はアルコール含有量が五〇パーセント前後で最も強い酒である強い順に並べると、泡盛、ウイスキー、焼酎、日本酒、ワイン、ビールである。したがつて沖縄で造くられている酒は、殆んどアルコール含有量の高い強い酒と思つてよい。

三、酒の肴の量についても一概に示すことは出来ない。酒の量が増すと、それにともなつて肴の量も増すのが普通である。したがつて酒を飲んでいる間は、酒の肴がなくなつてしまい酒だけ飲むとがう事がない程度でいいと思う。

四、フーゼリ油とはアルコール醸造時に生成されるものである、一般に悪い酒、まずい酒、といわれる酒には多く含くまれていると思つてよい。

急性中毒症の主な症状には、今、自分は酔つているという意識が無くなつてしまい、もつと酒を請求する。ちどり足でふらふらし、目はどんよりだるそうで充血している、言葉は、「呂律がまわらない」ので聞き取りにくく、同じ事を何回でもくり返す人が多い。息は酒くさい。水鼻も出る。ひどくなると、喘鳴、嘔吐、瞳孔縮少、対光反応弱くなる。時には昏睡状態となり、観る人がいないと死ぬこともある。

手当て

まず酒を飲むのを止めさせる。衣類のゆるめ、呼吸が楽に出来るような体位を取らせる。水を請求したら飲ませる。身体はほてり、皮膚血管は拡張しているので保温に気をつける。露にさらすと風邪をひき易い。唾液、嘔吐、鼻汁がある時は拭き取り、顔を横にする。その他、異常、重大と思われる場合は医師にかゝる。時には人工呼吸をしなければならない事もある。特に泥酔した者は置き去りにしないことである。

慢性中毒症について

慢性中毒症は晩酌を続ける人に多い。

その主な症状は

一、振戦顫妄である。これは手がふるえ、思うように字が書けなくなる。

二、急性幻覚症には幻想、幻聴、幻視等がある。なかでも幻視が多く実際に存在しない鼠や蟻が見えたりする。

三、コンサコフ精神病を呈する。これは指南力の低下、記銘力の低下、作話の三つである。指南力の低下とは方向、場所、時間がわからなくなり、記銘力の低下とは新しい体験を覚えることが出来ない。作話とは実際に体験しないことを、あたかも体験したように話すことである。

四、食欲減退、慢性中毒者は食欲が減じているが普通である。これは酒を絶えず飲んでいるためによる満腹感のためである。

したがつて栄養が低下しないように注意しなくてはいけない。大量

家は液体を飲み慣れているから、牛乳は好適の食事である。

五、渇酒症、これは中毒が進んだものである一定の期間をおいて大変酒が欲しくなる状態をいう。この期には酒を飲まないと苦るしく、じつとしていられない。したがつて酒を得るためには、いかなる手段も選ばず、他人に迷惑をかける。これを禁断症状といい、一種の精神病である。こうなると性格に変化を来たし、毎日がただ酒を飲みたいということに追われた生活となり、仕事のことも家庭の生活や将来のことも念頭にない怠屈した日々となる。

手当て

即時禁酒が最もよいが徐々に酒量を減らしていく方法もある。しかし、いずれも家庭では実行しがたいので入院した方がよい。

九、アルコールによる続発、合併症

主な疾病を上げてみると、慢性胃カタル、肝硬変、脂肪肝、食欲欠如、嘔吐、憔悴、神経痛、高血圧を悪化させる、心肥大、脳出血、二日酔、倦怠感、等である。

右の内で脂肪肝、神経痛、二日酔、食欲欠如については既に述べた、慢性胃カタルはアルコールの連続的刺激によるのであり、憔悴、神経痛と同じB1の欠乏のためにおこる。残りの疾病についてはこれから述べよう。

嘔気、二日酔いの時の嘔気は実に不快なもので、もう二度と酒を飲むまいと決心するが午後おそくとも夕方になるとケロリと忘れてしまう。これは胃炎をおこしたためよりも、むしろアルコールの酸化された物質が血液中に残つているため、中枢が刺激されることによつて起る。この物質が排泄されると嘘のようになおる。

倦怠感、二日酔の倦怠感はある意味では病的にはいる。それはアルコール及び、その分解物の毒作用と肝臓の疲労と腸が傷んでいるのだからだるいのである。

肝硬変、アルコールが体内から排泄されるにはアセトアルデヒドとなり、次に醋酢となり、最後に炭酸ガスとなる。アセトアルデヒドの排泄には普通二四時間かかる。このアセトアルデヒドの排泄がさまたげられ、毒素として肝臓に蓄積が重さなると、肝硬変になるという説と、もう一説は大酒家に肝硬変がよく起るということから、次のようにのべている。酒を飲むと、それ自体が肝細胞を害することもあろうが、それよりも大酒家は酒ばかり飲んで食物を食べないので蛋白質、ビタミンの欠乏を来たし、それが肝細胞の退行変化の原因となる。

高血圧症、心肥大、脳出血、まず血圧を上昇させる要素として、管の長さ、液量、血液の粘調度、血管の内腔の大きさがある。

高血圧症の人は全身の細動脈が狭くなり、したがつて血管の内腔が狭くなると共に、血管の弾力性も失つているので血流に抵抗を与えるため、心臓が無理をし、心肥大となる。脳出血は脳動脈に出血がおこつたのであり、四〇才以上の高血圧の人に多い。

しかし、飲酒中はアルコールによつて末梢血管は拡張するので、むしろ血圧は一時下降するが酔が醒め始めると、血管は再び緊張し、血圧は急に上昇し、色々な疾病をおこすことになる。

※アルコールによる続発、合併症についてのべてきたが、酒による疾病が起つたならば、自から禁酒出来る人は結構ですが、それの出来ない人、即ち、酒を急に止めることによつて夜が全々寝れな

くなつたり、すつかり元気がなくなり、仕事が出来なくなつたりする人がいる。そのような人は病気が進行性で重症でない場合は、一般的な注意と薬を服用しつゝ酒の量を感じた方良い効果をもたらすがことがあるのです。このように酒は一概に、すべての人に禁ずることはせずに症状に応じて適量の指示を医師からもらつたらいいでしよう。

この場合、酒の種類としては、いい酒、（特級とか一級酒）はいいのですが、どぶろくや、焼酒のような悪い酒、アルコール含有量の高い酒は心臓、血管系に対してよくありませんから慎むべきでしよう。

これからすると、沖縄で作られている酒は殆んど焼酒と、アルコーン含有量の高い青盛ですので、特に酒に選拓には注意を要します。その他に、心臓の悪い人の食餌指導のところで、酒と刺激物について、次のようにのべている本もあります。茶、コーヒー等の飲み過ぎは避け、少量のアルコールは時には鎮静作用があります。刺激物の強い香辛料は避けます。

これからも知るように酒は必ずしも疾病が起つたら、ただちに止めさすのではなく、それを適当に与えることによつて、良い効果をもたらすことがあるのです。

十、酒気運転の取扱例

最後にアルコール取扱について、法立によつて定められている血中濃度について述べよう。この例は日本ですが、沖縄でも通用している。

日本に於ける取扱例

一、血中アルコール含量〇、〇五パーセント以下は正気で間違いない（免されている）

二、〇、〇五パーセント以上になれば、上械嫌で始末が悪く、多くの運転手は異常を示す。〇、一パーセント以上は傍証と照し合わせて、正常を欠くものとして運法取扱を受ける。

三、〇、一五パーセントから、〇、二五パーセントの間は、ふらふらして夢中になり、〇、二〇パーセントを起えると泥酔状態になる。

四、〇、二五パーセント以上は、呆然として、ぐつたりして運転など出来ない。

五、〇三五パーセント以上は死んだようになる。

六、〇、四五パーセント以上は死亡、

ここに酒気運転についてのべたのは酒気運転による取扱いよりも、人々の血液中に何パーセントのアルコールがあれば、大体どのような状態になるかを示したかつたからである。

以上「酒について」述べて来たが、始めにも書いたように、酒による資料は少くなくあつたとしても、この本に少つと、あの本にも少しと、といつた具合で、何々か思うように進まなかつた。恐らくこれからも「酒について」色々な情報が出るであろうから、その時は又、これにつき加えていきたい。

それでも、ここまで調べ、まとめてみたことは私にとつて一つの方向を得ることが出来、大きなプラスである。

酒好きな人、又は酒好きな夫、家庭にいる人々は殆んど同じ悩み

を持ち、どうすれば酒による障害を防ぐことが出来るかを一応考えたことと思う、いや、もうすでに、良い方法を見つけ出し、各々、個々に適した方法を行つている人もあると思う。そのような人々、又は酒に関心のある人々が互に話し合い研究し合うことによつて、私達の周囲から、酒による疾病のために苦む人々が少くなつていくであろう。

参考にした本と雑誌

高等看護学講座　内科学
高等看護学講座　精神医学
高等看護学講座　個人衛生
栄養化学概論　芦田淳著
栄養概論
栄養ノート　愛育研究所栄養部発刊
栄養と料理　一九六〇年度、月不明
衛生と公衆衛生　田多田吉之介
川村達共著　南江堂
週間朝日　一九六〇年　月週不明
週間朝日　一九六一年　二月一〇
ラジオ　一九六〇年　十二月頃
捜査研究　昭和三三年　十二月号
食品化学　桜井芳人著
成人病の知識　保健業書第七集、第八六号附録慢性病の
生活教育　食餌指導昭和三三年三月号
Enjoy your Favorite Recipes　洋酒の寿屋
洋酒カクテルA　洋酒の寿屋

—完—

看護婦生活二十八年

南　洋子

痛める人々のために少しでも役立つたか解りませんが、私はこの仕事の出来ることを幸福だと思つています。

今の中学三年生の年頃にはもう病院で働きながら、僅かな手当を受けて学校へ行つておりました。

思い出すと、とても大人ぽかつたように思えます。苦学生と云ふことが私を今のように気の強い女にしてしまつたのでしよう。

過去二八年の間で、戦争の勃発した昭和十六年の暮から十七年の三月までの約四ケ月間を、家庭人として静かに暮した巻外は、全く休むいとまのない人世を過したものです。

現在も開業医ではそうですが、開業医で働いている頃は、手術場から外来、入院患者と、殆ど休む暇はありませんでした。

午前一時前に床についても、手術后の患者に起されたり、往診があつたりで、ほんとの睡眠時間は、平均して四時間ぐらいだつたでしうよか。

今日では労働基準法があつて、一日三交代制度で、週休もあつて

働く者も無理でなく楽しく勤務出来るようになりました。

戦前と戦後を通じて同じ道に進んでいると、いろいろのことを体験しましたが、去る第二次世界大戦の時、サイパン島で捕虜となつて抑留中、アメリカの軍病院で、働きましたが、亜細亜とヨーロッパの治療や看護の違いに最も驚異を感じたものです。

最初小児病棟勤務でしたが、一つコンセットに三十人の患者を収容し、四人の朝勤で毎朝九時までに（午前七時に交代）掃除と、全身清拭を済ませ、ベットの整頓をして、九時半に担当医師の廻診を受けます。

それが済むと十時におやつの時間で、ジュースが与へられます。歩ける子供達は、コップを手に持つて行儀良く並んで次ぎ〳〵マジュースをもらいます。

患者達は抑留されている日本人の子供達ですから、言葉は通じませんが、中には我侭な子がいて先にでもなろうものなら、壁に向けて立たせ、お尻をたゝかれ、皆が呑み終るまでもらえません。

子供達は病人ですがなかなか厳しい躾だと思いました。

与へられる薬は水薬は一つもなく全部錠剤だけ、有熱患者は水で清拭させられるのですつかり驚いていました。

何しろ日本式は熱があつたら氷枕をさせ体を冷やさないようにしていたものですから、私達は昭和十二年頃から、物資不足のため再製ガーゼを作り繃帯は使えるまで洗つては使つていたが、あちらさんは繃帯をはずさず鋏を入れてパチパチ切捨てるのに勿体ないと感じました。

七ケ月して、O・Bに変りましたので軍医と一諸に分娩取扱いをさせられましたが、こゝでも又びつくり。

先、産婦はすつかり剃毛され、開腹手術同様消毒を厳重にした上、消毒された被布で被い、消毒済みの脚帯をはかせてものものしいばかりでした。

そればかりでなく、分娩に使用される一切の器具は胎盤受の膿盆や、先の被布から、結紮糸までが、一つの包になつて消毒されていました。それも取出される順序にちやんとされていましたので驚いた反面、とても完全消毒であるし、便利で素晴しいと思いました。

何せ東洋式では、手術があると、その日になつてから機械を揃えて消毒しますので、手術が始つてから間違えて器具を落したり、又は揃えることを忘れると、消毒器をかけつ放しでグラグラさせながら、追加する不便さがありましたが、準備室に行けば、何時でも、どんな手術でも、不自由のないよう、各種の器具が消毒されているので安心して手術介助が出来るのは、東洋でも早速取入れるべきだなと思いました。

分娩后ある産婦が、乳腺炎を起して乳房が真赤になり、熱を伴つて非常に苦るしんでいると、主治医はどんどん温湿法をするよう指示を出したので、一寸頭をひねり冷すのでないかと訪ねましたところ、温めるんだと云われ、仕方なくどんどん温湿法をしたところ翌日から発赤は小さくなり、痛もとれたと云つていました。

あちらさんは人を呼ぶ時掌を上に向けて指を動かし、こいこいと呼ぶのも日本人と反対だが、医療までまるつきり反対の方法をとるとは、おかしいものだと同寮と話したものです。

病棟勤務は三交代で、夜勤でもぜつたい居寝りは許可されません

ので、朝まで材料作りが割当られ、合間合間は病棟を廻ります。

私は三交代制度の体験がありませんので、此の制度は患者に対して、完全なサービスが出来ることを知りました。

あれから十七年、今では何も珍らしくなく当然の治療法や看護となつているが、私達の看護の専門分野も大きく飛躍して、益々住民福祉に貢献出来ますことを、心から幸に思つています。

生まれた新産児は沐浴は致しません。消毒タオルで受け、オイルバスを済ませ、体重を測定し、足は横文字で姓を書いたテープをはめ初着を着せてベットである竹製籠に寝かせます。

沐浴は臍帯脱落まで出来ませんので、毎日使うオリーブ油とお乳の臭いで変な臭がしますが、沐浴する赤ちゃんより皮膚がなめらかで艶があり、可愛いいものでした。

赤ちゃんと、お母さんのお室は別で授乳時間以外は抱くことは許可されません。

授乳は三時間毎ですが、その間で一人が泣き出すと、三十人の赤ちゃんが次ぎ次ぎ目を覚まして泣くものですから春先の田圃の蛙の如く賑やかなものでした。

又姓だけマークした赤ちゃんが全部同じ服に同じおむつを着せられるものですから、母親を間違えるなど、飛んだエピソードもございましたので、同姓が二人以上の時は母親の姓と名を記入することになりました。

家族のお見舞は週一回ですが、それもドアの外から金網越で赤ちゃんと面接する等非常に厳重な疾病予防がなされ、今思いますに、乳児死亡率の低いのもこのへんにあることを覚りました。

特に現在の沖縄に於る風習では、赤ちゃんが生まれると、早速隣近所が集つて酒盛が始り、産婦も疲労する上、赤ちゃんに対する諸疾病の感染の危険があり改むべきでしょう。

（名護保健所　南　洋子）

我が斗病

金武保養院五病棟

中原俊明

ハイビヨウーそれはなんと悲傷でおそろしい響を伴う言葉に思えたことでしょう。そしてそれ迄全く他人ごととしてしか考えてなかつただけに、現実に自分がその宣告を受けたとき、心の中がにわかに複雑と不穏を極めたのは当然でした。

仕事柄よく法延で有罪判決を受ける被告への異様にこわばつた表情を傍らからみてきたものですが、あの心境もまたかくありなんと思つたりしました。

いきおい救いようのない地獄絵の如き斗病生活を想起して大いに悲嘆にくれてしまつたのは、かつて読んだ林美美子や堀辰雄などによつて授けられた先入主の所為だつたのでしようか。とにかくいいようのない暗い気持に襲われたことは確かですが、所詮現実に起つてしまつた以上仕方のないこととして、造物主の摂理のうちにあることを信ずるほかなかつたのです。しかしそういう陰うつな気持を

払拭できぬまゝ、反面では現代医学の進歩の前にもはや結核菌が人間の敵でなくなつたという平素のジャーナリステックなPRが、私の大脳の一隅を占領していたことも事実でした。つまり二律背反的なというか、明暗両極の先入観が奇妙に併存していたわけです。

周囲からは、「暫らく休めてよいではないか」とあべこべにいうらやむように慰めてくれる人があるかと思うと、又必要以上同情をかけられ、つい危うくブンガク少女なみに悲劇ムードへの自己陶酔におちいりそうになつたりも致しました。

ともかくも不安と諦めの交錯する中で二ケ月の自宅療養を終え、金武保養院へ入れる幸運に恵まれたのですが、しかし「療養所」という語の発する陰気さはやはり決定的に私の頭を支配しているようでした。

オーバーな表現をすれば都落ちする武将の心境（？）にも似て、いくばくの感傷と敗北感のうちに住みなれた家を後にしたのです。そして車中では、漸次受刑地へ近づくような悲惨な決意を固めながらこの保養院へ乗り込んで来たわけですが、到着すると先づ人好きのする婦長の笑顔に迎えられ、何か張りつめていた心が急になごむのを感じたのです。おそらく私と同様の心持ちで入院してくる人は少なくないと思われますが、そういう人達にとつて、等しく婦長の笑顔が最良のトランキライザーとなつていることでしょう。

早速婦長から、色々べからず尽しの、鄭重な訓話を受けると愈々病室へ通されました。そしてそこで初めてよれよれのパジヤマを着て廊下をかつ歩している患者達をみたわけですが。そのとき実に異様な感じに打たれたのを憶えております。やがてマスクを渡され、すぐかけるようにとの指示でした。それには小さく「P」と書かれています。ペイシエントという単語を思い出す前に、プリズナーという言葉が頭をかすめたのは私がちよつぴり卑下していたことによるのでしよう。しかし建物の新らしさや看護婦の親切さのせいか意外に空気は明かるく感じられ、又一見してこれが病人なのかと疑われる程に丈夫な体軀の持主の多いのも驚きでした。

そこには斗病という深刻な実感は殆どなく、むしろテーバーを適当に楽しんでいる（？）という外観をさえ呈しているようでした。

しかし私は入院後暫らくはやはりホームシツクで悩まされました家庭を離れた生活は必すしも初めてではないのでホームシツクには充分低抗力を得ている積りだつたし、おそらくは単純なそれでなく病む身の悲哀感が高じてホームシツクという形をとつたのかもしれません。しかしやがてこんな川柳も生れる程に落着きを回復しました。

◎　ホームシツク美人のナース見て癒える

日が経つにつれ、若干の予期しない頭痛の種もなくはありませんでした。その一つは、繁くきこえる飛行機の爆音や戦車の轟音でした。安静や安眠を害きれることもさることながら、最も平安なるべき療養所で戦争への実感を強要されるのは一寸たまらなかつたのです。基地と背中あわせの療養につくづく宿命の島であることを思つたのでした。

その頃の私の日記帳にこんな拙い歌が記されているようです

◎　安静時、病める肺をもゆさぶりて
　　頭上飛び交うジエット機に耐う

今一つの悩みは、療養所へ来たのは安静する為であることを百も承知でいながら、やはり単調な生活からくる退屈さを苦痛として感ずるのを免れ得べくもないことだったのです。折から世間はレジャーブームへ突入していました。ひかれ者の小唄ではないけれども、レジャーなら療養所の方が元祖なのかもしれないぞと思ったりしました。それならば私も精々転んでも只は起きるまい、閑中閑ありのこの機会をできるだけエンジョイしながら何かをものにしようなどといささか欲を出して力み返ったのもあたりの明かるい雰囲気からあながち不自然のなりゆきではなかったのかもしれません。

入院後知り合ったレスターさんという宣教師と文通をしているけれども、彼はいつもこう教えてくれました。すなわち「すべての病気やわづらいはすばやく忘却）オブリビアン）するに限る」と。たまたま、私の隣りのベットにT君という目の不自由な少年がいますが、黙々と指先で点字を追う姿は全く胸の痛みも目の闇も忘れてしまったかの如く幸福そうで、何となく神々しさをさえ伴って私の目に映るのでした。二重の病苦にくじけず、常に明かるさを失わぬ彼の生活態度が、期せずして私に大きな勇みと励ましを与えてくれたのはいう迄もありません。

私も努めてこの「忘却」を試みたのです。あるいはお叱りを受けることかもしれないが、好きな本を読んだり、ラジオから流れるモーツアルトやベートーベンを柄にもなくこよなく愛したり、夕食後のレジヤーをボヘミヤン気取りで病室内外のさゝやかな彷徨に費やしたり、あるいは心なき身にもあわれが知られたのでしょうか、インスタントな短歌や川柳を詠んでは楽しんだり、生来のガサツさにいささかでも風流さを加えることができ、そして病気をも忘れることができれば一石数鳥だと思ったものです。そんなことによって、頭上の千羽鶴の空しいゆらぎに嘆息をもらしたり、いたずらに青春のつまづきを悔いたりすることも忘れるようになり、泰然自若の境地に接近し得たことかです。

療養所は社会から隔離されてはいるが、それ自体やはり一つの小さな社会を構成し、医師、看護婦、患者、その他の人など、いろんな局で複雑な人間関係が形成されてくることは避けられないようです。しかも患者のメンタリテイは必ずしも健康人なみに正常でない場合があつて色々困難な問題があるようですが、私の知る限り看護婦の方もよくやつて下さっていると思っています。

患者は表面上のよそおいに反して、案外内心では人知れず病気に起因する暗い事情を背負っている場合が少なくないと思われます。身近かに聞知した限りでも、発病によつて愛妻に去られたとか、恋人を失つたとか、仕事を首になつたとか、色々あるようで、おそらくそういう外部からもち込まれる精神的な苦悩なしに、坦々たる療養生活を相終始し得るという人はむしろ少ないのかもしれません。そうでなくてさえ、こういう持久戦の過程ではどうしても幾度かのスランプに見舞われ、往々にして精神的に挫折をきたしがちですから、やはりこの病気に関する限り、周囲の理解とか、暖かい愛情とかはストマイに劣らず不可欠の特効薬ではないかと思います。

世界は今、月ロケットだの、人間衛星だの宇宙ブームに湧き立っています。決して悪いことではないけれども、やつぱりこの世から結核菌を絶滅する研究なり事業などにもつと時間と金と精力を注ぎ

込むことの方が、より人類的幸福に寄与するゆえんではないかという気がしてなりません。

英国の史家トインビーが、人類の幸福の為になし得べき問題を等閑し月ロケットの競争をすることは愚かである、という意味の批判をしていたと記憶します。病み以すものにはとりわけ共鳴を覚えることのようです。

テーベーが以前のような意味で不治の病でないことも確かでしょう。けれども月ロケットの飛ぶ現代において、医学がいまだこの見えざる大敵に対して必ずしもオールマイテイでないことも忘れてはいけない、つまり再びこの病気をあなどってはならないし、治癒の「王道」（ロイヤルロード）があるわけではないことを知るべきだというのが療養を通じて感じた私なりの帰結というえそうです。

（あとがき）看護協会の機関誌に何か書けとの光栄な御命令を受けはしたものの何を書いてよいのかためらいなきを得ませんでした。とにかく療養生活について思いつくまゝ、甚だ無秩序にこんな拙文を草する羽目になりましたが、あるいは意に反して病人の愚痴が混ってしまったかもしれないことを恐れています。

ルーズな療養態度がたたって、結核菌とのマイン・カンプフー我が斗争ーはいまだ果てること知らないようです。しかし幸いに、当保養院の皆様の御親切な加療看護のおかげを得て、目下のところ、わがテーベ戦線異状なしというところですが、平素のお世話に対する感謝の気持と更にすべての白衣の天使達に幸多かれとの祈りをこめてこれを閉じます。

（八月一日）

私のケースから

豊原美和子

私の駐在している処は一号線に沿つて、沖縄の中部と北部を結ぶ自然の美しい純農村である。

人口約八千が南北二十八キロの距離を持つて、住んでいるので長さの面では沖縄一長い村とのことである。

私が就住する前は一人の公看が駐在していたようだが、一九五九年八月以来分地区して北と南に別れて受け持つようになつた。

西手に広々とした東支那海が面し、東に連山を仰いで海と山と縫うように十五ケ部落が散在しているわけである。

コバルトに広がる空、紺碧に輝く海、そして紫深く映えた山々を南国持有な色彩であたりを包み、生きた絵画のコマ〳〵が展開された感じだ。しかしそういう平和な、素朴な、単純生活の中にもいろいろの問題が交叉している。私は自分が公看であることの悦びと、感謝と、誇りを常に忘れない。それ故にに自分の使命の偉大な事も自覚していなければならないのだ。

問題を一つ一つ解決していくことは最も理想的なことであつても私の能力にはそういうことは不可能である。しかし私は誠意持つて人々と共に生き、そして考えて行きたい。

TB事例（その一から）

予防注射の応援から六時に帰宅して夕食の準備を始めている処へ

U患者が三時間前に死亡したとの知らせがあった。やりかけの炊事はうちなげて制服に代えると人目も憚からず夢中で家を飛びだした四年のTB病歴持つ此の患者の家はふく木に囲まれた小さい茅葺である。二枚の赤く黒ずんだむしろを敷き、そのかたわらに三つの石がころがつていて炊事の用をたし、形のくずれた古紙箱に多小の衣類と食料品を入れて全身麻痺し変形した二十ケ年間も寝たつきりの四十歳余りの娘と二人暮しであつた。

福祉事務所から与えられる月収八ドルで二人の病人は生活していかねばならなかつた。そして絶対安静を守らねばならない重病人の老婆が炊事看護のいつさいをやむなくやつていかねばならない状態にあつた。入院依頼も何度も何度も試みた。しかし重症でしかも老人がどういゝ境隅に於れようと沖縄のTB対策に該当するはづはない。訪問ごとに私の足は重く辛つた。

福祉法で多小学んだ看護人の設置もなかなか簡単には運ばなかつた。福祉主事に依頼して看護人を雇うことがやつと許されても伝染病で貧しい彼女達に寄りつくものはいなかつた。

冬を迎え病気悪化し身動き出来なくなつて、看護人に代つて私が世話を見てやることもあつたが、次々に起る他のケースを放任するわけにはいかず、それは長くは続かなかつた。

右にも左にも動けなくなつた私は、何度かこの場を逃避しようと卑法な考えをしたことか。しかしそういうこともわずか二ケ月前にケリをつけたのだが……患者は死んでしまつた。

看護人と言つても金が目当ときてるから一日に一時間程度食餌の世話くらいのものであつた。

私が訪ねた時福祉主司が一人戸口のかたわらにころがつている死体を庭先で見守つていた。紫色に落ちふごんだ眼や頬、痩こけた冷い肉体が小さくまるで人の形とは思えない哀れな光景をうきぼりにしていた。何でも用便をたしながら戸口にころげ落ちたらしいとのことで、その臨終に居合せた者は誰一人としていなかつたようだ。

私は貧しく孤独で死んでいつたその患者の冥福を祈りながら排便の硬くなつた全身の処置にかゝつた。そうして彼女のために来世の存在を信じたかつた。人間と生れて人間らしい生き方の出来ない人こそ本当に不幸な者はない。私はこの死、このケースがこれからの私達に無駄でないように約束したい。

TB事例（その二から）

体温も平熱で気分に格別異常認めなかつたが腫れぼつたい眼と沈みがちな表情から、きつと何かゞ、たゞ事でない事件が起つていることを私は推察することが出来た。

「もし話してもさしつかえないことならお話しした方が良いと思います。気晴らしにも……」。と言う言葉に患者はよほど悲しかつたのか肩を震わせて泣きくずれていつた。

彼女は四十歳余りの未亡人である。三年前重症TBと診断され絶対安静の指示を受けながら、家庭の都合で殆んど安静は守られておらず日に日に肉体は虫ばまれていくありさまだ。

三年前夫が死に祖母が死に相次いで愛児をTBで失い、狂乱していた生活も月日がきれいに流して今では笑顔さえ見せる程立ち直つている。現在はTB卒業の小学四年生と十六歳の長男だけが彼女に残された凡てゞある。彼女は隠し持つていた小瓶を握りしめながら

昨夜から考えている自殺のことをぽつりぽつり語り始めた。

「せめて死ぬ前に一目だけでもお逢いして死にたいと思っていたが、きつと虫の知らせで」……等と言う。余りにも突然なことの運びに私は狼狽してしまった。

その動悸はこうである。

二、三日前に予約検診が、その時「病状は悪化するばかりで今の調子では治るのも難かしい」。と医師に言われたことと、今一つの大きなショックとなつたのは婦人会の予金の件だ。

この部落の婦人会ではグループ活動の一端として月二十五セント預金運動を行い、一括して婦人会長が次の部落にある村営の信協に預金している。が前夜の映写会でTBの恐ろしい感染度ということを知つたグループ会長が、此の患者から取り寄せてきた預金帳と金をいさぎよく取りのけるのを、見たという一人がこの患者に通告したものらしい。

勿論これは何処までが事実であるか知る由もない。しかしそういうことが原因でこのような事態に落ちたのは確かだ。

尚続けて言うには「そう云う映写をやつてくれた公看さんがまさか自分を見捨たわけではないと思うが、どうせ生ていてかいのない私です。子供達が生長するまでは見守つてやりたいと思う気持から楽しみにしていた預金がこういうことになるとは！、母親として何一つやつて上げられない身でその上肺病の子供と世間から後指をさゝせることは親として我慢出来ません。」と言う。

いつのまにか私は目頭があつくなつて我を忘れかけていた。しばらくして私は落着きをとりもどして冷静に彼女の言葉にメモを入れていつた。

それから二週間のあいだ私は彼女を訪問し続ける事にした。親戚すら見捨てている彼女には話し相手が必要だと思つたからである。

彼女は日増しに素直な明るさをとりもどしていつた。私は自分がした事に喜びを感じないわけにはいかなかつた。私は広い意味での生活保健指導者であらねばならないと云う事を再認識させられた。

救済扶助で生活をしている彼女には中学を卒業した長男を稼ぎにやることによつて生活の足を得ていた。重症でありながら常人の様に炊事と洗濯をよぎなくなしければいけない彼女の身の上と、病気の治る可能性に問題なく薬品を与えている事が私にとつては大きな一つの悩みの種である。それ故凡ゆる方策をこうじて入院の手続きを試みたがそれも駄目であつた。思うに現在では患者の経済状態に関係なく、早めに治れる者で伝染源となる者だけが入院の対象となつている。然し経済的に余裕があり自宅療養の可能なものはその策を取り入れ、どうする事も出来ない様な経済状態にある人達を入院させると云う方法が賢明な策ではないでしようか、（現在ではその逆の道を歩んでいる様に感がする）。そうする事によつてこそ社会福祉の本来の目的がもつと価値あるものとなると思う。

私はこのケースから我々の前に横たわる改善の必要のあるTB問題、及び次の二つのことがらを合わせて学びとつたのである。

即ち予約の済んだ後は間をおかす出来る限り早いうちに訪問すること

衛生教育は映写、幻灯にたよらず、その地区にふさをしく（教育程度や習慣）講演を主に行わねばならないということである。

TB事例（その三から）

海岸から一寸上つて来た所に豚小屋や山羊小屋が三つ四つある。その隣り合せにつぎはぎの板と古いカバの切ね端で出来ているのがY患者の家である。

始めて訪ねる人は、おそらく誰でも人が住んでいよう等とは考えるまい。

むしろ一枚程の板を一メートル高さに持ち上げてその中に寝泊りするだけが、格子戸程の粗末な壁で出来ているため隙間風が強い。うだるような夏の間はまあいゝとしても北風の吹き上げる冬ともなればいたゝまれるものではない。事実此の患者は冬になると容態が悪化する。その度に急救用としてビタミンとブドウ糖の処置で十日も自転車通いだ。

もう一つ都合の悪いことがある。

台風銀座と言われる沖縄ではその度に此の小屋はこともなくふき飛ばされてしまう。それは小さい台風がやつてきても同じことだ。だから年中何回もつくり換えねばならない。その度に彼は四十メートル離れた実姉の家に避難する。そこには彼の実母と未亡人の姉上三十七才になる未婚のTBの弟が雑居していて、賑事は凡てそちらから与えられる。

私の受持のTB患者の中で彼は十年の経歴を持つ大先輩である。十年間も病床にいると云うだけで誰でも蒼白い顔を連想するだろうが、彼は誰よりも増して豊かな小麦色をしている。それは彼が日々どういう生活をしているかを物語つているようだ。しかし彼が病人であることは病人特有な何物かで一見してうなづける。

悪化する度に後々三年だけで良いから生きのびたいと真剣な面持ちで云うがそれも一時である。恢復するとケロリと忘れて何喰わぬ顔で理屈をならべてしまう。

住いの話しをすれば豚は金になるが自分は捨ておいても拾う者はないから住いもそのまゝで良いし、豚小屋のようにかこいをつくる必要はないと言葉をさえぎる。

安静と感染源について強張すると、政府も面倒だろうから税金の節約のためにも自分が許すから毒薬を血管に刺してくれ、と、にこにこしながら云う。

此の患者とさし向うとついふき出してしまう、そして後で苦しい思いをさせられる、彼が言つていることに決して茶目ではない、彼は十年の歳月に彼が得た体験と苦悶の真実を皮肉と嘲笑で無能な指導者達に投げてるのではないだろうか。

今から十年と云えば彼が三十代の働き盛りだ。

次男である彼は隣部落の一人娘を要り、可愛い二児の父親として有望な働き者と人々から羨しがられていた頃だ、

しかし過激な労働が彼のつまづきの始まりだつた。彼は喀血によつて自分の肉体がそうとう虫ばまれている事に気がついた。絶対安静の指示を受けて初めて自覚症のあることに気がついたようだ。

彼が床につくようになつて一月二月と月日が立つにつれて家庭の不和は毎日のように続き、いたゝまれず彼は追いだされたようにして風呂敷包一つをかゝえて実家へ帰つてきたとのことである。以来つまり十年の歳月が流れたわけだ。

彼の二人の子供は母親の元で成長して小学校に通うようになつて

いたが月に一度は父親を訪ずれる。しかし無心な子供達は父親に対する愛情とか云うことでなく、取る物が見当にやつて来るわけだ。

夫を追い出した彼の妻は離婚の成立も出来ないまゝに他の男と同棲し子供までつくつてあるが、その男からも見捨てられて食うにこと欠くありさまとのことだ。

これに以たケースは私の身短かにもある。

それはもう今から三十ケ年もの昔に遡るわけだが、結婚一週間目に男の方が喀血した。

当時の言葉でいうならばいわゆる肺病に罹つたわけだ。

当時の事だからまさか現在のように抗生物質があつたわけではないだろうが、栄養、安静で何ケ年かの後回復して現在では立派な社会人として重要なポストにある。

科学的根拠がないばかりでなく社会的にも非常にいみ嫌われていた情勢の中を強く生きぬいたその妻の愛情は決してなみたいていなものではなかつたことゝ思う。

このケースにぶつかつた時、私は公看という立場は勿論一人の女性として、そして妻として考えずにはいられなかつた。

十ケ年前と三十ケ年昔とでは時代が違う。だから考え方もこれ程違つてくるのだろうか。否時代のせいにするのは野暮な卑法な考えかも知れない。

私は二人の女性の対象的な生き方を批判するために書いているのではない。

生きる事は自由であり選ぶ事も又自由なはづだ。

たゞ結核という病気が他の協力なくして治せるものでないことを私達は常に認識しなければならないということだ。

生活保健指導者はややもするとプライベイトの目境なく立入つてしまうおそれもあるが、心貧しき我々人間が人生に於いて迷いを持つことは勇者と言えどもあり得よう。

多くの事例を上げて見当を加えていくところまで引つぱつていくところに指導者の使命と価値があるのではないだろうか。

（名護保健所公看）

看護協会報告

年月日	会合	事項	場所
一九五一年一、二九	看護婦総会	モデル病棟に関する講演　真玉橋ノブ、伊保信子	沖縄中央病院
		国際看護婦協会提案の看護婦協会定款及び細則朗読	（出席者一七一名）
		沖縄郡島看護婦協会定款討議し作成委員を各地区並びに各病院より二名宛で計二十二名選出	
二、五	委員会	国際看護婦協会提案の看護婦協会定款及び細則を検討議	（二十四名）
		沖縄郡島看護婦協会定款及び細則の草案	
二、二七	看護婦総会	臨時役員選出　定款討議	沖縄中央病院（一五〇名）
		決議文を発表	
		「我々の沖縄郡島看護婦協会の成立の目的は、我々看護婦は教育又はプロフェッションとしての改善等により、我々の看基護準を高めなければならない、そして沖縄民衆の健康及び福祉に我々の能力を最善に発揮する目的である。」	
四、二七	琉球看護協会総会	役員選挙及び紹介　会員申込総数二九二名	沖縄中央病院（一四〇名）
五、二二	理事会	1. 布令に依る委員決定　病院診療検査委員	
		琉球看護婦学校試験委員　看護婦試験委員	
		2. 定款に依る委員決定	
		3. 給料に関する布令を改正するよう知事に交渉予定	
五、二九	理事会	俸給問題に就て	胡差保健所（十一名）
七、六	理事会及委員会	各委員より今後の計画及び活動状況の報告	南部保健所（十七名）
七、十	臨時総会	講演　照屋善助氏（イ）無痛分娩（ロ）人工栄養	沖縄中央病院（一三四名）
		ワニタ・ワーターワース女史　名誉会員に決定	
十一、一	理事会	免許状に就て　再教育のための講座を計画	南部保健所

十二、七　理事会　総会準備　南部保健所（十九名）

十二、十六　看護婦協会総会　沖縄中央病院（九九名）

各委員より諸報告

講演　1．新沐浴法　（奥松文子）

2．隔離技術の実演　（ランデイーン女史）

3．アメリカ視察談　（安座間弘氏）

（出版委員により「ナースの友」創刊号発刊）

中央政府に看護係設置の件

真玉橋ノブ・具志八重・二名を推選す

看護協会定款のプリント　総会開催準備

一九五二年

三、二五　看護協会総会　諸報告　北部保健所

講演　看護婦のあり方に就いて（ワニタ・ワーターワース女史）

公看に就いて　（照屋善助氏）

四、二六　理事会　福田昌子女史講演に就いて　沖縄中央病院

会員章の決定（形）

結核予防会設立について本会も協力する事に決定

八、二十　看護協会総会　諸報告　那覇保健所

講演　当山　堅一氏

竹野光子女史

映画

六、二一　理事会　看護教育指導者の計画に就いて　那覇琉米文化会館

一九五五年二、十八　理事会　日本看護協会長、林塩女史、招聘について打ち合せ

六、七　理事会　総会準備　会員章出来上る

六、十六　理事会　林会長渡航手続きに就いて
各委員より諸報告
六、二一　理事会　看護道徳律の検討・綱領案の検討
新年度予算案検討
七、二　看護協会総会　那覇文化会館
三　講演、発表会
林会長のお話し
看護の動き　（金城　妙子）
高知の公看業務について　（湧川　房子）
母子衛生について　（大城　宏美）
結核患者事例研究の一例　（上地サエ子）
脳炎の看護について　（内間　松枝）
映写―保健婦の手記
「ともしび」二号発刊
七、二　理事会　総会反省会　看護学校
七、十八　理事会　臨時総会準備
八、十一　理事会　常任委員及び布令による委員推選
十一、十　協議―名瀬市大火見舞、業務上事故の責任問題、総会のプログラム作成
十二、一五　役員推選
十二、十八　看護協会臨時総会　沖縄看護学校
講演　肺外科について　木下先生
準看護婦養成の件で医師会より政府へ要請ありそれに対し看護協会として検討し反対を声明
一九五六年五、三一　臨時理事会　厚生省医務局看護参事官金子光女史の滞在中のプランに就いて　那覇保健所（十名）
六、七　理事会　総会準備

六、十七　看護協会総会　諸報告　感謝状贈呈　表彰状授与　琉球警察学校
厚生省医務局参事官金光女史講演
公衆衛生看護学校　上江洲はる
看護学校　蘇　すやる　公看学校
国立公衆衛生院一年研究を終えて　新里千代子　公看学校
討議事項（1）協会仮事務所設置について
（2）福祉委員会を設ける　（3）支部結成案、可決
十、十　理事会　支部結成について　日本看護婦協会への加入について
十、二七　理事会　支部結成資金、その他細いプランを立てる　那覇保健所
十一、二五　第一回看護協会北部支部大会
十二、一　第一回看護協会八重山支部大会
十二、三　第一回看護協会宮古支部大会
十二　「ともしび」第三号発刊
一九五七年五、二二　理事会　五七年度総会打ち合せ　免許試験委員選出
十、二九　理事会　総会準備　公看学校
十一、九　理事会　支部の役員について討議　公看学校
金武保養院へ台風フエイによる被害見舞金について
医療人十三年忌について　布令一六二号について
看護協会北部支部大会
十二、二九　五七年度に総会を催す事が出来す役員改選が延期した事について
一九五八年二、六　理事会　ワニタ、ワーターワース女史を役員に推選することについて　那覇保健所　（八名）
免許登録の件
三、六　理事会　総会準備　規約改正案について検討　米国民政府会議室（七名）
四、五　理事会　規約改正案について検討　那覇保　（八名）
四、十二　理事会　日本看護婦協会総会へ真玉橋ノブ　（十名）

五、八	理事会	伊佐志呂子、出席決定	
五、十七	委員会	日本看護協会総会より帰沖しその報告 総会について各委員の打ち合せ	那覇保健所（九名） 那覇保健所（十名）
五、二十	理事会	総会準備	那覇保健所（十名）
五、二五	看護協会総会		那覇教育会館
		「ともしび」第四号発刊	
七、十	理事会	各委員選出　法令研究委員設置す	那覇保健所（十名）
八、十	理事会・委員会	委員紹介　事業計画	沖縄看護学校（二十名）
九、十	理事・委員長会	事業計画　予算案審議	名護保健所
十、十一	理事会	予算審議　臨時総会に於ける研究発表について	那覇保健所（十名）
十一、三十	理事会	臨時総会に於けるシンポジュウムに就いて	衛研
十二、四	理事会	臨時総会に於けるシンポジュウムに就いて	
十二、十一	理事会	臨時総会に於けるシンポジュウムに就いて	那覇保健所
十二、十七	理事会	臨時総会に於けるシンポジュウム発表について	琉球衛生研究所
十二、二二	看護協会臨時総会	シンポジュウムの内容	
		（1）結核の看護　当山　堅一氏	
		（2）適応の心理　名城　嗣明氏	
		（3）社会福祉　喜舎場信方氏	
		（4）結核と栄養　伊芸スミ子女史	
		（5）在宅患者の看護指導　富村　妙子	
		（6）肺外科の手術前后一週間の看護　長浜スミ子	
		（7）絶核療養所に於ける看護　上原　孝子	
一九五九年一、六	理事会	シンポジュウムについての反省会　並に今後のあり方	那覇保健所（十二名）
四、二一	理事会	協会事務所設置について　支部より総会出席の件	コザ保健所（九名）

布令によって看護婦は毎年登録しているがそれを研究して貰う事　衛研

五、二　委員会　総会、機関紙についての打ち合せ
五、十四　理事会　離任のバージャー民政官への記念品贈呈について
六、三　理事会　総会のプログラムについて　講演計画について
現在の会員制についての検討　規約委員より定款改正案提出
六、七　バージャー民政官へ感謝状贈呈
六、十二　理事会　予算案審議　講演内容についての検討　衛研
六、二一　看護協会総会　諸報告、役員選挙　講演会　衛研
（1）精神衛生について　名城嗣名氏
（2）整形外科看護　金城　初子
各施設別によるリクレーション
討議事項（1）日本看護協会加入について　（2）予算案審議
（3）十周年記念行事案について
七、十　理事会　総会の反省会　衛研新役員の引きつぎ　機関紙発行について　衛研
布令三四号による委員の選出
七、十七　理事会　布令三四号による委員の推選　衛研
九、四　理事会　定款第二条により書記並庶務委員設置
「ともしび」第五号発刊
九月　秋に行う予定だった研究発表会の延期について　那覇保健所
十二、三　理事会　ワニタ、ワーターワース女史の留任運動に就て
看護婦の給与改正の陣情法に就いての討議
一九六十年一、十四　理事会　研究発表会に就いて　給与改正の件　日本看護協会への入会の件　那覇保健所
二、九　理事会　準看護婦養成機関の設立があるとすれば協会はどうするか　那覇保健所

四、四　令計年度改正に伴う会費徴収の件
給与基準改正案の文書発送　職務の級の巾の変更案
三級　六級二号俸から九級まで
（看校三ケ年に一ケ年以上進学（公看学校、助産婦学校琉大委託、外国留学）者は七級一号俸から始める、
二級　八級一号俸から十級十二号
一級　十級一号俸から十二級九号
技能労務職関係職級に看護職が含まれているのを医療職へ変更要請、
四、七　臨時理事会　ワニタ、ワーターワース女史の留任運動について
四、九　臨時理事会　ワニタ、ワーターワース女史の留任運動について
五、五　理事会　ワニタ、ワーターワースさんの送別の準備
五、二十　ワニタ、ワーターワースさんの送別会、沖縄配電ホールにて
六、二八　理事及び委員長会　総会開催について　衛研
七、九　看護協会総会　諸報告、役員選挙　討議事項、看護協会定款の改正　衛研
看護協会十周年として展示会の開催について
発表会（1）精神病院事例研究　島袋　末子
（2）肺外科手術の看護技術　真玉橋伸子
（3）集団検診に就いて　照屋　キヨ
（4）小児結核の事例研究　知花　初子
七、二一　給与の一部改正　医療職関係職級表看護職
三級看護職　六級から九級まで
二級看護職　八級から九級まで
一級看護職　十級から十二級まで
七、二八　理事会

十、十二　理事会

十一、十　理事会及役員会

一九六一年一、二六　理事会

三、九　理事会

三、二十　理事会及委員長会

四、四　臨時理事会

六、三　理事会　総会に就ての打ち合せ

六、十二　事理会

六、十八　琉球看護協会総会　諸報告、役員改選　(1)看護協会十周年行事について

(2)会費値上げについて　(3)事務所設置の件

(4)看護婦及看護学校の資格免許に関する布令について(一六二号)

講演　アメリカのお話　真玉橋ノブ

日本看護協会の総会に出席　金城　サエ

しての報告　金城　妙子

七、一三　理事会　(1)看護協会の今后のあり方　(2)委員の補充　那覇看護学校

(3)十周年記念行事執行委員長会開催に就て

八、二二　理事会と執行委員長会

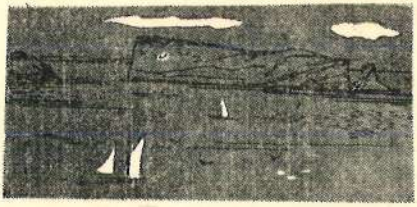
(1)十周年記念行事の各委員の経過報告と今后の計画について

(2)補充役員の紹介

十一、十一　看護協会創立十周年記念パーテイー　那覇教育会館

十一、十九　記念式典及び運動会

十一、十五　琉球看護協会創立十周年記念誌発刊予定



学生時代の思い出を語る

「第九回卒業生」座談会

一、テスト延期事件

比嘉　演劇会があつたわね。一年の頃

大兼久　シーツをまいたりスレードをかぶつたりしたものでしよう。

平良　そうそう武者小路の人間万才、皆とずいぶんけんかしたわ。

西平　あの時教務にひどく叱られたわね。

平良　どうしてだつたかしら。

西平　丁度化学のテストがある時期で劇の練習のためテストを少しのばしてくれ等といつて……教務を通さず直接化学の先生にいつたので……。

金城　でも劇もテストもがんばつてやつたわねーねるひまもなかつた。

西平　練習は苦しかつた。実習でつかれ授業でつかれそして練習でも楽しかつたわ。「学生」と云う本質的みたいなものを発揮してみたいで……

比嘉　苦しかつた。本当に苦しかつた。あんなにまでしてやらなければならなかつたのかしらと思うのに……今考えると苦しくてもやつてよかつた。よくやつたナー。自分達の芯の強さというものをみる様で社会に出て何かにぶつつかる時、あの時も頑張つたのだものと自信の様なものが湧いてくる。

川平　ほんとうね。

金城　苦は未来において楽しみとなるものである。

一同笑

二、アヒルの子

西平　あの頃学校は何か灰色に包まれていた様。学生は近代的で進歩的時々斬新な事をやつてのける。教務の方は苦の厳しい看護教育で徹底されていて、

日時　一九六一年九月九日

場所　コザ看護学校

出席者

司会　西平　弘子　コザ看護学校教務

記録　平田イツ子　石川中学校養護教諭

川平　豊子　コザ病院看護婦

比嘉　英子　公看校教務

金城　信子　那覇保健所公看

大兼久里子　東江小学校養護教諭

私はその内に立つて苦しかつた、

平良　どうもみません。学生活動も余りさせなかつたわね。西平さんだから出来たと思うけれど私はあなたのやり方は生ぬるかつたと思う。私は気性が激しいのか中途半端はいやなの、だから学生活動にそつぽをむきました。何か素直になれなかつたわ。

比嘉　自発的に行動するという事を嫌つている様だつたわね。

平良　看護婦というものは従順であれという昔の諺みたいのがいけないのよ私はね、ナイチンゲール誓詞を悩んだこともあつたわ。悪いけど。看護婦はもつともつと勉強しなければいけない。どちらかと云えば研究心が足りないのよね。赤本は一生懸命おぼえるけど、一事例に対する研究というものはされていない。

西平　私達のクラスはアヒルの子と云われてた。

金城　いやね。

大兼久　があがあやるからでしよう。

平良　でもいいわよ。白鳥だもの。みてごらんなさい。私達のクラスの人々は全部美しく、立派に仕事をやつてるわ。一同笑い

大兼久　とにかくガアガアやつたのは周囲の人々の「かん」にさわつたのでしようね。

金城　皆優秀すぎた……。一同笑

三　いねむりの大将

大兼久　いねむりの大将誰!!

平良　金城さん

比嘉　大里さん

平良　金城さんたらね、一番前にすわつてたのよ、ホラホラあの机（窓側一番前の所さす）あそこはね私と金城さんの指定席だつたわ、彼女大きな眼を開いているのだけれどいつの間にかコツクリコツクリ私は側でおかしいからクスクス勉強もできなかつたわ。

金城　いやね、そんな事

平良　有名よ……。

比嘉　大里さんも、でも彼女いねむりはしていたけど開いていた様よ。

西平　そうらしいわね、ノートはよくとつてあつたもの。

川平　宮本武蔵というところね、両刀使い。　一同笑い

比嘉　私が親切でおこすでしよう。そしたらおこるのよ。「私開いていないと思うの、ちやんと開いてるわよ」つてだから次はおこさなかつたの、そしたら「どうしておこさないの」だつて、手をやきました。　一同笑い

大兼久　ほんとにねむかつたわね。一週間位食事もとらずねむれたらナーつて思つたわ。授業中のいねむりをさますのに苦労したわ。手紙を書いたり本を読んだり、離島の人は手紙を書いてたわ。

金城　手紙を書くひまもなかなかつたわよ。いねむりをするのに忙がしくて……

西平　過労と栄養不足が原因だつたのね。

平良　今ならさしづめ「時間よこせ、栄養よこせ」つて、デモしちやうんだけどな。

川平　あの時はそんな勇気も智恵もなかつたわね。

比嘉　あんまりいねむりをするのでよく講師のクセをとりあげて、正の字を書き並べていた。

金城　田端先生をおこらせたことがあるわね。石嶺さんと何のことからだつたかしら、そうそう筋肉注射の実習のあとだつた。お尻に十字し赤チンキでかいてやつたでしよう。それを思い出してクスクス笑つてたのよ。そしたら、

大兼久　講義が中断したんでしよう。

金城　そう、こわかつた。あとでお詫びに行つた。

大兼久　そうしたらお菓子をもらつて来た。

平良　私も御馳足になりました。　一同笑

四　授業百景

西平　照屋先生の講義はこわかつた。

平良　善助先生ね、恵助先生の方が親しみ深い。

川平　試験によく新聞の記事を出題したわね。新聞も毎日よんでいないと試験は駄目

大兼久　そして後陳述はないか。

金城　苦情はないか。

平良　でも手ごたえのある講義だつた。

西平　講義内容はよくおぼえていないけれど冗談だけよくおぼえている。　一同笑

五　看護婦雑感

平良　私は病院、いや看護婦さんの雰囲気は嫌いです。

西平　どうして

平良　看護と云う仕事には尊敬もし、また自分でも好きです。人の生と死！そして人間の苦脳、その中には真実の人の姿がありますし、その斗いに協力すると云うことには意義深いものを感じます。しかし現在の看護にたづさわつている人々の雰囲気は何かしつくりしないものがある。これは口に出していうとセンセーショナールをおこしそうだからやめておきます。

金城　ずるい！

平良　でも今はでも今はいえない。でもそれだけは云つておきます。研究心がない。もつともつと研究しなければならないと思います。

比嘉　そういえば、私も一年の頃外科患者を受けもつた時、その患者の状態に対する看護のやり方がよくわからなかつたので本をもつてきて病棟で読んでいたの。こちらとしてはその患者に良い看護をしようと一生懸命だつたのに、そこにある先輩看護婦が来て「本なんかよんでいる暇はないわよ。本を読んでいる暇に掃除をしなさい」とひどく叱られました。その時のくやしさと悲しさは忘れられない。何故学生が良い看護をしようと一生懸命学んでいる時、理由も聞かずに叱るのか。それは病棟で本を読む事は悪い事かもしれない、しかし心ある人なら「何がわからないの」ときいてあげるのが親切というものではないかしら。

平良　そうね。私もよくあつたわ。看護婦さんは学生に対してはやはり、指導してあげるという態度で望んでもらいたい。たゞこき使う、とにかく一分の時間でも本を読まない討論もさせなくまるで目の仇の様にして仕事仕事つて追いまわしていた。お陰で私達三ケ年の間一つの研究もできませんでした。

金城　川平さん貴女はまだコザ病院だけど今でもそう？

川平　そうあるわ。

平良　看護婦さんとしての立場もあるでしようけれど、学生は学生らしく、もう少し理解をもつてもらいたいわね。学生の研究が実れば看護も向上すると思うのだけど、目先きの事だけ考えずに未来に大きな夢をもつてもらいたいわね。

西平　上司はとてもこわかつたわね。それから病棟での想い出は？

比嘉　看護法を習わぬうちに病棟に行かされた時、死んだ人に鼻腔栄養を施してみたり……看護婦さんがコラミンを取つておいでというのをコーラビンと聞きちがえて、一生懸命さがして叱られてみたり……

川平　患者が死ぬと家族と一諸になつて泣いたわね。

西平　後夜勤に行く時は戦争にでも行く様な気持だつたわね。

大兼久　悲愴な気持だつたわね。

平良　夜勤から帰る時の気持は何ともいえない程嬉れしかつた。これから寝なれると思うと。

六　卒　業　式

平良　卒業式ほどうれしかつたことはなかつた。解放感にみちて……

西平　私も卒業式の写真は皆、うれしそうな顔してるわね。涙流す人はいなかつたのではない？

金城　いなかつたわね。

西平　看護婦さんになつてどう思う。

比嘉　卒業して看護婦でよかつたと思います。

西平　私はまだそうは思われない。

金城　私はよかつたと思う。

平良　私は一寸ちがう

大兼久　二年生になるともうあきらめていました。

金城　看護婦さんと云うものに夢があつた。

平良　でもやぶれた。先輩看護婦に責任があるわね。

西平　私達からで夢にみた看護婦さんになりましようよ。

一同　賛成

七　寮の想い出

金城　生活の楽しみはなかつたわね。

川平　とにかく一日ねたかつた。

金城　遊ぶ暇はなかつた。

大兼久　部屋が狭くて落ちつかなくてすぐ映画館に逃げこんだ。

川平　赤い本は睡眠剤

平良　私は楽しかつたわよ。三月三日には人形をかざつたり誕生日はケーキをつくつたり。生活はどんな所でも楽しめる創意をもつてなくてはだめよ。一同笑

西平　皆余りないらしいわね。

金城　無理ないわね。時間がなかつたのだもの。

八　望みたいこと

平良　私は卒業してすぐ公看学校そして養護教諭、看護婦としての社会での経験は全くないので、一番困つたのは理論的なものに苦しみました。学校では技術より理論で仕事をしたり人と接したりする事が多いのです。養護教諭を先ず人は理論をしつかり身につけていただきたいと思います。

比嘉　表面的には素晴しいことをやつても裏面的な後片づけをしうかりやつてもらいたい。自分に与えられたものは責任をもつて最后まで。

金城　自分に悔のない様に一生懸命やること、それが最上だと思う。

比嘉　いつも思うのは、私は気がよわくて仕事の面で消極的なのでそれを直したいと思います。人を全面的に受け入れられる様にありたい。

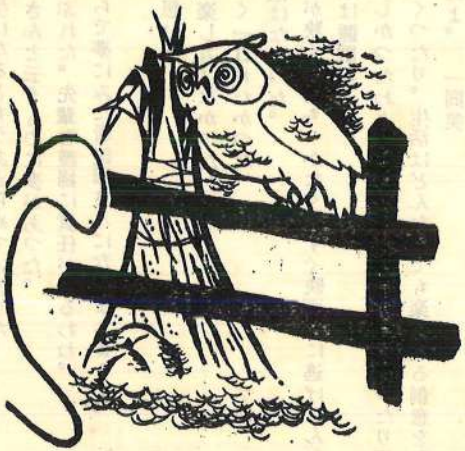
大兼久　看護に誇をもてる様になれば何も望むことはない。私は持っている心算だけどまだ自信がない。

川平　看護婦になつた事に悔はない。社会の認識を要求する。傍観者が考える様に生やさしいものではない。

西平　私が公衆衛生院の頃、受持ちの紫田明子先生に私達は学生の頃病棟実習は放りつぱなしで指導らしい事を受けず自分勝手な実習をして来たので現在臨床実習指導をする時になつて非常に困つている。もつとナースの方が指導をして下さればよかつたのにとぐちをこぼしたら先生は「私達の頃は今よりももつと未熟な教育しか受けなかつた。でもそれにこだわつてはおられない。現在はやはりやらなければいけないという様なことをを云われた事が非常に印象に残つている。私達はいろいろな面で学校の整わない時に学びそれからもう四十五年終ち、現在は現在としてそれぞれの立場で要求されている。習わなかつたら出来ません等と云えない又云うべきでないと思う。そういう点では苦労すると思うが。大兼久さんも云つているように皆で努力して誇りの持てる仕事にするため頑張りましょう。こゝらで一応終つた様ね。ではまだ頑張つていつかもう一度こうして話してみましょう。

金城　お互の向上のために

一同　賛成



世界中が保証する品質
イーストマン
Kodak. コダツク

レントゲン フイルム なら

Kodak Blue Brand
コダツク ブルーブランド

Kodak DF 58 Dental
コダツク デンタル

◎ レントゲン材料も販売致しております。
其他各種フイルム・写真機材
D. P. E

株式会社
アメリカン.フオート・サービス
コダツク製品沖縄総輸入元
牧港商業地域電099－2326
(支店)那覇市安里昭和会館内1階電⑧－1153

日本全国醤油鑑評会連続入賞
諸官廳米軍PX納入

赤 マルソウ

(宗) 具志堅味噌醤油合名会社

社長 具志堅 宗精

那覇市首里寒川町

電話代表 (8) 5151 － 5

赤マルソウ天ぷら油は
皆様の御健康に最適です

琉球製油株式会社

社長 具志堅 宗精

那覇市字安謝664の1

電番 (8) 4743

内　科
小児科　古波倉医院

医師　古波倉　正栄
医師　古波倉　正照

那覇市美栄橋（病院センター）
山城時計店横入る　電話 ⑧ 3066

整形
山田　災害　外科

山田之朗

那覇病院向い
電話 (8) 3674

主要取引先

塩野義製薬株式会社	沖縄総代理店
藤澤薬品工業株式会社	〃
山口医療器株式会社	〃
森下製薬株式会社	〃
日本蔵器製薬株式会社	〃
小野薬品工業株式会社	〃
中滝製薬工業株式会社	〃
黒石製薬株式会社	〃
長岡駆虫剤製造株式会社	〃
化血研製剤販売株式会社	〃
株式会社純正舎	〃
明治製菓株式会社	特約店
日独薬品株式会社	〃
株式会社島津製作所	〃
日本光学工業株式会社	〃

Ⓨ 沖縄薬品貿易株式会社

本社　那覇市久茂地町2丁目6番地
電話（8）5124．5125
支店　那覇市牧志町2丁目215番地
電話（8）3458

私の見た公看業務のうつりかわり

伊禮登代子

あふれるばかりの希望と夢に胸をふくらまして保健婦の第一歩を踏み出したのは、昭和十八年二月の初めで、足かけ十八年も前の事である。当時保健婦の養成は沖縄で行われず九州で只一ケ所、長崎市にあつた九州保健婦養成所へ県と村の費用で行かしてもらつていた。沖縄からは三、四年で十名の卒業生がいたが、その中三名は戦死、二名は戦後ペルーへ行き一名は助産婦開業、二名は商業に転じ、現在コザ保健所の玉城千代公看と私の二人が仕事を続けている、当時の事をふりかえつてみるといろいろの事が思い出されてなつかしい。大東亜戦争中の事とて「うめよ、ふやせよと」うむ事をほめたゝえられた時代だから仕事も主として乳幼児と妊産婦の保健指導であつた、長崎では東京都中央保健所で使われたという記録類で教えられので（当時は日本全国同じ様なものではなかつたかと思う）現在私達が使つている家庭表と同じものであつた、三ケ月が学科、三ケ月が実習で各二週間ずつ都市の保健所と地方の保健所、小学校の給食実習、農繁期の共同炊事、季節保育所、養育院、大学病院、都市と農村の家庭訪問、基礎調査等であつた。実習にまつわる多くの出来事は述べられないが基礎調査は農村の青年学校を寄宿舎にして楽しく実習させてもらつた、この実習は大へん有意義だつたと今でも思う担当地区の状況が把握出来てすぐ役立つし、いつでも良い参考になるからである。就職して最初にこの事をやり出し毎日膨大な戸籍簿と首つぴきで人口構成図や、人口動態表、衛生統計等作つたりして随分興味をもつて、仕事をしていた、農繁期の共同炊事は猫の手も借りたい程忙しい時期に栄養士を中心に、私達十数名の者で何十世帯かの炊事を引受けてやるわけで、午前三時頃起ないと、五時頃はもう朝食を受取りに来るので、いつも間に合わすのに大童だつたのを思い出す沖縄では昭和十八年十月に保健婦養成講習が行われ、四五十名の受講で三十名位が検定に合格したのではないかと思う、多くの保健婦は国民健康保険組合に勤務しており、県兵事厚生課の大宜見先生の管轄下にあつたが、若干名は、県衛生課の管轄下にあつて村に駐在していた、横の連絡は全くなく業務内容も各々異つていた様に思われる、兵事厚生課に保健婦係がおられて私達の只一つの相談相手であつた、現在琉大医務室におられる小渡静子姉がその人である。当時から那覇に保健所はあつたけれどもおそらく仕事らしい仕事はしていなかつたと思う私達は全然その内容

を知らなかつた、保健婦の先輩は一人もいなし結局長崎で学んで来たものをコツコツ実行するだけであつた、私のいた宜野湾村国民健康保健組合は書記二名と保健婦三名が常勤していたが、主任が外国帰りだつたせいか時間的観念が強く、勤務時間は時計の針の様に正確な人であつたから自然に私達も余りルーズになる事が出来なかつた、仕事の面では良く理解して下さつてトラブルを起す事がなく、保健婦の仕事は誰も指導出来ないのだから教つた通りやりなさいと云われ、就職してすぐ書類棚、薬品棚、救急薬品や器具等整備し全面的に協力された「健康は村おこしの基礎である、学校区に一名の保健婦が必要だ」と私の次にも長崎に出し、三人目の時は戦争がはげしくなつて中止されたが、その前にTBで亡くなられたのは皮肉でもあり、大きな損失でもあり悲しみであつた、就職する前には公費で行つた私達は一年間は必ず勤務しなければならない義務があつたが私はそれを三年にして捺印したのを何かしら当時の気おい立つた意気ごみが思い出されて苦笑する、連絡会や研究会などなくて只私達長崎出身だけでもと回覧ノートを作り、仕事の状況や身辺ニュース等記載して絶え間なく連絡し合つていたのでそのノートがあれば正に保健婦事業のよき記念品だつたろうにとおしまれる、私達は、時々会う事は出来たが指導者がいないので、グチやうつぷんを互にぶちまけるだけで、満足しなければならない様なまずしいものであつた。やがてこの事が保健婦係が知る様になり、定例会合を作つて研究し合う事にしようと世話して下さつていたがついに一回も会合を開く機会は訪れずに終つてしよつた、毎週連絡会をもつ現在と比較して隔世の感がある。

保健所と云うバックがなく只一人一人の保健婦が各村の保健組合におかれて仕事をしていたのだから村当局の理解如何によつて、保健婦活動も左右されたわけで、書記の仕事ばかりさせられた様な人もいたと思う、保健所がないのと、開業医を頼んでクリニックを開く予算も知慧もなく、専ら家庭訪問のみ、人口動態によつて乳幼児台帳を、妊婦届によつて妊婦台帳を、又保健組合に廻つて来る、医療請求書で慢性疾患の患者名簿をと云う風に訪問すべき台帳を作成してたんねんに訪問して廻つた、間違つた事をしたと思われるのは交通も不便、医師も少い、何もかも不自由な時代だつたから外科患者で「医者がもう来なくても良いから保健婦にガーゼをかえてもらいなさい」と云われたと云つて来たのをそのまゝ信用して不要な治療をしてやつた事である、今から思うと全く冷汗ものであるが、不安な中にも役に立つているという満足感があつたと思う、これに似た様な事を新任の公看はおこしがちなものである、人工栄養児にミルクの配給をするには保健婦の証明が必要であり、果して人工栄養児か否かを確めるのも仕事の一つだつた、私は人前で話しするのが今にも増して不得手だつたから、各字の保育所を廻つて紙芝居をして涙ぐましい練習をしたいものである、一番困つたのはまだ卒業しない中から主任が保健婦の仕事をPRしすぎ、妊婦の診察も出来、お産も取扱える等宣伝してあつたそうで帰りを期待された事である、お産を取扱わない事、診察でなく保健指導である事を説明した時「困つた事になつたな」と頭をおさえてしまわれたが、それ以上に私は戸迷つてしまつた、実際には、お産を取扱つた事がなかつたのだから……

月報は作らなかつたが勤務日誌は毎日丁寧に記載して必ず村長、助役の捺印をいたゞいていた（村長は組合長、助役は常任理事でもある）最初は村に私一人であつたから（人口一万五千位）学校に行く事は出来なかつたが、二人になつてからは時々学校に行つて衛生室を手伝つた。三人になつてそれぞれ出身校区を分担し殆ど毎日学校へ行き、トラコーマ、かいせんなどの治療を喜んでやつていたものである。乳幼児訪問には発育表と母子手帳を使つていたのでその都度記載していたから集計すればきつと良い資料が出来た事と思う

又乳児の右手首と足首の囲りを計り、月令と比較して発育の良否を推定する方法もあつた。寒い時に裸にする必要もなく良い方法だと思つたが、その後研究されていないのか、戦後その方法を聞いた事がない。沖縄県下殆どの村が国民健康保険組合をもつていて、一～二名の保健婦が勤めていたから相当数いたと思われるが一室に会する事もなかつたので知り合つた保健婦はそう多くない。医師の指導監督もなく、先輩もなく全く暗中摸索の状態にありながらも戦争と云う異常な状勢下にあつたせいか、大した不平不満もなく結構楽しく希望をもつて仕事をしていた時の事を考えると、保健所と云う大きなバックをもち、そして医師を含めて良き指導者、協力者を得て、絶えず新しい知識を補給されて働く、現在の公看は「しあわせ」と云えるのではないかと思う。

（コザ保健所看護課長）

結核在宅治療制度の悩み

名護保健所　湧川房子

戦争で土地や家又は肉身を失つた住民の裸に等しく衣食住にこと欠き苦るしい何年かが続いたが、逞しい人間の精神力は良くそれを克服して十六年后の今日では、充分とは云えないが、生活は向上し、次々と社会生活に必要な法律が制定されていくことは誠に喜ばしいことと思います。

本来保健所は治療を業務とすべき処でないが、琉球の現状は止むを得ぬ借置として、結核、性病、伝染病（寄生虫）を治療しています。

一九五四年十月、政策の一つとして、暫定要項を設けて結核患者の在宅治療制度が始められ一九五六年十月結核予防法が立法されて以来六年の歳月が過ぎ住民検診や発見された患者の治療、看護や、管理と、困難な環境の中で数多くの患者を社会復帰させていますが

その三十%は七、八、年も与薬が続けられて治癒の見通しもつかない患者、又は治療のかいもなく他界した患者もありました。

結核予防法には、肺結核、粟粒結核、結核性脳膜炎、骨結核、気管支結核、結核性膿胸腸結核等に対して、基準によつて医療が行われることになつています。

次々のべた各種結核に、パス・アイナーやマイシンの与薬は出来ても、適切な治療や看護は到底保健所の施設や人員では出来ません。

例ば粟粒結核や、結核性脳膜炎、膿胸は、毎日注射や治療看護が必要であり、骨結核はギブスが必要ですが保健所に設備がないため一担病院や開業医でギブスをはめねばなりません。

又腎臓結核の場合（殆ど開業医から届出られたもの）パス、アイナー、マイシンは与薬されるが、腎臓造影や経過観察は出来ないので、結局自己負担によるか或は医療券よつて開業医で経過観察を受けている状態です。

これ等発見された腎臓結核患者の始どが、結核と診断されるまでに一、二ケ年も腎臓が悪いとあつちこつちの開業医で治療を受け、貧困と病苦に疲れ果てているのに、フイルム代や、造影剤や、診断料等自己負担し、肺結核患者には定期的な無料による、経過観察が行はれる等、全く法はあつても平等な恩典の与へられない矛盾さがあります。

こんな患者を受持つている公看から、良い解決の方法はないかと、相談を受けますが、関係者に当つてみても、今の施設と人員では出来ないと云う結果になつています

又現在の入院制度は、排菌で中等症は入院出来ますが、重症の開放性患者は入院出来ませんので、結局狭い部屋で殆ど雑居状態のまゝ、只薬だけ与薬されて、栄養も摂れないまゝ加療を続けている患者が多いのでは、何時になつたら琉球の結核は減つていくでしようか、

公看は勿論個々の家庭に適した、隔離指導をしますが、月一回の訪問と四ケ月一回の経過観察で患者が満足するとは思えませんし、痛くも痒くもない病気では、背に腹は替えられず公看の目を盗んで働いている患者もいるものです。

これ等患者は顔が日焼けして、一見して解りますが、黙認せざるを得ません

運よく入院出来た患者は、ベツト回転制による僅か六ケ月の入院ではあるが、安静が十分出来る上、適当量の栄養が与へられ、与薬されるためか、退院時は殆どの患者が、痰の培表績成も陰性となり、体重も増加して退院するのをみますと、感染源である開放性患者は、是非入院させられるよう、施設の増設を希望して止みません

又肺結核以外の全結核患者も予防法の恩典を受け、適切な治療が受けられることを願つています。

そして保健所は、保健所本来の姿に戻つて働けるなら、公看事業も又楽しからずやと思うのは私だけではないことでせう。

（名護保健所　渕川房子）

私のノートから

砂川重子

吉田さん一家は一九五六年十二月に指導を始めたケースである。指導の端緒は中等症の結核との主治医からの連絡で、初回訪問の際、この一家の構成は世帯主、邦彦、三〇才、妻輝子、二五才長女恵子五才、長男一男、二才、の四人家族であることがわかつた。家は那覇市の中央市場裏の川添にあつて、隣りとの境は垣根もなく窓を明ければ隣の居間が見わたせると云うような密集地、六坪のトタン家、部屋は四畳一間に二畳の台所で間借生活である。押入れもなく、綿のはみ出したふとん二、三枚が重ねられてある。いかにも貧困のどん底であるかを、如実に示している。ケースは従来大工仕事で生計を維持して来たのであるが、現在は妻の行商、ミカン売りの収入で、その日その日の生計を立てゝいる。一九五七年三月に生活保護法で生活が保たれた。しかし現在のまゝの家庭、特に一間に一枚のふとんに頭を交互にして寝ているような状況で、在宅療法をさせると云うことは、結核のために一家の全滅を招くに等しく、一家を救うには病人を隔離する以外に道はないと私は考えました。さつそく福祉主事に入院を懇願したが、しかし現在の沖縄ではベット数が少ない為に、特に福祉ベットは遠い日を待つ如く、望み薄い状態なのです。こゝに私達公看に残された重大な仕事がある。公看のみではとうてい背負いきれない重い荷物です。一九五七年三月、家族検診を行い、妻、長男が軽症の肺結核と診断され、感染したのです。残された長女一人が隔離の必要な状態になり、ケース、両親、妻の両親と相談するも従来より折合が悪く、三回面接をしてやつと妻の実家に引きとつてもらう事になつた。

ケースは無口であつたが、割合に指示を守り経過良好、夫婦共に結核に対する理解もありやつと更生を予約されたように思い、私の心配した程でもなかつたと一安心していた。しかし結核は長期の療養とそれに伴う貧困も大変な事です。病状の経過よりも経済の苦しみの状態に負け、家庭に冷たい空気が漂つて来る事が多いのです。一九五九年この一家にもそれがやつて来た。家の移転が始つたのです。四ケ月毎に間借り、移転の状態、都市地区に於いては、住居の安定性のないケース程、管理に悩むことだけです。長男に軽症で一年程で略治となり、妻は一九六〇年十二月、肺手術が行われ、妻の退院后、夫も喜んで、「僕もきつと手術を受けます。」と希望を持つていた。しかし今すぐは外科不適、病巣は大きく后日に残されて、今は化学療法に頼るのみ、ところが一九六一年四月、突然に腹痛を訴えある開業医を訪れ虫垂炎と診断されて、入院することになつた。不幸にして結核性の腹膜炎のため手術の結果はおもわしくなかつた。六月に妻の来所により訪問依頼を受け、医院へ訪問した病室のベットに横たわつたケース、それは生きた人間なのかと思われる程、いやミーラのように動かず、私南洋の荒野で戦争中に屍の中で過ごした頃の想出がよみがえつて来る。科学が進歩した現在、ミーラの如きやせた患者を見る事は悲しい現象だと思つた。真黒な

顔、手足、目だけが生きている。悪臭が鼻をつき近寄るのもいやな感じがした。親、妻も逃げ去り、一人宗教の教えで安らかな眠りを得ようと、医師の治療もことわり、心臓の止まるのを待っている状態である。一時私は何を指導したらよいのやら迷つた。医師もことわつた此の患者、私は涙も出ず只茫然とたゝずんでいた。身体はやせて動けなくとも、精神的状態は強く目は生き生きと輝き何かを訴えていた。私はこのケースが訪問をことわるのではない事を感じ、今日の訪問目的は清拭である事を思い立つて訪問カバンより清拭の準備、エプロンを着て階下より湯をもらい、清拭を始めた。こうしたことが患者の気持をよくし休んでくれることであればと心に祈つた。患者の目に涙が浮んでいた。私がもつと居れたらもつときれいにして上げられるのに、でも一時的にせよ喜んでくれた時の私の気持は、公看なればこそ味わうことの出来る最上の喜びであると感じた。習日福祉主事に連絡をとり、共に医院の医師と面接す。保健所長、福祉事務所長等の相談の結果、コザ病院に入院が出来、その患者護送を上司の承認を得て行く事になつた。コザ病院に於て、完全看護で長い間の悲しみを洗い去り一日も早く退院出来る日を祈りつつ病院へ無事送つた。そして今此のケースについて、公看事業として色々と反省の余地があるのであるが、まがりなりにもケースの悲しみを少しなりとも喜びに変えることが出来たと云うこと、それは公看としての真心であつたと思う。私達は常に厚い壁にぶち当りどうにもならない制約を受けます。しかし、私の真心は無限であり、はなばなしい仕事は出来なくとも、私達の訪問を迎えてくれる人々のあることを覚える事によつて、私に仕事への情熱を与えてくれるのです。

（那覇保健所公看）

感じたまま

八重山保健所　大山ヨシ

戦争で何もかも失つた私達にただ一つ残されたものは、看護婦の資格だけでした。終戦後の凡ゆる困難の中に、同じ道を行く私達の集いとして、芽生えた看護協会がよく風雨に耐えて今日、十周年を迎えたことは御同慶の至りでございます。

この会をこゝまで育てゝ来られた歴代の会長を初め役員の方々のなみなみならぬ御苦労に対し深く感謝申し上げます。かけ離れた島で毎日の仕事に追れるまゝ年々進歩して行く医学、看護技術から取残されている私達は、暇と、経済が許すなら年毎の総会に参加して皆様の活潑な発言や討議をお聞きすることで新しい刺激になり良い収獲になると大きな期待を持ております。

去る六月通常総会に出席する機会を得た私は、お上りさんのことて広い会場に並べられた沢山の椅子を眺めて一人で満足していましたが会の閉じる迄空椅子の多かつたのに驚きました。

会場係が景気をつけるため、必要以上に並べて貰つたものかとも考えました。

これでは会長や役員方の努力は、からおどりではないかと痛感し幹部に対し済ないと思いました。

会長や役員任せの協会ではありません。会費は慈善事業の寄附とはちがいます。

いくら会長が聰明でも、如何に幹部の案が立派でも皆が集り、皆で話合がなくて、どうして所期の目的が果されるでせうか。

協会を育てゝ行くのは会長や役員ではありません、貴女であり、私なのです。

沖縄の看護業務の発展を図るのが私達の協会なのです。

十年を迎えたよろこびと誇りを持つて、この若木を皆で支え、伸して行きましよう。

この会を女だけの手で何処まで成長させ得るか一つの試金石であると考えた場合興味も力も湧いてくるというものです。

住民の一番大事な健康のお守役として、第一線を受持つ私達の仕事の重大さを思うとき、職業婦人の佗びしさなどという感傷は吹飛んで、ほのぼのとした歓びと、誇りに胸が張らむではありませんか。

「めがね」と私

丸山常子

五時半頃目を醒ますと同時に腕をのばして机の上の「めがね」を取ることから私の一日が始まります。出勤してざつと室内の片づけがすんだらこの「めがね」を「コンタクトレンズ」にかえます。裸眼視力〇・一矯正しても〇・三位しかみえないので、最近「コンタクトレンズ」を処方してもらい使う様になりました。朝は炊事やら雑用が多くてゆつくり出来ないからいつも職場に来てから交換しています。直接眼球にかぶせるので始めは仲々はめにくく、入れようとすると反射的に眼を閉じたりしていらいらしたものですが、今は鏡を使わなくてもはめられる様になりました。時々眼球からはずれて視野がぼやけてあわてたり、眼の中がゴロゴロして痛かつたりするけれど、〇・六位の視力は出るし、楽な姿勢で事務を取ることが出来るので疲れ少なく大助かりです。科学の力のすばらしさを痛感させらます、「コンタクトレンズ」を使う様になつたのは、余り近くにいて人違いした為誤解された事もあり、いつも渋面で人に接しては不快な思いをさせたり、なれた事とは云いながら時々悲しくなります。誤解された事よりも見えなかつたと云う事実が大きなショツクになつて再びこんな事を起さない為にもつと使用を思いたつたのでした。でも他自には使つているのかいないか気がつきませんから使つていない時は又誤解の招く心配もあるわけで、しよつ中「めがね」と苦楽を共しています。「コンタクト」の場合、更に「めがね」をかける必要はないのですが、二十年以上も「めがね」をかけて来た顔ははずすとまるで別人の様になるらしく小さい姪や甥達が却つてこわがる有様だし、又同僚も「おかしな顔になてからかけた方が良い」と云われので度の入らなるものをかけます。昼間外に出る時はまぶしくてとても歩けないので今度は「サングラス」にかえとければなりません。一日の中にいや応なしに四種類の「めがね」を使いわけるのですから全くやり切れません。朝は強度の近眼鏡を職場では「コンタクト」と度の入らないもの、外に出る時は「サングラス」というふうに、職場の友達が気の毒がつたり、おかしがつ

公看事業雑感

宇座厚子

一九六一年度もつかの間に半ばを過ぎてしまつた。公看学校を卒業以来も早三ケ年の月日が流れ去つた、しかし私の公看としての生活は今十ケ月を経過したばかりである、残る二ケ年間を遠く廻り道をしたのだから。二ケ年間の空日を控えての就職はひとしおならぬ喜びと共に不安はつきなかつた、しかし以前から親しみの持てる先輩や同級生が居る保健所生活に臆病な私も安外早く仕事の雰囲気に慣れる事が出来十ケ月目を迎える今日いくらか落着を取りもどしたように思う。大人の社会に仲間入りして短いようで長い長いようで短い三年間に自分自身又友も逢うごとに大人になつた感がする。自由ほんぼうな学生生活に終止符をうちどうやら学校の門をくぐり抜ける事が出来た喜びに胸ふくらませたのも束の間、私達を待つて居たのは就職難だつた、そうした結果幸か不幸か私には全く予期しなかつた学校と云う職場が与えられた、丁度その頃心身共に健康な国民の育成と云う新教育の目的達成の意味から学校保健が主要視されて沖縄にも養護教諭と云う職名が生れたからである。明るい雰囲気の中で嬉々として躍び廻る児童生徒この生徒達の健康管理の職責が私達に与えられた使命であつた。養護教諭は始めての事業とあつて文教局や学校側の婿十名に嫁一人と云つた観迎ぶりにうかぬ顔で奉職した、しかし学校保健が公衆衛生及び学校教育の一分野だとは云え生れたばかりで経験者たる先輩のいるはずがなく手さぐり同様で総ておぼつかない自分自身の尺度しか使用出来ない頼りなさにあせりを感じ一日一日が過ぎていく、無心に躍び廻る生徒と童心に返つて遊べるのがせめてものすくいで学校側で次第に理解のある所を示してくるが山と積れた学校行事と金銭徴収の雑事に毎日をおわれる教師にこの地味な仕事を理解し実施してもらうには長い才月に渡る非常な努力と忍耐が必要とされる。こうした中で養護教諭の職務を遂行していくには土台となるあらゆる保健事業を経験を通して熟知し臨機応変に物事を処理し指導する力を養う必要性を感じた。二ケ年と云う短い才月に三つの学校を廻されそのたびにのぞけし教育界の表情、そして学校と云う社会における異様な空気と微妙な感情の動きを感じた、この様な二ケ年間の貴重な体験と試練が今公看としての私の日々に励みの糧となつてくる。一人地方に放り出され底知

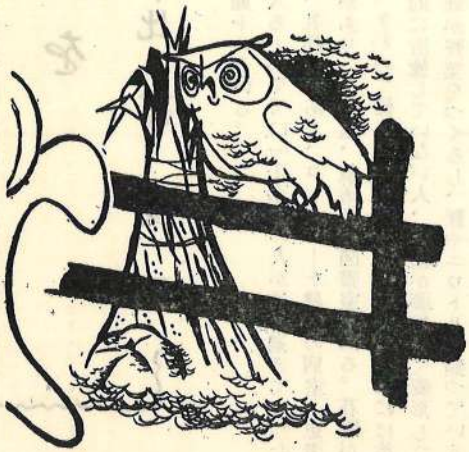
たりするけれど私にしてみれば「めがね」はもはや体の一部であつて、六時半の就寝時間を除けば「めがね」の世話になつて生活しています。便利のようで不便な「コンタクトレンズ」、不便のようで便利な「めがね」あれやこれや考えながら、これから先も何十年かを矢張り「めがね」の世話になつて生活することでしょう。「めがね」の苦労は本人でなければわからないと思いますが、同情して下さいよといいたくなります。

めがねと私、映画か小説の題名にでもなりそうな響きが致しますが深刻な気持で書いてみました。

（コザ保健所）

れぬ不安におわれながらも一日一日と地元の人々に親しみを増す楽しさ、実習中の古いノートをめくりながら訪問カバンの取扱い記録整理そして可愛い赤ちゃんを抱いたお母さん、大きなおなかをした妊婦を対象にしてのクリニックは慣れない口調で先輩に向つて指導する時のしつくりしない感にてれながらも公看としての自覚と回数を重ねたこの頃やつと自分のものになれた様に思う。しかし十周年を迎えようとしている保健所について、住民が余りにも無知で居るのにおどろく、公看事業が単にTBだけと思つている認識不足に田舎では公看の訪問を拒んだり周囲の目を恐れひそかに自己療養を続けあやうく自殺をまねこうとする人達が今だに多い、こうした私の受持地区西原村では住民の保健衛生に関する事はすべて保健所の仕事で公看に任せておけばよいと云つた誤解が濃いため部落検診や、その他の保健事業に支障を来す。一番いやな地区だつた、とは歴代公看の相言葉である事を聞くと短い期間ながらも共鳴したくなる。結核の多い現在保健所がやむなくTB予防のための治療に重点をおくと云つた偏則的な事業運営のため自然公看の仕事に対する問題点を在宅患者の件に集中されているように思う、私も他にもれず悩まされるのは長期の療養指導である、今八十名余りの患者を受持ちその一人一人を思い浮べた場合果して医師の指示による完全な療養を続けている人が何人いるかと云う事になると全く心細くなる。経済的な面倒家庭内の不和、環境、宗教と訪問により実際に家庭内の状況を知るごとに殆どのケースがこの様な複雑な問題のために療養がさまたげられている、又重症患者には殆ど入院が認められず放任の状態にされる等表向き予防をとなえながらも根本的な予防対策はなされない、こうした現状で複雑な社会の微妙な問題が大きな圧力となつて末端で働く公看事業にしわよせされてくると云つた沖縄の行政の矛盾さ貧弱さに腹立たしくなる。この様に理論と実際のギャップが余りにも大きい今日の公看事業にお互いが地区よりの問題を持ちより慰安求めいくらかでも仕事の向上を、と云うねらいで持たれる週一度の研究及連絡会、そして午后の寸時を仕事を忘れ屈託のないおしやべりや映画で疲れをいやしあすの源動力をつくると云つた土曜日は私にとつて一番楽しいそして待ち遠しい日である。沖縄の公看事業が一日も早く真の姿の公看活動にもどれる日を待ちながら……。

（コザ保健所）



愛の手を

比嘉安子

那覇ターミナルから北（一路向う……広大規模の軍施設があり、しばらく行くと嘉手納の比謝橋を渡り、この辺りから、人の通りもまばらになり、何のくったくもなさそうに、歩き方ものんびりとして、一寸旅に出た気分さえ味える。

山原ぬ旅や幾たびんさしが
見るかたやねえらん海と山と

この歌の文句にもあるように、右手に、急傾斜の山、なだらかな連山、左手に、紺碧のりようぼうたる大海原を眺めつつ、六十余キロを、約一時間三十分で名護につく。

そこから、あの広々としした羽地の田園を通り（かつて大二次世界大戦中、小学二年生の頃大謝名に疎開していた時の事を記憶にたどりつつ……）沖縄で一番長い屋我地橋が去年、チリの津波でこわれたので、その近くをくり舟で渡り、しばらく行くと、美しい自然にめぐまれた孤島、愛楽園がある。木麻黄の木の林があり瓦ぶきの古くなった看護婦宿舎、医官室、保育所、職員の住宅がある。二重の柱の支えられている門のすぐ側に守衛があり、正面に事務所がある。職員が八五名程で、現在医師三名、歯科医師一名、医介輔一名、看護婦十八名いる。

第二の門を入ると、すでに一千余名の人が通り過ぎていつた。この門を入ると、礼拝堂があり、コンクリート建ての病室、患者住宅、夫婦舎などがあり、公会堂、放送室、図書室もある。花園があり、療養者には、きわめて健康なのも多く、それは医学的には治癒しているが社会的に治癒していない人、手指が萎縮して変形しているので、この人達が野菜をつくるし、豚やニワトリを飼つている。バレーボール、野球などなどを楽しんでよくやつていて、一種の部落のようなものである。学校もあり、小学一年生から中学三年生までを、四名の教師で、現在約二五名の生徒を教えている。教師の中には、琉大を卒業すると希望してこられた方も居る。

愛楽園は、昭和十三年（一九三八年）十一月十日創立、九万七千坪からなり、沖縄救癩の目的で、昭和二年（一九二七年）に、本土より伝道師、青木恵哉が派遣された。この方が現在愛楽園の牧師であり、沖縄救癩の父であられる。愛楽園には、約一千名のハンセン氏病菌と闘つている療養者がおります。ハンセン氏病は、伝染病であつて決して遺伝ではなくしかも極めて伝染力の弱い病気である。

それは、何日とはなしに徐々に発病し、悪寒、発熱、倦怠、関節痛表弱があつても、癩の症状と思われないで済む事が多い。

斑点や結節を生じて、初めて発病に気がつく事が多く、鼻閉血が頻繁にあり、又は手足の知覚がなくて火傷したり、外傷に気がつかずに居るので発病を知る事もある。

大体結節癩と神経疼に区別する。結節癩は皮膚に紅疹、紅斑を生ずる。神経癩は四肢に初め疼痛があり、知覚過敏の所があるが、後には知覚が麻痺し、知覚がなくなる。

結核も私達が子供の頃は、ハンセン氏病と同様に、血統が悪い、遺伝する病気、不治の病だと云われていたが、ツベルクリン反応やレントゲンによる集団検診で早期に発見され、治療を受けるようになつて、結核は治ると云う事が一般に知られてくるようになり、結核が遺伝するとは云わなくなりました。

ハンセン氏病も、早期に発見し治療すれば（プロミンの注射、DDS・ダイアゾンなどの内服薬がある。）治癒する事が出来、社会復帰可能である。

どんな病気でも、初期に手当てをすれば、治るのも早いものでありこの事は、この病気についても云える。ハンセン氏病は、遺伝と云う迷信、業病だ、天型病だ、血統が悪い等々と考えている人々が、まだまだ多いのではないだろうか。決して遺伝ではないのである。

こんな例があります。

ある婦人は、夫が病気であるとは知らず、結婚して既に十年経て初めて、夫が癩病と診断され療養所に入りました。婦人は誰もがいやがつて。相手にしてくれないので、病める夫と一諸に療養所へ入れてもらいました。それから十年を経ました今日、婦人はこの病気に少しも感染していない。ところで子供が、青年になつてから発病したので、世の中の人はこう云うのである。

やはり血統だから、奥さんにはうつらないで子供に出たのだと。

現代の医学は、次のように説明している。

二十年も患者と生活を共にしても、抵抗力の強い人にはうつらない程、この病気は伝染力が弱い。抵抗力の弱い幼児が、患者と相当に長く生活を共にするので、濃厚な感染を受け、長い潜伏期の后、青年期に入つてから、やつと発病したのだ。もしこの青年が赤ん坊の時、生れたらすぐに、両親から離して育てたとすれば、決して発病する事はなかつたであろうと。

それで愛楽園では、赤ちやん生れると、すぐに両親から離して、園外の保育所で養育している。成長して普通の学校に通い、卒業して社会人に成つているのもおりますが、発病した人は居ないのである

現在の社会では、相当な知識階級の人々でも、ハンセン氏病の話になると、非常にその知識は低く、まだこの病気に対する間違つた迷信を（遺伝だ、血統が悪い、不治の病だ）信じている現状ではないだろうか。そのような人々に、救癩精神と正しいらいの知識を認識してもらい古くからの迷信を、打破してもらうのが、沖縄ＭＴＬ（Misionto Lepers）の使命ではないかと思います。

私も看護学校を卒業すると、すぐ愛楽園勤務を一年間致しました病室では、四〇度以上の高熱、神経痛のために、夜も昼も苦しみ通し、一睡もしない。そのような時、何ともいいようがなく、一時間以上もかかるガーゼ交換を、慰めの言葉もなく、たゞ黙々やつてい

るよりほか仕方がなつた。

夜勤の時は薄暗いランプの下で。巡視の時には、懐中電灯をてらして、水は井戸から、バケツではこんでくる事が始んであり、なにかと不便であつた。医療器具が少なく、専門医が居ないのには、おどろきました。医師は公務員であり、義務がおわると、始んど二ケ年すれば、去つてゆく。彼等は、専門医がきてくれる事を望んでいる療養者の全てが、この病気と診断された時必ず一度は自殺をはかり、死にきれず、隠す事も出来ずに、親、兄弟、姉妹はもとより、親族にまで迷惑をかけ、不幸の及ぶのを恐れて、苦悶のあげく、一人淋しく、この療養所への門を入るのである。そしてお見舞はもとより、お便りさえもとだえがちになり、せめて病者同志を助け合いはげまし、いたわりあつてゆく事に、生涯の希望を見い出しているのです。

「ライ病む人々（愛の手を）

老婆心

家坂リウ

むかしむかしその昔、私の若い時、小学校の先生をしていた頃の生徒木藤ゆくよさんという人が、私の家に来ました。

それは福岡からの、沖縄戦跡参拝団体に加わつて来たもので、年はもう六十二才、その他似たりよつたりのお連れが三人、それにコザ文化服学院の主任樋口先生と私を加えて六人の福岡人が五時間ばかり、楽しい時を過しとても嬉しかつたのです。思えば渡沖して三十余年、すつかり沖縄人になりきつていた私が久しぶりに故里の気分を味わつて何とも云えないなつかしさに浸ることが出来たからであります。

さてその時木藤さんは、この私に「……先生は優良先生（優良児をもおつて）だつたですからね」とじようだんを飛ばします。「まあそんなことを云うのはあなただけでしよう」と返えすと「イイエ友達がよるといつも先生のお噂をしています。もし先生が帰郷して下さるなら謝恩会をしようものをと申していますよ」という。私は申しました。「とんでもないもし仮りにそれが実現したなら、私は先づ第一に皆さんの前に頭を下げてお詫びをしなければ、と思いますよ……今だつたら少しはましな先生かもしれませんがね」といつて笑つたことであります。

戦後不思議なお導きで、その時の中央病院で看護学校の生徒さん方に、いささかの御用をいたしましたが、今にして思えばヤハリ前述の木藤さんにお答えしたと同様に皆様に対して後悔やお恥しいことばかり、相すみませんでしたと申上ぐる外御座いません。

しかし乍らこのことは私の一生の思出であり私としては尊い体験でもあり有難いことでありました。おかげ様で直接知るも知らぬも皆様方に対して近親観を持たせられなつかしい思いをさせられるからであります。今私は、もう七十六才になります自分でも驚く程年を重ねました。家で静かに暮して居りますが、種々様々な思出や感想で胸一杯の思いが致します。処で先夜真玉橋様新里様来訪され「ともしび」に何か書くようにと云はれ驚きましたが、日頃考えていること等老人の繰り言か、余計な老婆心ともなるかしれませんがと申してお受けした次第でございます。

いつ此世にサヨナラをしなければならぬ年になつて、私の思うことはやはり、信仰を持つことの重要性であります（此の際とくに申し上げておき度いことは、何の宗教でも、ということであります。今の私の世には沢山の宗教があります故に。）私のことを申しますと、私がキリスト教に入信しましたのは、遅い方でしたがそれでももう四十年になります。信仰の道も中々で「もう何でもわかりますとも悟りを開きました」とも決して云えるものではありません。私は相も変らず巡礼の旅をつづけているものでありまして、

天地の真理の光仰ぎつゝ
　我弱き足幾年か経し

○大なるもの、力に導かれ
　七十路こえて今日も我行く

といつた心境であります。でも神を知つてよかつた。信仰を持つていてよかつた。と人生の幾山河を越え、之からも尚どの様な風波が襲うて来るかもしれぬ人生に、心の支えとなるもの、道しるべしとなるもの、光明を仰ぐことの出来るものと持つたことの仕合を思うものであります。

この雑誌に「ともしび」と題名のついているのに実はびつくりしました。

それは聖書の詩篇一一九の一〇三に、

○なんぢ（神）の聖言はわが足の灯火
　わが路の光なり」とあるからです。この険しい世の中。恐しい世相、一人々の難かしい人生に一つの支えとなるもの、依り頼むもの、光明として仰ぐものを持つことは大切なことではないでしょうか。殊に人生の暮れ近く一体何を思い何を目標にこの人生を……

…とうた、寂寥に苦しむ人はないでしようか、人生の盛りに於て誤つた考えや行き方をしている人はないでしようか。種々な人生に行き悩んで希望をなくしている人はないでしようか。そういう時一番大切なこと、心から求めるものは何でしようか。オヤオヤついお説教めいて参りました。御免下さい、皆さんの中にはもうチヤンとその様に生きていらつしやる方が多いと思いますのに、ついつい老婆心が働いて……でもどうか老人のくり言に しばらく耳傾けて下さい。

○　皆さんは今尊い使命に立つて働いていられます。その自覚のもとにこそこの道を選びそしてそのために働いていられます。がもしや永年のことに馴れつこになつたり、世の様々な事にまどわされ

て、この使命をつい軽いものに思いなしていらるゝことはないでしょうか。本土で先頃あつた争議のよしあしは申しませんが。そのことについての批判に「……ナイチンゲールの精神は、もう消えうせている……」と云うのがありました。それを聞いた時私はイヤそんなことはない。いかに世の中が変り乱れていてもその様なことがあるものか」と心で叫び度いように思いました。

昔故里で主人が開業していた頃のこと、よく患者さんから感謝の言葉を載きました。しかし多分ご愛相でしよう位に思つていましたが、或時主人が一ケ月位家を留守にしたことがありました。折悪しく子供が赤痢にかかつてどんなに不安に心細く心配であつたことでしよう。そしてその時お世話になつた先生や看護婦さんにどの様にあり難いと思つたことでしよう。今までごあそと思つていた患者さんのお気持はうそでなかつたと悟つたことを今でも思い出します。皆さんは今も尚その様にわびしく病める人々から神様のように思われていらつしやいますよ。どうかこのことを忘れないで下さいませ。戦前那覇で開業していられたあるお医者さんは、大衆から大変な信望のあつた方ですが、御診察の体度から注射なさるでも祈り心であられたと聞いております。

○若い方々に申します。とかく隣りの雑炊は美味しいと云いますが、今度も大笑いしました、家の二年生の孫が「おばあチヤンは何でも美味そうに食べるね。僕もどんなに美味しいかと思つて昨日おばあチヤンの御飯（私は体のために押麦を一人分だけ炊きます）をチヨツト食べてみたが美味しくなかつた。というのです。皆さんも一旦自分で撰んだ道ですものどうか誠心こめてこのお仕事に打込んで下さいます様に。「一心に働く姿が一番美しく尊い」と申しますものね。

○今の世は共稼ぎという言葉より職業婦人といつた方が適切な位に婦人の働くことはもう当然のことになつていますが、さてその家庭は！子供の教育は！（勿論独身の方は別として）ということになると問題があると思います。皆さんは此点もうまくやつていらつしやるかと思いますが、こゝに心にかゝる例を申し挙げて見度いと思います。

1. 夫が失業、妻が働くことになる、男子は生来家事と育児には向かぬもの、妻から托された幼児を抱えて途方にくれた。致し方がないので何んでも子供のいうなりにした。三年経つて夫の就職が定まりホツとして家に落つくことになつた妻はしつけも何もない為に手を焼いた。我侭一杯の自分の思い通りにしないではおかぬ為、自分の家も他家のけじめもつかぬ野放図な為となつて近所のつまはじき、満六才になつて幼稚園に行つているが之をどうして普通並の子供に出来るかと頭痛の種子。

2. 昔東京でのこと、よい生活をしていた一家の主人急逝、夫人は身につけた生花を活かして師匠となり各家庭をめぐつての出教授、あとにのこつた六年生の娘さんと三四年の二人の男のお子さんの日常を私はしみじみと考えさせられたものです。

3. ある人々のこと。子供に高級な玩具は与えてある、立派な服装はさせてある、女中もおいてある、しかし夜ねる時も朝起きる時もこの子はきまつて大声で泣く、時には叫び声さえあげる。しつけも何もない、学校もダメところがその母親は云う「幼い時はお金で

十分の事をしてやればよい将来のことを思つてウンと今のうちに稼ぐたのだ」と、豈計らんやこの子の寂しさ物足りなさの思いの芽はどのようにぐんぐん伸びて行くことでしょう。

4. これはアメリカでの話、若い夫婦があつた夫は会社に妻は先生五才の子供がある。適当な手伝がなくて困つていた。どうしても今暫く共稼ぎをつゞけ度い。この新聞広告を見て来てくれた人は六〇才位この婦人はよい家の人でしたが或事情があつて此家に来たのですが申分のない留守番と子供をまかせらるゝ人を得たと大喜びだつたがやがてその老婦人は息子さんが引きとつて行つた。

5. これは親の誤よつた教育方針の例、私の亡き主人の兄上のこと。男四人女三人の幸福者、自分が医者であるからと云つて子供を皆医者にして将来は大きい綜合病院を造つて大いに発展し度い夢を持つていた。長男次男は運よく昔の高校から帝大を卒え博士号もとつて順調に思い通りに行つたが、三男は絵が好き、それをどうしても親の思い通りにしたいため無理な勉強をさせて遂に結核になり早世、それでやつと目がさめて四男は本人の望むまゝにさせた。女の方も医者の嫁にしたり女子医学に入れたりしたが病気で中退したり今度の戦争で夫を亡くしたり、かくして兄上の理想はむなしく今はや此世の人ではない。

あれを思い之を思う時、子供の将来を思い願うのは親の真情とは申せ考えさせらるゝことでありますね。

なお金のことについて、今更物資の大切なことは申すまでもありません。信仰があるからと云つて物質的なものを決して粗末には思いません。しかし大切なことは

聖書のマタイ伝六ノ33に

先づ神の国とその義とを求めよ
さらば凡てこれ等のものは
汝らに加えらるべし。　とあります。

何よりも先づ精神の問題を考えよ。ということと思います。私に小学校一年からの親友があります。お互に遠くはなれてはいますが時折の便りに友情は絶えません。先日の手紙に「……私は幸い物質的に恵まれてはいるが心はカラッポよ、あなたは信仰があり羨ましい私はあなたに負けた。」とありました。勝つのは負けるということでなしにこのことから思つて物以上のもの、あることを思つてみたいと思いますね。私にもう一人の心の友があります。この方は二人の愛児を病死させ御主人とも死別して天涯孤独であります。「お寂しいでしょう」といえば「人様は皆そう仰言るけれど私はヤセ我慢でもなく虚勢をはるでもなく神様と一諸ですもの少しも寂しいとは思いません幸に健康にめぐまれていますから」とのお答えです。今も北部で教会の婦人会やSSの御奉仕をなさつている。「それでももし立てなくなつたら……」といえば「それはきつと神様が御配慮下さるでしょう」と安心の境にいられることが羨ましさ。あとの事は神様がよくして下さるなどと云えばいかにも迷信めいて聞えますが、この友人は信仰による賢い知慧を与えられていますから、すべての心準備は出来ていると信じます。聖書の箴言に「神を畏るるは知識の本源なり」とありますから。それに比べて故里の私の友はどうでしょう。神による富と豊かさを知らない可愛相な人といわねばなりませんね。

アメリカのオーラル・ロバーツという先生はヨハネ書第三の二節を基として、先づ魂の栄えから芽を出して物質的にも正しいまことの栄えがひろがるものとわかる。と教えていらるゝ。

神を知るにはイエスキリストを知ること。それには聖書が凡ての証明だと教えられます。

○人生をいかに生きるか。

○死後の世界のこと。が主なる趣旨と思いますが、ヘブル書九章二十七節に

……一度死すること、死にて后審判を受くることは定まれり」

とあります。

ついつい老婆心が働いていろいろ申上ましたが失礼ではなかつたかと思われます。お許し下さい。

以上書いて又考えさせられました。もしや働く婦人の悪口でも書いたようにとられはしまいか、という気がかりでありますのでもう少し申させて下さい。私の家では嫁は熱心に家事も子供のこともやつて居ります。又夫の仕事の手伝いも出来る事はよくして居ります私は傍から見て「これも一種の共稼ぎたナ」と感心しますが、世が変り家の事情も変りそして健康もゆるさるゝなら又外に出て働くことになるかも知れません。それで要するに文子も加えて働いていらるゝ皆さんに余計なことながら心の問題の大切なことも考えてみて下さいと申上たかつたのであります。

終りにどうか皆様お体を大切にして十分職務に忠実に沖縄の医療界に御貢献下さるようとお願いいたします。そして各々御自分のため御家庭のため積極的に希望と喜びを以て雄々しく御進下さらんことを御期待いたします。

いよいよペンを措こうとしてまたも思い出すことがあります。老人のくり言とお笑い下さい。此度の戦争ほど世の中に変転を来らしたことは御座いませんね。私の親戚のアチコチに没落一家が多いのです。いかなる場合にあつても変ることなき真理を親から子へと持ちつゞけて行つたらこうまで落ちぶれずにすんだのではあるまいかと悔まれてなりません。米国のロツクフエーラーの御子様方に示した家庭教師の精神が今日も栄ゆる国家の仕合を来したと思う時おろそかに出来ない問題だと思いました。

教育委員会報告

蘇　ス　ヤ　子

本年六月開催の総会に於て、教育委員会は二つの事業目標を掲げました。即ち

1　看護協会を魅力あらしめるには

2　看護婦の良きチームワークを計るには

との事でした。目標を達成するための一つの手段としてアンケートを全員一同に配布、各位の思考をもとめ、之を参考資料として、看護のあらゆる分野の活動に指標ともなれば……とのねらいであつた事はすでに総会に於て中間発表を行つておりますので御承知のことと存じます。

さてその後皆様方の熱心な回答によつてようやく集計する事ができましたので、その結果を発表いたします。始めての試みで委員自体が質問内容形式等不馴れで満足なアンケートを作製する事ができず御迷惑をおかけいたしましたが、にもかかわらず御協力下さいました方々が予想にほぼ近い半数に達しましたことが満足に思われます。会員半数が次記に示す通りの種々の感想を申し述べているわけですから会員各位は勿論各施設の要職にある方、本協会の役員委員教育担当者並行政関係の方等自分の職責、任務を通してそれぞれの分野に於て参考にされ又各人相寄り問題点の追求等研究会まで発表の運びとなれば教育委員の喜びは勿論ですが熱心に感想を寄せられた会員の喜びは一しほと存じます。小さな葉末のつぶやきが大樹とゆさぶる結果と夢みております。

静かに充実した看護のあゆみと本協会の躍進的な運行とを期して今後の各会員の奮起をうながすよすがにもなればと思つております。

アンケート提出状況について

施設名	発送数	提出数	提出率%
愛楽園	25	8	32
名護病院	16	10	63
金武保養院	53	26	49
琉球精神病院	15	7	47
コザ病院	85	28	33
那覇病院	82	56	68
赤十字病院	27	12	44
兼城結核科学研究所	26	14	54
精和病院	6	5	83
宮古病院	17	10	59
八重山病院	17	9	53

施設名	発送数	提出数	提出率
南静園	11	6	55
診療所	7	2	29
名護保健所	33	19	58
コザ保健所	42	18	43
那覇保健所	57	27	47
宮古保健所	15	11	43
八重山保健所	15	11	43
コザ看護学校	4	4	100
那覇看護（公看校含む）	7	6	86
公看学生	25	15	60
其他のナース	15	1	7
計	600	305	51

球球看護協会に対する感想

年令別	20～29			30～34			35以上			年令不明			合計	
職名別	看臨	看公	計	看臨	看公	計	看臨	看公	計	看臨	看公	計		
（アンケート結果） アンケート提出人員	159	34	193	28	12	40	13	14	27	35	10	45	305	%
1. 協会定款ついて														
イ. よく熟読し，内容に精通している	3	0	3	1	1	2	3	1	4	2	0	2	11	3.6
ロ.目を通しているが内容にあまり通じていない	80	21	101	15	10	25	7	8	15	19	6	25	166	54.4
ハ.全く目を通したことがない	76	13	89	12	1	13	3	5	8	14	4	18	128	42.0
2. 協会活動について（魅力あらしめるには）														
イ.現在の活動状況で満足している	3	0	3	1	1	2	3	0	3	2	0	2	10	3.3
ロ.活動状況は普通と思はれる	29	10	39	10	4	14	3	5	8	14	2	16	77	25.2
ハ.不活発であるから考慮する必要がある														
A 役員の選定法に問題がある	9	0	9	2	0	2	0	0	0	0	1	1	12	3.9
B 会員の認識不足にある	75	12	87	10	1	11	1	5	6	8	1	9	113	37.0
C 会費が僅少だから	9	1	10	0	3	3	0	0	0	0	0	0	13	4.3
D その他	5	0	5	2	1	3	3	1	4	4	0	4	16	5.2
ニ.分らない	29	11	40	3	2	5	3	3	6	7	6	13	64	21.1
3. 現在の会費額について														
イ.会費は多い	18	2	20	5	0	5	1	0	1	3	1	4	30	9.8
ロ.会費は適当である	71	20	91	21	8	29	8	10	18	17	6	23	161	52.8
ハ.会費は少ない	15	6	21	1	2	3	2	3	5	6	0	6	35	11.5
ニ.分らない	55	6	61	1	2	3	2	1	3	9	3	12	79	25.9

年令別 / 職名別	20～29			30～34			35以上			年令不明			合計	
	看臨	看公	計	看臨	看公	計	看臨	看公	計	看臨	看公	計		
（アスケート結果） アンケート提出人員	159	34	193	28	12	40	13	14	27	35	10	45	305	%
4. 貴女が役員又は委員に選定されたら														
イ.喜んで奉仕する	13	1	14	1	0	1	1	2	3	4	0	4	22	7.2
ロ.あまり気はすすまぬが仕方ないから引受ける	15	5	20	6	3	9	3	2	5	1	0	1	35	11.5
ハ.待遇改善されたら引受ける	25	3	28	2	0	2	1	0	1	3	1	4	35	11.5
ニ.待遇改善されても引受けない	44	11	55	13	4	17	5	5	10	15	3	18	100	32.5
ホ.分らない	62	14	76	6	5	11	3	5	8	12	6	18	113	37.0
5. 協会入会動機について														
イ.看護婦の地位利権確保のため	39	7	46	5	2	7	5	3	8	8	2	10	71	23.3
ロ.看護の理念を追求.自他共に資質向上のため	76	21	97	14	8	22	5	7	12	17	6	23	154	50.5
ハ.分らなかつたが先輩友人にすすめられて	15	2	17	4	0	4	2	0	2	2	0	2	25	8.2
ニ.強制された感じ	20	3	23	1	1	2	0	1	1	4	0	4	30	9.8
ホ.多くの方と親睦の意味で	9	1	10	4	1	5	1	3	4	4	2	6	25	8.2
6. 協会に入会してみて如何に感じているか														
イ.入会してよかつたと思う	55	16	71	15	9	24	12	7	19	15	3	18	132	43.3
ロ.つまらなく思うが仕方なく入会している	30	4	34	8	2	10	1	1	2	7	4	11	57	18.7
ハ.分らない	74	14	88	5	1	6	0	6	6	13	3	16	116	38.0
7. 日本看護協会入会希望について														
イ.非常に希望している，是非入会したい	103	26	129	22	10	32	8	8	16	21	4	25	202	66.3
ロ.皆が入つたら仕方がないから入る	9	4	13	1	0	1	0	1	1	2	3	5	20	6.6
ハ.入会したくない	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2.0
ニ.分らない	41	4	45	5	2	7	5	5	10	12	3	15	77	25.1

看護協会に対する要望（　）内は感想文）

1．理事会に対して

1．協会活動状況に関するもの

	年令別 20～29	30～34	35以上	年令不明	計
イ．協会事務所を一定し，常任事務員をおき，連絡を密にしてほしい。	13	1	1	3	
ロ．会員全体にP・Rしてほしい（活動状況に通じてない。下部組織えの滲透教育の徹底。幹部のみの会合の如き感。下部組織の意見聴取対策。各委員会の報告を具体的に。役員並会員の熱意がたりない。発言低調に対する対策等）	116	10	3	8	
ハ．支部活動をもつと徹底させる対策をしてほしい。（会員全体活動参加を目的とする）	11	4	0	2	
ニ．総会を多くしてほしい。一回のチヤンスは業務の都合上めぐまれず（殊に臨床に多い）	26	4	0	0	
ホ．役員・委員の待遇改善をしてもつと活動してほしい（年休にしない方法を政府に折衝しては如何。政府公務員医師会の会合は年休をとつてない）	55	6	9	7	
ヘ．総会開催前，少くとも一ケ月前に連絡してほしい（年次計画，新年事業等の討議事項も通知し発言の活潑化を計る等）	8	11	7	8	
ト．総会の集合時間観念を何とか啓蒙する方法はないものか（会員協力をうながす法）	8	9	2	6	
チ．社会にP・Rして考えてほしい（もつと他団体と連絡してほしい。看護の小世界に閉じこもりすぎる。総会を同一場所で開催せず，北中，南部の地で催してほしい。地域P・Rの上から。協会顧問の方、専門外からも，求める制度は如何。社会の思想普及は未だ低調）	37	15	8	16	

2．協会会費について

イ．会費増額に賛成（会員福祉のため、満足のために活動してほしい。官公労に比して増額賛成，自分の会合だからもつと活潑化を。年額二弗にして月額納入策。新会員年額四～五弗旧会員二～三弗にして月額納入。教職員の如く共済	64	16	8	11	

制度をとり，退職時の積立，貸出し売店等による利潤を上げ之によつて会運営をなすこと。月額二～三弗納入）

年令別	20～29	30～34	35以上	年令不明	計
ロ．会費は現額にて可（現状活動上からみて。各種団体と比較して十六年以上。増額の考えよりもつと会員かくとくに努力せよ）	8	0	1	0	
ハ．会費増額に不賛成。もつと少額に（現状活動上からみて。月給と比較して。新旧会員共に現額の半額にしてほしい。休会制度をとつてこの間会費を徴収したい）	3	1	0	1	
ニ．会費については解らない（現状活動がよく分らない。役員会におまかせする）	16	1	0	1	
ホ．会費使用の恩恵は本島離島同一か否か離島は送料を考慮してほしい。	1	0	1	1	

3．日本看護協会入会について

イ．当然入会すべきである。是非入会することに努力してほしい（業務並十六の資質向上。人間的交流。しげきを求め視野を広げたい。利権（地位・資格・待遇）のかくとく。国民感情等）	91	5	5	9	
ロ．入会したらどれだけの利点があるか疑問。又何の目的で（具体的に知りたい）	6	0	3	0	
ハ．時期が早すぎる，もつと本協会を充実させてから入会した方がよい。	5	0	0	1	

4．その他

イ．協会会館設置をのばす（会費増額年次計画積立によつて）	5	0	0	1	
ロ．看護専門研究の集りだけでなく楽しい協会としてのリクリエーション，スポーツ等の集会も考えてほしい。	13	2	0	3	
ハ．離島会員も多く出席できるよう運動してほしい（旅費は自費でも年休でなく出張制度による方法。又出席できない会員には速に詳明な連絡方法を考慮してほしい。中央同様の恩恵がほしい）	12	4	3	5	
ニ．お互に苦しくとも自分の会のために手をとつて進んで行こう。（会員は喜んで自発的に役員に協力し。会員は自覚すべき．役員にたよりすぎる）官公労を見習えといいたい。	10	0	1	2	
ホ．親睦，業務責任の再認識，地位利権の確保，団結の中の安心感等に役立つていると思う。	20	2	1	1	

	年令別	20～29	30～34	35以上	年令不明	計
2．規約改正委員会に対して						
1．全面改正をのぞむ（抽象的。親しめない。文章，語句の読み難し。現在の侭なら説明書がほしい）		63	0	3	1	
2．定款が手許にない。配布してほしい（見た事がない）		3	0	0	1	
3．改正されたら速に会員一同に全文プリントして配布してほしい。（連絡が悪い）		2	2	2	1	
4．定款は粗末なプリントにしないで手帳式又は製本してほしい（協会名を入れた手帳にして売つては如何）		8	2	0	2	
5．細則の部の会員資格に疑問あり		3	0	0	0	
6．興味なく読んだ事なし（協会活動が不活潑なので必要を感じず）		8	2	2	1	
3．法令研究委員会に対して（布令一六二号）						
1．布令の全面的改正をのぞむ（教育制度免許に関することを日本保助看法を参考にしてほしい現在の侭なら解説書がほしい）		17	1	4	1	
2．民立法化を計つてほしい。		12	3	3	4	
3．待遇改善を計つてほしい（一ケ年免許切替詳細要望事項及現在報酬についての全労組参照）		3	4	2	6	
4．医療と看護の書務の限界についての研究してほしい（内容分析）		2	0	0	0	
5．布令改正案については会員の意見を反映してもらいたい		2	0	0	0	
6．関係法令集を製本又は手帳式にして売つてほしい（全く見た事がない配布をのぞむ）		10	3	0	3	
7．関係法令について研修会を計画してほしい		11	2	0	6	
8．見習看護婦の名称使用，制度ありや否や（帽子，ニニホーム使用の考慮。開業医院に於ける見習の管理法を研究してほしい。病人の取扱いを知らない。社会に対する看護のP・R上困る）		25	4	2	6	
9．看護婦福祉の上から登録洩れした看護婦のあつ旋について研究してほしい		0	1	2	2	
10．興味がない（法を重んずるより人道を重んず）		2	0	0	0	
4．教育委員会に対して						
1．研修会，研究発表会，講習会を年次計画に入れ実施してほしい（中央に於ける開催だけでなく		68	7	3	9	

	年令別	20～29	30～34	35以上	年令不明	計
各地域に於ても域地実施を計画してほしい。臨看，公看の合同研究臨床面はもつと各施設の連絡を密にし，合同研究，意見発表会を考えてほしい各施設孤立の感，支部に於て発表した事は中央に於ても発表させてほしい。深く追求する学会までの発展をのぞむ。看護婦資質向上の目的のために)						
2．協会活動の在り方について下部組織までの滲透教育を計つてほしい		4	0	0	0	
3．資金を作つて貸費学生制度を計つてほしい（看校生並本土派遣指導員等）		5	0	1	0	
4．専門分野のみでなくもつと人間として女性としての巾の広い教養面も…（人道教育）		7	2	2	3	
5．委員数をもつと増加して活動を活発にしてほしい		7	2	2	4	
6．戦后最初に教育した順に再教育計画をのぞむ		3	2	0	2	
7．定期的に本土から指導員を招いて研修会を開催してほしい		4	3	0	4	
8．外国研修（日・米その他）から帰島した指導者の報告会，講習会を開催し指導教育をのぞむ)		8	3	1	4	
5．推薦委員会に対して						
1．推薦する人について紹介してほしい（人物，手腕，勤務場，地位その他について）		17	1	0	3	
2．役員選定にもつと慎重でありたい（本人もなつとくさせてから選挙人名はあげてほしい。特の人のみがつづけている感。看護要職にある人はそれだけで負担，もつと若い下部組織からフリーな立場にある人を堀り出してほしいもの）		24	2	2	6	
3．すいせん委員は会員に多く知つている人がえらばれるべきと思う		6	2	1	3	
4．役員，委員に選定されたらひきうける		67	10	5	12	
イ，喜んで現待遇で奉仕させて戴きます。皆の会だから		28	3	3	4	
ロ，待遇改善によつてはひきうける。役員委員の時間的経済的，精神的負担は全会員が負担すべきである会の充実の上からも		37	5	2	6	
ハ，指定事務所を設置し，連絡のための無駄がはぶけたら		2	2	0	2	
5．役員委員に選定されたらひきうけられない。		47	4	5	6	
イ，家庭の都合上自分の私用時間が利用できず苦手		7	1	0	0	

	年令別 20～29	30～34	35以上	年令不明	計
ロ，自分には能力がないので他の方におまかせする。	28	1	2	2	
ハ，役員業務内容に適せず又，会員の協力度も分らないので	12	1	0	2	
ニ，自分の勤務の忙しさからくる心身の過労から	0	1	3	2	
6．出版委員会に対して					
1．役員委員会に出席して会の模様を「ともしび」にのせてほしい（会員は活動を知らず）	2	0	0	0	
2．機関誌だけでなく時の必要あらば種々の出版としてほしい（看護に関係ある資料について各施設あてでも良い送つてほしい，定期的にナースのうごきと発表してほしい）	4	0	0	1	
3．年刊では淋しすぎるせめて季刊にして	2	0	1	0	
4．各界名士の言葉を載せたら	0	0	0	1	
5．薬品会社等の広告をとつて安価に仕上げてほしい	0	0	0	1	
7．会員委員会に対して					
1．会員募集に協力してほしい（卒業前の学生への講演，卒業式へ列席してP.Rの必要がある）パンフレツト作製配布	7	0	0	0	
2．免許ナースは全員入会するようP.Rしてほしい	2	0	0	0	
3．会員名簿の整備に努力してほしい（名簿洩れのないよう，一度加入したナースの実態は握つておくこと，二度報告させないこと）	2	1	1	0	
4．総会受附をスムースに運ぶ工夫はないものか	0	0	0	1	
8．会計委員会に対して					
1．会計報告内容はもつと具体的に会員に解らせてほしい（活動状況を知るために各委員会から出された予算要求額各委員への割当額，予算執行状況結果についての要望について詳細な報告書を配布してほしい）	25	2	1	6	
2．公認会計士の点検調査と受けているか，又会計審査委員の設置は如何	1	2	3	2	
3．会費価上額については具体的年内需要額についてまとめて提案事項と会員に配布してほしい	1	1	0	1	

	年令別 20～29	30～34	35以上	年令不明	計
9．プログラム委員会に対して					
1．年中行事のプランと立案したたのしい協会も考えてほしい	3	0	0	1	
2．総会の際の来賓の祝辞を少くしてほしい（1～2名程度）	2	0	0	1	
10．準備委員会に対して					
1．最底の必要備品は協会で備えてほしい	2	0	0	0	
2．総会の際は整理係をおいて会場の乱雑を整理してほしい（坐る場所休憩中等）	2	0	0	0	
3．総会に際しもつとゆきとどいたサービスとしてほしい（時間ギリギリまで委員がきていないのは不満　暑い日盛りの冷茶のサービスを適宜に。）	2	0	0	2	

看護の職業並教育に対する感想

年令別	20～29			30～34			35以上			年令不明			合計	
職名別	臨看	公看	計	臨看	公看	計	臨看	公看	計	臨看	公看	計		
（アンケート結果）アンケート提出人員	159	34	193	28	12	40	13	14	27	35	10	45	305	%
1．看護の仕事についてイ非常に誇高く感じ満足している	23	5	28	4	2	6	6	3	9	7	2	8	52	17.0
ロ．やゝ満足している	95	26	121	20	8	28	5	10	15	21	7	28	192	63.0
ハ．つまらないが仕方なく続けている	20	1	21	4	1	5	2	1	3	1	2	3	32	10.5
ニ．常に劣等感を抱いていて出来得れば，転職したい	8	1	9	0	0	0	0	0	0	5	0	5	14	4.6
ホ．分らない	13	1	14	0	1	1	0	0	0	0	0	0	15	4.9
2．現在の貴女の仕事の報酬について														
イ．非常に満足している	2	0	2	0	0	0	2	0	2	1	0	1	5	1.6
ロ．普通だと思つている	46	3	49	12	5	17	5	3	8	12	2	14	88	28.9

年令別	20～29			30～34			35以上			年令不明			合計	
職名別	臨看	公看	計	臨看	公看	計	臨看	公看	計	臨看	公看	計		
(アンケート結果) アンケート提出人員	159	34	193	28	12	40	13	14	27	35	10	45	305	%
ハ．やゝ不満に思つている	57	15	72	10	1	11	4	10	14	14	4	18	115	37.7
ニ．非常に不満待遇改善を望んでいる	50	15	65	6	5	11	2	1	3	8	2	10	89	29.2
ホ．分らない	4	1	5	0	1	1	0	0	0	0	2	2	8	2.6
3．貴女の現在の職場について														
イ．非常に魅力的で楽しくすごしている	12	3	15	5	0	5	3	3	6	2	0	2	28	9.2
ロ．やゝ楽しい	44	12	56	3	5	8	4	4	8	9	2	11	83	27.2
ハ．普通と思う	64	10	74	17	5	22	5	7	12	19	6	25	133	43.6
ニ．あまり好ましく感じない	33	7	40	3	1	4	1	0	1	5	2	7	52	17.0
ホ．実にいやで，でき得れば職場換えしたい	6	2	8	0	1	1	0	0	0	0	0	0	9	3.0
4．看護の社会的発展性について														
イ．社会も非常に重要視し発展しつゝあると思う	15	4	19	4	2	6	6	1	7	0	3	3	35	11.5
ロ．やゝ発展しつゝある	96	20	116	15	8	23	6	9	15	24	4	28	182	59.7
ハ．社会的発展を阻まれていると思う特に														
A 社会に原因がある	17	3	20	4	1	5	1	1	2	2	0	2	29	9.5
B ナース自身に問題がある	8	1	9	1	0	1	0	1	1	2	1	3	14	4.3
C 看護教育に原因がある	2	1	3	1	1	2	0	1	1	3	0	3	9	3.0
D 看護制度にある	12	3	15	1	0	1	0	1	1	0	1	1	18	6
ニ．分らない	9	2	11	2	0	2	0	0	0	4	1	5	18	6
5．看護に関する法令について（布令162号）														
イ．熟読し精通している	8	2	10	1	0	1	2	1	3	0	2	2	16	5.2
ロ．目を通したが内容に通じていない	93	27	120	8	10	18	6	10	16	15	5	20	174	57.1

ハ．全く目を通したことがない	52	5	57	18	2	20	5	3	8	5	3	8	93	30.5
ニ．其の他	6	0	6	1	0	1	0	0	0	15	0	15	22	7.2
6．看護教育の在り方について														
1．看護教育制度について														
イ．看護大学の存立を望む	106	24	130	16	6	22	5	5	10	20	4	24	186	61.0
ロ．現状の維持のまゝでよい	39	10	49	11	5	16	6	9	15	15	6	21	101	33.1
ハ．準看制度を設ける方がよい	14	0	14	1	1	2	2	0	2	0	0	0	18	5.9
2．男子看護学生採用について														
イ．当然採用して男子にも分担させた方がよい	72	15	87	5	3	8	6	6	12	16	4	20	127	41.6
ロ．女性のみで看護は行つた方がよい	49	8	57	21	7	28	7	7	14	11	0	11	110	36.1
ハ．分らない	18	6	24	2	2	4	0	1	1	8	6	14	43	14.1
ニ．その他	20	5	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	8.2

看護の職業並教育について

1．看護の仕事並職場について	年令別	20～29	30～34	35以上	不明
1．常に誇りをもつて楽しく過している（尊い人命を守つているという誇，自分の性格にあつている大好きな仕事，看護が徐々に向上してゆく喜ばしさ，家庭的ふんいきで先輩に導かれつゝ新しいフアイトを湧かす職場等）		16	3	1	4
2．自分の予想と大差ないのでやゝ満足		4	0	0	0
3．あまり好ましく感じられない					
イ．好きで入つた道で興味は失せぬが満足でない		1	0	0	0
ロ．制度に不満を感ずる（精神的肉体的苦労が多すぎる。自分を過労してまで他人をみる必要があるだろうか。即ち三交代制，48時間勤務。土，日曜勤務の一般社会人との生活のずれ，之		32	1	0	3

	年令別 20～29	30～34	35以上	不明
に伴う仕事と結婚との両立に対する不安，女性として母性としての幸薄き感の不安）				
ハ．既婚ナースに向ける独身ナースの不満，勤務状況からみて時間的，責任上からの負担がより多くかゝる）	7	2	0	7
ニ．既婚ナースの勤務意欲の向上のため院内に託児所設置を考慮してほしい	6	3	1	6
ホ．患者や附添の無理解になやまされる社会の観念をくつがえすには未だ道遠し	7	0	0	9
ヘ．仕事が単調すぎる。雑役婦の行うべき多くの仕事が課せらるしげきがほしい（TB療養所）	10	1	0	0
ト．建築物，設備の不備看護用品の不備まで意欲を失う	11	0	0	0
チ．あまりにも事務（記録）多く真の看護業務が施行されていない。自分の力を十分に出しえられない，いらだたしさと感ずる）公看	10	3	1	2
リ．業務の明確さと欠く不快（診療所へ於けるナースは事務が多い）	2	0	0	0
ヌ．遊地勤務の看護管理の不てつてい，職場控えしたい公看	2	0	0	1
ル．学校で習得した原理の実践のむじゆん	6	0	0	2
2．現在の仕事の報酬について				
1．やゝ満足している（1般社会並1般公務員と比較して悪いと思われず）	3	1	0	0
2．現報酬に不満待遇改善をのぞむ				
イ．心身の過労状態から考えて非常に不満(3交代制48時間制，深夜勤，土，日曜勤務危険勤務等に就て)	41	9	2	12
ロ．琉大委託生に対する待遇改善（大学卒同様に）	11	0	0	0
ハ．一般短大卒同資格取扱に不満（専門課程卒はもつと高度に考えてほしい並勤務の過労に考慮して，公看の場合は4ケ年課程だから，当然大学卒同様取扱に）	21	0	0	1
ニ．特別手当が僅少なること（臨看）危険手当は結核療養所並に（公看）	10	1	5	2
ホ．ナースは奉仕と強いられている感（時間的に又報酬の上から，診療所のオーバー勤務）	9	0	0	0
ヘ．ナースの給与の巾を広げて，恩給制度については如何，将来への不安あり。）	2	4	2	3
ト．比較検討すべき対象が分らないので何にも云えない。	3	0	0	0
3．看護の社会的発展性について				

年令別	20～29	30～34	35以上	不明
1. 政府機関の発達に伴い発展しつゝあると思う公看労働の盛んになつただけでも	3	0	1	1
2. 看護教育の発展に伴いナースの重要視されつゝある。	4	0	0	0
3. 看護の社会のPRは未だ不足対策の必要がある（ナース自身の観念，教育の問題，業務の在り方等）	45	5	5	9
4. 看護学校教育について				
1. 性格のはつきりした学校であつてほしい。学生身分保障，琉大との関係をすつきりさせたいもの）	7	3	4	1
2. 看護大学の設置をのぞむ	56	5	5	7
イ，男女共学の大学をのぞむ（今后は男女協力すべきで女性のみの独占職業は進歩がない）	42	0	2	3
ロ，女子のみの大学であつてほしい	2	1	1	2
ハ，保助看連繋した大学コースをのぞむ（3ケ年間みつちり講義して1ケ年間一タンで実習実績を上げ同資格で卒業する）	12	4	2	3
3. 看護教育制度は現状で良い，男子看護人の制度も現状で良い	1	6	4	3
4. イ．準看制度に賛成（但し完全看護必要上から雑用をさせるナースの監督下に於て）	2	0	2	1
ロ．準看制度大反対（メイドを採用してほしい）	2	2	0	0
5. 男子学生採用について				
イ，採用賛成（教育，勤務配置すべて現ナース同様）	11	3	5	3
ロ，採用賛成（教育は同1但し勤務は特殊配置即ち精神科，手術室深夜勤等）	41	3	2	5
ハ，採用反対（女性の失職，産休等のわづらはしさで雇庸者がいやがる）	0	1	1	1
6. 看校職員の強化をのぞむ兼任ではない学校長並専属医師職の設置講師看護教師の資算向上のため日米留学派遣の増員，研究費支給，研修会開催，看護教師の養成特に臨床教師は各科に1名づつ配置してほしい。病院ナースにまかせつきりにしている，講義も教えた者は臨床指導まで1貫して指導責任をとつてほしい1人であれこれ受持つて専門教育とは云えない）	54	4	4	7
7. 看校設備教材の充実を計つてほしい	19	4	2	6

8. 教育方針並教科課程について	年令別 20～29	30～34	35以上	不明
イ，技術と平行して精神面の教育の重大視してほしい，人間として良心の強さをもつナースをのぞむ，もう少しきびしく責任感ある学生の育成をのぞむ（ルーズな者多し）	7	4	3	3
ロ，不真自目な学生は教育期間中考慮してほしい，卒業后周囲がめいわくする	8	3	0	3
ハ，公衆衛生のメンバーとして指導力あるナースの育成をのぞむ	6	4	0	0
ニ，一般教養科目に力を入れてほしい	24	5	1	1
A 将来良き家庭人として又，人間味豊かなナースとしての教育	12	1	1	1
B 研究，意欲ある指導力を供えたナースの育成の場でありたい。己のためなら自費でもよい	11	0	0	0
C 語学に力を入れてほしい特にドイツ語	1	4	0	0
ホ，もつとのびのびとした学生生活をおくらせてあほしい（変な固定観念先入感をおし入れないよう	6	0	0	1
9. 実習に対する改革をのぞむ	24	1	1	2
実習経験は学生としてもつと研究の場でありたい。もつと学生にゆとりのある実習を課してほしい（時間が多すぎ，又受持患者数が多いため考えるゆとりがない）実習学生に対するナースの観念に意見あり（病院看護力にのみ提供させないで学習の場である事を認識してほしい。一部の学生をのぞく多くは仕方なく実習しているようで意欲なし）				
実習場に於ける個性的看護を強調したい病院にスラムの於ける上下の差を感情的に施行しない事）				
10. その他				
イ，特殊病院実習をのぞむ（眼耳鼻歯科その他）	1	0	0	1
ロ．学生の補助金を増額してほしい	2	0	0	0
ハ．3ケ年は長すぎる。2ケ年にしてもつと採用人員を少し講義をみつちりしてほしい卒業后インターン	1	0	0	0
ニ．入学選考に言学科成積第1主義でなく熱意ある学生を入れてほしい。入学后の勉強ぶりが違うから。	1	0	0	0

世間の声に対して

―職業調整グループ研究―

1960年才2学期実施
1958年入学生・才3学年次
琉球政府立コザ看護学校

一、研究方針

看婦は「白衣の天使」なる美名の下に呼ばれているけれどもはたして一般社会的にはどう映るナースの真の姿（社会的地位、職業感）を知り、そして改善すべき点は少しでもよりよく改善していきたいと思いこのテーマをとり上げた

一、研究方法

1 アンケート

アンケート数 九一
回答数 七五

対象

職業別	アンケート数	回答数
警察官	二五	一三
教員	一〇	九
学生	二八	二五
一般サラリーマン	一九	一九
患者	九	九

○年令
十才～三十才を主体とした。
○性別 男性のみ

教員 10名　患者 9名
会社員 19名　警官 13名
学生 25名

アンケート

	教員	会社員	学生	警官	患者	全体
1. 看護職は女性だけの持つ聖職と云う言葉に対して						
イ. 全く同感である	30%	45%	32%	64%	69°/。	47°/。
ロ. 必ずしもそうとは限らない，必要あらば男性にもさせた方がよい。	40	22	48	21	33	33
ハ. 看護対象があらゆる人間であれば当然男性にも同責任をもたせた方がよい。	30	19	20	14	11	18
ニ. その他						
2. 宗教と看護職との関連について						
イ. 宗教持つべきである	10	〃	12	14	11	10
ロ. 持つた方がよい	40	31	44	49	33	39
ハ. 自由	50	68	52	35	56	56
ニ. わからない			4			5
3. 看護婦を1女性としてみた場合						

	教員	会社員	学生	警官	患者	全体
	30%	45%	32%	64%	69%	47%
イ．家庭的で　ある	50	69	36	57	67	54
ない	50	31	60	35	33	40
ロ．非社交的である	0	14	53	49	44	40
ない	100	65	36	42	22	49
ハ．親切で　ある	20	90	76	78	68	80
ない	50	10	24	14	11	20
ニ．清潔感が　する	100	100	76	100	100	90
しない	0	0	24	0	0	8
ホ．冷淡で　ある	20	20	40	35	100	37
ない	80	80	40	64	0	57
ヘ．地味で　ある	80	64	76	78	7	71
ない	20	27	24	21	33	22
ト．明朗で　ある	100	85	40	71	89	68
ない	0	0	36	28	11	18
チ．教養　低い	0	0	2	0	0	3
普通	80	85	76	78	44	73
高い	20	22	8	21	56	22
リ．その他	0	0	9	0	0	11
4．人生の伴侶として求めたい	10	21	16	84	44	34
求めたくない	0	10	36	0	16	15
わからない	50	53	32	7	0	30
5．看護婦志望の相談を受けた場合						
イ．絶対に進めない極力止める	0	0	8	7	67	〃
ロ．その人の熱意があれば仕方がない	40	60	72	35	33	59
ハ．自分の子供や妹にも進めてさせたい	50	40	16	42	0	28
ニ．その他	10	5	8	14	0	8

〔参考〕問〔4〕の理由

求めたい理由

1．聖職という感から
2．看護衛生面の知識があり幸福な家庭が出来る
3．病弱な者には他の職業人より理解がある
4．人間を死から守るため極力努めするという職業は神聖であり誇りをもてる
5．子供の養育に適し親切で地味で情熱的である
6．病気になつた場合有利であり，経済である

求めたくない理由

1．患者の集い場にばかりいるから
2．共稼ぎの相手として続けられない
3．好ましくない職業（社会的奉仕者であるが内面的不潔を感ずる）
4．白衣で自分の欠点を被つている感じ
5．結婚後家庭生活が不規則になる
6．家庭的でない

アンケートの結果からして次の諸問題について検討して見ます。

1・看護婦は女性だけの持つ聖職だという言葉にして、今までの伝統からして、弱き者の看護は女性の持つ親切さ、やさしさという観念からして、看護職を女性だけの持つ職業だと決定づける見方が多い。しかし看護内容から見ると男性の看護人を必要とする場合が（例えば労力を要する場合、しゆう恥心を抱かす処置の場合等）が多々ある様に思われる。

2・宗教と看護職について

看護の起源が宗教にあるという点や、看護の要素である博愛精神から、当然宗教と深く関連づけて考えているだろうと思ったが、一般の見方は大半「自由」に傾いているのは面白い。これは看護職は「聖職」であるという昔の見方から離れて何等普通の職業と変らないという見方が強い様に思われる。又実際に於いても、看護婦は宗教特定な意識の基に限定されてもいない。

しかし看護するものにとつて患者の心理を良く理解し、感情のバランスを保つ為には宗教というのを或る程度身につける必要があると思う。

3・家庭的でない，非社交的であるというのに対して

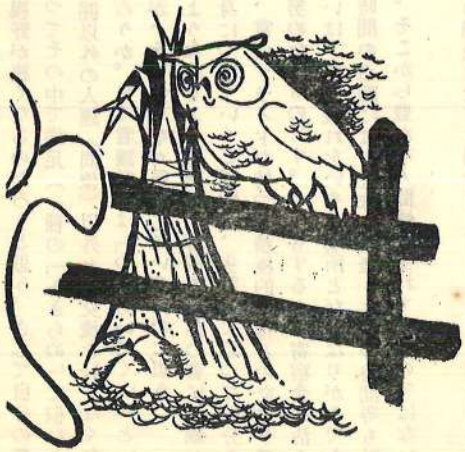
看護婦は「宿舎」という限られた環境に生活し直接に家庭生活にタッチしてないという観点から「家庭的でない」「非社交的である」という意見が出たのだろうと思われる。しかし、その反面家庭生活に必要な「育児」「健康管理」「衛生的知識」等の点では家庭的であるという見方もかなりある。さて殆んどの人が共通に持つている看護観、即ち「視野が狭い」「井の中の蛙」「主体性がなくいつも上司にだけ頭を下げている」という見方についてはどであろうか。宿舎という一定のわく内に生活し常々の対人関係でも殆んど一定の人に限られて、他との交流が見られない。そこから自然に視野が狭くなるのだろうと思う。さして自分の殻の中にとじこもつてその中で満足（一種の「あきらめ」に似たような）自分の周囲以外の人達（同僚）以外との交流を好まなくなるのではないだろうか。良く看護学生は「つきあいにくい」という言葉を耳にすが、そういう事が原因しているのだと思う。

私達はこのような事をよく認識し、専門書以外の書にも親しみ、一般教養を身につけていくと同時に、劣等感で以つて自分を卑下する事なく、常にプライドを持つて積極的に他との交流を豊かにして行く様努めたいものです。やゝもすると、寄宿舎生活も、病室の延長或いは、たゞ疲れをいやす場所とだけなりがちであるが勤務以外の時間の余暇には、趣味・娯楽・体育の時間等も計画すべきである。そこから豊かな人間性も生れて来るのではないでしょうか。

4・看護職の相談を受けた場合どうするかという問に対して、殆んどの人が、熱意があれば仕方がないと答えており、自分からも進めてさせたいと考えている人は甚だ少い。アンケートの結果「人生の伴侶として求めたい」という項目に対してかなりのパーセント数を示している警察官や患者でさえも自分の子供や身内のものにはさせたくないと答えている。そして実際に於いても、私達は一般社会人や患者から「どうして看護婦なんかになつたの」という質問を度々受ける。はたしてその原因はどこにあるのだろう

か、ある特定の人を除く一般社会の人々の殆んどは「看護婦」というと、すぐ連想するのは開業医の見習看護婦ではないかと思われる。そういう観点から考えてみると、看護婦は時間的に自由のきかぬ職業でありながら低賃金で働き、しかも上司に頭が上がらない、又教職の様に一般の人達との交流が多く、無条件に尊敬の目を向けられるのに対し、看護婦は社会の奉仕者でありながら社会的認識が低い即ち社会的地位の低さ、というのが大きく影響して来てそれが先入感となつて、すぐに「好ましくない職業」だと決めつけてしまうのではないだろうか。

次に大きな原因は、私達看護婦自身が自分の仕事を傷つけている場合がありはしないかという事です。私達が実際看護にあたる場合、いやいやながら常に不満をもつて、看護にあたつているとすると、それが言葉にあらわれ、態度で示し、患者に接していると患者の目に看護婦はどう映るだろうか。「看護婦は可愛想だ」「いつもいやな仕事をして、やりがいのない仕事だ」つて意識的にあるいは無意識に思い込む様になり、それが一つの看護観となる一般社会の「看護婦」という職業に対するこの様な見方を切りかえるという事は困難であり、時間のかゝる事かもしれないが、資格を有する看護婦が開業医にも進出していき、共かせぎの看護婦が多く出て、豊かな教養で以つて、看護事業或は家庭に従事して行く事によつて、いくらかなりとも看護婦という仕事を認識させ社会的地位も向上していくのではないだろうか、しかし、そう望む前に何より以上に、私達看護婦個々人があらゆる面に努力していかなければならないと思う常に自分の仕事に喜びを見い出し積極的に研究心を養うよう、努めねばならない。真心をこめて看護にあたつた場合の幸福感はなんとも云えない。自分も本当の幸福であるし、そういう看護婦の姿は側から見ていても本当に美しいものです。看護婦の社会的地位をいかに向上させるか、社会の人達にいかに認識させるかという問題は私達一人一人がいかに行動するかによつて決ると思う。



看護雑感

公衆衛生看護学校　上江洲はる

看護と治療は車の両輪の如しとはよくいわれています。私共ナースの業務と医師の業務は両立すべきものであつて何れが劣つていても患者を早期に健康にすることは難しいことであると思います。私は此の夏、生れて初めて入院治療を受けました、然かも二、三日は絶対安静を要す、術后の療養も併せて体験しました。これは私にとつて尊い体験となり、不幸を転じて幸となしたと思つて居ります何時も看護する側にあつて看護された経験を持たなかつた私は、あらためて看護婦の使命が、如何に重要なことであるかを身を以つて体験し、自分が看護の職業を選んだことを誇りに思い、且つ亦責任を深く感じた次第であります。それで看護について色々と感じたまゝをのべてみたいと思います。

看護の使命は、医師の治療を効果あらしめるように助けるとともに患者に精神的面の看護を誠意をもつて行い早期に健康を取戻させるように努めるのであります。患者が恢復した時、看護の有難さを感じ病気の時には安心して療養が出来るのだ、それは看護婦がいるからであるという印象を与えなければならないと思います。人間はどんな偉い人であろうが、富める人であれ、貧しい人であれ、総ての人が、一生のうちの何%かは療養生活を送らねばならないと思われます。経済的問題は別して病気になつたときよい看護を受けられるということは、その人にとつて、もつとも幸福なことではなかろうかと思います。ではよい看護とはどんなことかについては看護婦の皆さんは理論的にはよく御存じでありましようし、又現に看護をして多くの人々に感謝されて居る方も沢山いらつやると思います。中でも私はもつとも強張したいことがあります、それは患者の身になつて看護をするということであります。之れは今更私がいわなくても、皆様も分つていることでありますが、実際は患者の身になつて看護する人は少ないようであります。一々患者の身になつてやつたら、こちらの体がたまらないと思う方は、きつと其のなり方が下手ではないかと思います。例へば患者さんがどこか「痛い」と訴えた時、看護婦は、其の病状を充分知つているので、痛いのは当然たと思い、言下に「辛棒しなさい」と大低の場合は云うだらうと思います。ところが患者にとつて、之程無慈悲なことばはないでしよう。その言い方や表情によつては看護婦に反感さえ抱くことでありましよう。患者の「痛い」ということに対して、どれ程の痛さなのか、

重か中等度か、軽度のものか見極めねばならないでしょう陣痛の痛み、外傷の痛み、術后の痛さは、其々患者の精神的面からも異つてくることと思います。それらは又痛いものに決つています。だから、「辛棒しなさい、」と云うより仕方がないといいたい、然し他に、言い方があります。又してあげなければならないことがあります。其は皆心得えいるのですが、やはり患者の身になることを忘れた場合にそのようなことばがでるのでしょう。これは一例でありますが、すべての面で患者の身になつてと云うことを心がける努力をしなくてはならないと思います。

それから患者を機械扱いにしないことであります。患者さんは一人の人間であることを忘れてはならない。特に外科や産婦人科の看護婦は注意しなければならないと思います。そのことについては、つく〳〵アメリカの看護の指導者の方々の教訓が思出されて参ります。個人を尊重するという民主主義の考え方は看護の面でも徹底しているのであります。そのことは分娩の介助や、婦人科の診察の介助等の場合に目立つて感じられることでありました。そんなに面倒臭いことをしなくてもよさそうだと最初は思つた程でしたが、やはり看護される例にとつてはそうでなくてはならないのです。病気だから、或ひはお産だから、普通の時より、恥かしくないと云うことはない、唯介助者が何も恥かしがらなくてもよいと強安するから、又は病気だから、仕方がない診察して貰うためには恥を忍んでも受けなければならないと云う感じを与えるのはまづい看護のやり方ではないかと思います患者や婦人に対してそんな思いをさせる為にはどうすればよいかということは、看護婦は充分にわかつている筈だのに、唯、看護し易いから、又は医師の診察に便利だからというので、患者の心理を無視して行動する者も居る。

看護婦が患者を人間として尊重し主体を患者さんにおいて取扱うならば、義性にしなくともよいと思われます。特に婦人が婦人科での診察を受けることは憶却になり勝ちだと悪います。疾病の早期発見のためには少しの異常でも専門医に診て貰う必要がありますが大低の婦人はしぶるのであります。其は看護婦が介助の方法や又は保健指導等によつて気軽に安心して診察を受ける気持にさそうことが出来るのではないかと思います。

外科の手術の場合も同様であります。生きた人間を手術するのである。麻酔したからといつて、又、無苦的に扱はねばならないからといつて、魚を俎板にのせたように人間を手術台にのせておくことはどうかと思います。無苦的に扱うと同時に人間として扱はねばならないことを心しなければならない、時と場合によつて色々と取扱いも異つてくると思いますが、看護はゆかしい思いやりの心で介助すべきでありましょう、患者の身になつて人間を尊重した取扱いということを常に心掛けねばならないと思います。

終戦后沖縄における看護の業務は向上しているでしょうか?、「はい確かに進歩しています。第一看護教育は高度のもので、高校を卒業し、看護教育を三年受けて更に認定試験に合格して初めて免許が与えられるのである。こんな立派な看護婦達が社会に出て、病院や診療所で働いているのだから看護は戦前と比較にならない程、向上しています」と言い切れるでしょうか?、沖縄全体を見廻わしたら場合、果して新しい看護婦が看護業務を向上させる程の人数である

かを考えた場合、決して向上したとは云えないでしよう。病気になつた場合、その何人が新しい看護を受けることが出来るでしようか全体的に見れば極く僅かではないかと思います。と申しますのは、新しい看護のあり方を学び免許を受けた看護婦がどしどし開業医師のもとで勤務するようにならなければ看護業務の向上は望めないと思います。社会一般の大部分の患者さんが、開業医師のもとで治療を受けていますし、又その看護を受けていることを考えねばなりません。開業医師の治療は近代的に進歩しているが、そのもとで働く看護婦は旧態依然とした看護法であつてはならない。然し看護婦の不足は開業医師も困つて居られることでありましよう。

私達の看護協会では、このことについて、よく研究して行かねばならないと思います。どうすれば多くの人達が病気になつたとき、近代的なよい看護を受けることが出来るか、之を解決することが社会福祉えの大きな貢献だと云えるでしよう。其の一の方法として提案したいことがあります。看護協会が主体となつて講習を開き、開業医師のもとで働いている看護の業務にたづさわつている方々の中から希望者を集めて看護のあり方、看護精神、簡単な、看護テクニツク等について研究させたらどうでしようか。公衆衛生看護婦は一般の人々に対しても看護法について、衛生教育を行うのであるから看護業務にたづさわつている人達に援助することは、間接的には社会の人々えのサービスだと云つてよいと思います。

人間は健康の時は、病気になつたらどうすると云うことはあまり考えないが、いざ病人になると色々と考えるものであります、普段感じないことも強く感ずるようになる。私は十日間の入院生活でJ先生のお陰で健康えのコースに入ることが出来ました。副産物として得た、患者としての体験に依り、看護のあり方を自分自身にいい聞かせながら色々と収獲を得ましたことをJ先生に深く感謝申し上げたい気持で居ります。

看護婦は病気なつても忙がしいものだとつく〴〵思いました。看護婦を看護する方も勝手が違うといはんばかりの表情である。普通の患者さんと違つて術后の食事（一般の人は患者の要求通りに与えてはならないと思つている）について、量も質もどん〳〵変えていき付添さんにいひつけるのである（医師指示は自分で受け）毎日の全身清拭も指導しながら付添さんと一諸になつて行う、看護計画を立て、充分静養出来るようにし、献立を考えたり、説明したり、一苦労であります。然し看護婦の患者は退屈しない一人二役をしているのですから。病人の私を、看護婦の私が看護する。ということは結果として大変良かつたように思います。先生も「あんまり経過が良すぎる」と云つて下さつた程でした。之は食事に対しても安静度についても限度を知つて居り理解しているということがプラスになつたと思つています。病気に対してよく理解することは、患者にはとても大事なことであり、看護婦はそのことをよく患者さんに説明して上げるべきでありましよう。

夕日の日果で一番たのしい時間は、涼しくなつた夕暮れ時であります。ベツトに横たわつて窓辺に目を移すと、70mm映画にも劣らない静かな夕暮れの素晴らしい風景が窓のスクリーンに写る。はるか町はずれに黙々と立ち並ぶ鉄塔の上を夕やけ雲が赤く、又うす紫にさま〴〵の雄大な絵を絵がきつゝ流れ行く様は、見事でありま

す。其を無心に眺め空想の世の中に雲と共にさそわれて行くような気持は何ともいえない。16mm映画を楽しみ終るこれは、トランヂスターから流れるニュースによつて現実の世界に引戻してくれるのである。こうして私、入院も又楽しいと思いました。

看護について雑感を思ひつくまゝに書きつらねてきました。本来私は看護の仕事が好きであり、又看護について語り合うことも又大好きであります。今後は、皆さんと一諸に看護について、研究していきたいと思つて居ります。

台風中の分娩と公看

宮城幸

九月十四日の夕刻から本格化した、台風十八号ナンシー嬢は、不幸にも気象台の予報が適中して、夜が更けるにつれて、天地かいめいと云うか、自然の猛威の下に生きとし生ける者、すべてが此の世の終りかと恐れ戦つて居る。午前二時十五分頃であつた。屋外に荒狂う台風の音にまじつて、かすかに玄関をたたく音と、遠慮がちな人の声がしたので、ハツト目覚して起きて見るとかねて訪問していたH.さんの主人が僅かに開いた玄関から風と共に、飛び込む様にして入つて来た。「家内が破水しましたので……」と云う。

此日は役所の方でも、かねてからの計画に従つて、救助隊は何時でも、処所にも出動できるよお、万然の準備をして居り、私も役所にも、私宅にも臨機応変の処置が出来る様に、救急準備は整つて居ましたので、直ちに訪問鞄と雨具等で身を固めて、外に出ました。屋内では、外の風雨の音が、時々大きく聞えるばかりで、直接風雨にさらされた時の事はそれ程深くも考えないで飛び出したのですがH.さん家迄、約二キロの山道に台風は益々強まるばかりで、これでもかこれでもかとばかりに、真正面からたたきつけて来る息もつまり、雨具も吹きちぎられ、しばしH.さんに支えられて山陰で休み、風雨の合間を見ては転げる様に、次の山陰まで辿りつく、何の因果でこのような事までしなければならないのか……と、ふつと考えたりする。しかし雨滴のしたゝる懐中電灯の光の中のH.さんの顔を見ると、この様な事もたちまち、顔から消えてたゞ一刻も早く産婦の所まで行かなければならないと云う一念だけになつてしまう。午前三時二十五分、台風は尚いさゝかの衰えも見せず産室も揺ぎ産婦のうめき声も外の風雨にかき消されがちであつたが、赤ちやんの元気な産声は私にはこの様な天地の騒音の一切を打消すかの様に思われた。その間H.さんやその産婦、手伝人達の情なさそうな、又頼り切つた様な顔を見て、「公看吾生けるしるしあり」との感激を新たにさせられたものであります。産声と共に風雨も次第におさまり一睡後夜があけてみると、ほんとの夜の荒狂つたあの空は嘘の様に又は悪い夢でも見て居た様な良い天気になつて居ました。

私達公看の業務の中には母性や乳児の指導もありますが、特に助産婦の居ない僻地では公看が助産婦の仕事迄しなければならない場合が多い、所が私はこの事は前記母性や乳児指導のためには公看の様な仕事その本来の仕事にプラスにこそなれマイナスにはならないと思います。たゞ問題はお産は大部分が夜間にあるので公看が負担過重になり、体を損ねたりする事も考えられます。幸に私は人一倍体の方は丈夫の様でありますので少々の事ではへこたれませんが、僻地に勤務する公看には、勤務以外のこの様な事もしなければならない場合もあると云う事を人々は知つて貰いたいと思います。

（名護保健所勤務）

僻地助産婦開業して

伊平屋村　松元サヨ

伊平屋は一九五九年末、心のむくまゝに住民の心を思いうかべてひきずられるまゝに当地へ渡り島の様に流れて来ました。「心して旅立ちませし身なれど、闇をおそれぬめしいにたり」と思われる伊平屋村は東経一二八度・北緯二七度の中間に位し、沖縄本島の北方那覇を去る五八里、本部より二七里、国頭西方十八里を隔て伊平屋島と野甫島の二島よりなり、周囲一里山なく、稍々平坦の円い島で僻地に勤務する人のみが味う事の出来る情緒である。周囲の山河草木は人の心をなぐさめ、又感傷的に詩歌にしたしむ感情になる。自然の美しさに何物をも忘却する事の出来る日もある。四十代の私には此の島は健康に恵まれなくては村民のニードに充分に答えるだけ活動出来かねる。しかし戦争中の苦難な道を克服し、看護勤務を遂行した私達には今は「戦前の苦労の万分の一にも価しない。」と苦しい時、淋しい時自分をなぐさめて勤務遂行に努力している。離島なるが故に言葉も違なり、二、三ケ月の間、子供達とたわむれ島の言葉になれるのに心を悩まし、早く理解する様に努力したかいがあつて、今では「チヤービラサイ」と声をかけて人を訪う事も苦にならない、行きかうハンシー、タンメーにも話せる様になつて今では伊平屋ンチユーだと云われている。

僻地勤務して開業する私の仕事には、ちよつと想像出来ない重大な責任が双肩にかゝつている事と思う。たえず勉強することに努めている。苦しい反面人々の信頼感を保ち、安心した表情を目のあたりに眺めている時、技術をもつている者のみの味う喜ふびがある。

「小さくともかいある術をなしとげむ、光ある代のおみと生れて」

と何時の日か歌つた事をおぼろげに思い出す。

勤務して長才月は走馬灯の様に流れ、過去を反省して思うにすべての面に恵まれない村民の日常を眺め、衣食住にこと欠くのは微々たる事であるが、疾病となると適格な診療に恵まれないので何時の日その不安を除去する事が出来るかと、常に脳裏に深く思いなやんでいる。

本島に比較して、看護法、その他疾病の早期発見、すべての面に幼稚なるが故に苦労も多い、私と公看はこの不安を少しでもはらいのけるために、看護法、衛生教育とスライドを用いて母親学級を計画して、衛生知識向上に専心努力したいと思つている。僻地勤務の苦痛は政府の諸先生方も机上の想像すら出来かねるふしが多いと思います。野甫島に渡る時は真夏の三十五度位の暑さの日には下からはむせる、眼は光線反射でチラチラする。頭はむし風呂で砂浜に長時間立つ時に船が迎いに来るのがおそいと、泣きたくなる。又かいをつかみ人々と語りつゝ共に白浪を受けつゝ二十分余タンク船でゆられる、この姿、実に本島では味わうことの出来ないスリルである。

農繁期にはいると家族の一員として寸暇を利用し、田植え、稲刈りの手伝いに追れる時、たまにする為か大変面白い一日が送れる。すべての面で心よりうちとけて住民に協力することも又大切である。やはり母となり姉妹となりの情緒を抱かなくては教育面にも成績を

上げる事が出来ません。三千有余の民衆の健康を守り、不安を除去し、明るい住みよい平和な僻地にする事に専心、努力する事にしている。思うに僻地、離島と聞けば本島と異なり特別な定期的な娯楽機関もなし、夏になると青野菜はすべて顔を出さない、あれば「ニギヤナバー」位のものビタミンの欠乏は日々に明白となつて来る。これはなんらかの方法でおぎなう事にしているがこう云つたことが離島勤務をこのまない幾多の諸姉妹の壁になつていることと思う。しかし技術を身につけた者のみの感じる幸福感を僻地に来て私が深くも感銘した事を強く述べたい。喜怒哀楽は人生すべてにある事かも知れませんが自然に親しみ、海を愛し、山を愛しその事々に感情をゆだねて、人間生を受けて一生の思い出を深くのこしてこそ、勤務する者が味わうことの出来る一つの楽しみだと思います。私達の努力が実り、明るい健康な住民の人々の顔を眺めることの出来る日のある事を念願し、撓ゆまざる誠実と勇気を以つて献身的に僻地勤務をよろこんで引受けて下さる諸姉妹の多くなられる事を祈ります。

山原の旅

金武保養院

上原トヨ子

八月五日、土曜日兼ねてから計画してあつた、北部一泊旅行がやつと実現した。メンバーは薬局のMさん、事務所のAさん、私の三人である。女ばかり山原の奥までの道のりでさぞ大変だろうと、総務課長さんを始め事務所の方々が異口同音に同情を寄せておられるが、当の私達は平気なもので、まるで映画にでも行くような軽い気持で宿舎を出て来たのである。出発は予定より一時間も遅れて、午后の二時となつた。金武から名護行きの小さなバスに乗る。土曜日なのでバスは稍混んで居た。朝からその日は快晴で全く行楽日和というほかない。窓から吹いて来る涼風が心持ち爽快にさせる。金武キヤンプハンセンを左に、右には最近ぽつぽつ建つバー街がこの静かな農村とうらはらに混然としている。基地の中の農村なのか、村の中の基地なのかわからぬような錯覚を起こす。辺野古に行くと最もそれが強く感ぜられるかもしれぬ。

潟原迄はきれいなアスファルト道路だがそこから左に折れると曲りくねつた純粋の山原道を通る事になる。車窓からはるか前方に明治山が北と南にだらかに延びて居てあちこちに開墾畑やらパイン畑

が眺められた。名護湾に差掛ると急に視界が開けたようで気持がうつとして来た。あつという間に名護のセンターに着いていた。暫く休んで辺戸名行きのバスに乗る。このコースは、前に二、三度通つているが、その都度違つた感慨を抱くものだ。Aさんが持参して来た沖縄地図は大変役に立つた。その土地々々の名称と照合してこれから行く安田部落を想像しつゝ旅の痛快さを今更に認識したようだつた。辺戸名行きの道は砂埃が多く前を行く車の残す砂煙が何の容赦も無くバスの中に入つて来るのには閉口した。しかし前の車との間隔が大きくなると窓外の移り行く景色を眺めつゝだから案外楽ではあつた。一泊の旅だからといつて、三人共着替を持たず、黒のスラックスに白の運動靴という軽装なので結構荷にならずに済んだ。

辺戸名の停留所で下車するとこゝから与那の演習林試験場にバスで行つて、宿をとる計画であつたが、時計を見ると五時十五分。五分前にバスは出たとの事、次のバスが来る迄、二時間も待たねばならぬ、ほんとに残念だつた。思案に暮れている時に、丁度安田向けの中型トラックが側を通るので手を上げると心よく乗せてくれた。結局スケジュール変更になつたわけだが私達にはそれでよかつたと思う。与那から横断して安田に着くまでの時間がとても長いように感じられた。距離にして約一六KM、こゝはバスは不通で、専ら小型のトラックを利用しているらしい。高い山の中腹あたりを通るのである。右も左も、前も後も山又山で、針葉樹林が鬱そうと茂っている。沖縄にもこんな深い山があつたのかと今更感心した次第、細い山道をずつとこれから通るのだ、道が悪いのと、砂塵がもうもうと立ち込み、汗ばんだ肌にべつとりくつつき、着ている服も真白になるのにはほんとに参つた。たまたま凸凹道にくると車体が大ゆれにゆれて、いやという程尻を強く打つ、同時に上腹部が締めつけられるような痛さを感じた。三人のうちでも一番小さなMさんがあつちこつちに転がされるのだつた。険しい山の中腹、運転をする人も乗つている者も緊張の連続であつたと思う。高い崖から下を覗く時や急カーブに差掛る時のあのスリル感も満更悪くはない。悲鳴をあげては、高笑したりで、一諸に乗つていた二人の、年輩のお百姓さんと若い男の人も、いつの間にか口を開く程に親しくなり、私達の質問にやさしく答えてくれたりして、道中愉快だつた。安田部落に着いたのは七時少し前だつた。浜辺に降りて、暫く休憩をして、軽い食餌をとる。拾い車だから多分無料で乗せてくれると思つていたが、何と一弗五〇仙（三人で）もとられた事で旅の第一印象を少からずも損ねたようだつた。宿を捜すべく散策した。やつと宿の（「普通の茅葺家」気軽に旅行者や出張でくる人を留めている）家を見つけ、寛いだ頃はもうとつぷり陽も暮れて小さな部落の家々に電灯が点つていた。どこからともなく、親子ラジオから歌謡曲が流れてくる。マスコミの発達のお蔭で、山原の隅々まで、文化の波が行き渡つているように思えた。但し交通の不便は何としても痛々しい。

汗と埃で汚れた顔や手足を井戸の冷い水で洗い流した后は気持がいゝものだ。こゝの家の十八才位の娘さんが私達の身の囲りを世話してくれた。夕食が済んでから、明日の朝食と昼の弁当（オニギリ）を作つて欲しい事を告げて屋外に出る。星空で月のない神秘的な

夜である。部落には一軒の店があつて、部落経営らしく店には三人の若い男がテーブルに向つてソロバンを一生懸命はじいている。店の前には買物らしく、婦人子供や、若い男の人が群つている。退屈そうに坐つている人も居れば、談笑をしている者も居て、これといつて感慨は湧かないが、何かしらおつとりした感じを受ける。アクセントに強い訛はなく、至つてきれいな標準語を聞いて、半驚いた。辺鄙な処にしては垢抜しているなあと思つた。弁当のオカズを二、三買つて宿に戻つた。娘さんから聞いた話によると、この部落には最近よく旅行者が見えて、昨日も数人、奥から歩いて来て留つて行つたという。又こちらでは月二回一日と十五日に映画見物があつて、その日になると全員仕事を休み、もし仕事をすると罰金されるとか、変つた面白い土地もあるものだ。社会主義社会を実際に見たい人はこゝに伴れて来て見せればいゝわねと冗談を云ゝ合つたりした。女が三人寄るとお喋になる事然りで、話の種が全くつきぬ。話題は種々で理想の男性とか、結婚の話となると興味ある意見が続々と出る。婚期というものは一体誰が提唱したのかとか、「結婚をする時が最も適令期なのだ」と婚期云々に対して反撥を抱くなど、ユーモアを交じえて尚話はつゞく、殊にウイットに富んだユーモラスなAさんが仲間とあつては爆笑、哄笑の連続で実に愉快だつた。Mさんは「今日は二カ年分笑つたわ」という。私達より二つ年上のやさしいお姉さま、この旅では姉さんらしい思いやりのある所を発揮していた。十一時には消灯らしいので、十時半には床を敷いて貰う。戸を全部開つ放しにして寝ても泥坊は居ないから安心しているらしい。しかし路地に面している所だけは戸を閉めて貰つた。明日は八時出発で又四里半の道を歩くのだから、うんと睡眠しなければならぬ。三人共ひどく疲れていたので、すぐ眠りに落ちていた。翌朝は六時に起床、洗面して、身の囲りを片附けている間に、宿の娘さん姉妹がちやんと御飯の用意をしてあつた。朝の涼々しい空気と、朝日がさんさんと降り注ぐ中で、新鮮なお魚の醤油煮と、ゆで卵にヘチマの味噌汁のおいしい食餌を撮る。八時になるのに早かつた。早々に仕度をして、お礼を云つてそこを辞す。

昨夜娘さんから、奥までの各部落間の大約の距離を教えて貰つては居たが、いざ宿を后にして、竹杖をつきつゝ海岸沿いを歩きはしたものゝ、すつと続く岩だらけの上を歩くのだから、開口一番Mさんが「この道は間違つているから戻りましよう」という、折角こゝまで来て（十五分位で来た所）引返えすのは何となく臆くうではあつたが、先輩の忠告を無視して后で悔やんでもいけないと思い、引返えさざるを得なかつた。海岩線は歩けない事はないが、女の人には大変無理だろうと、バックする途中、石を割つている中年の男の方から親切に山道を教えて貰う。失敗は成功の因で時間的には損をしたが、とにかく正規のコースに出た。さあ、これから本格的な徒歩の旅が始まるのだ。少々緊張する。山道といつても、金武あたりの道と違つて一人歩きしか出来ない所で、平坦、凸凹あり急に坂になつたりで仲々のスリルを味つた。海岸線や、海の色がとてもきれいかつた事、崖の上から眺めると又格別。海の底までも見とうせる清澄さ、大自然の中に吸い込まれて行くような錯覚を起す。涼風と共に潮の香りがこの崖の上まで漂う。安田を出ると同時に大粒の汗が額から流れる始末。名護で買つたサングラスを、とつては

はめたりで、汗をふきとるのに大童、大きな麦藁帽子を被り、右手には杖、左手にはバツグ、仲々忙しい。Mさんも、Aさんも、タオルを肩から掛けているが、陽焼予防らしい。約一時間おきに休憩を取り、その度に何かを口に入れていた。浜田の店で買つたジユース罐がまだ六本残つている。腰を降して飲みながら談笑をするのも、旅でなければ味えないものだ、一時間に約二〇分の休憩か、これでは奥まで果して着けるものかと、少々気掛りではあつたが、そういう心配もすぐふつ飛んでお二人に調子を合せて歩いた。

海と山以外に何も見られないこの辺鄙な処にも自然の美が奥深く潜んでいるため旅行者殊に始めて訪れる人に感銘を与えていると思う。思いがけない処に小さな川があつたり、せせらぎの音を真近で耳にして思わず嘆声をはり上げたり、又名もない草や木にまでも愛着を覚えたりで、自然を思う存分満悦したようなものだつた。山を降りて暫くは海岸の浜づたいを歩く事数十分、砂の上は足が自由に運べないものだ。空気が冷たく美味しいと感じたのは、伊部から我地部落へ向う時であつた、疎開先の田舎を思い出させる。部落は戸数が数える位しかなく、点々と離れている。蝉の鳴き声が寂しい、あちこちで稲刈作業している風景が見られ、若い人が案外よく働いているようだつた。若い人離農を嘆く人もあつて、従来の沖縄の農村社会が危ぶまれている今日、こうして汗と泥にまみれて働くたくましい姿を眼前にして私は何かしら安心感を抱くと同時に、心から声援を送りたい衝動にかられた。カメラに納めたくなるすばらしい風景が多くさんあつて、私達はしばし立たずんでは、深呼吸をしたり避暑地に最適な処ねと、感想を述べあつたものである。

昼食は楚洲で撮つたが、予想より一時間も遅れて着いた。オニギリと梅干に生あたゝかいソーダ水のお粗末な昼食だつた。こゝに来る途中、那覇の高校生数人に出逢つた。彼等は辺戸から来たといつて陽に焼けた健康そうな体は少しも疲れているようには見られない両方共、今来た道をそれぞれ尋ね合つたりして、元気附けるようにして反対方向に別れて来たが、又楚洲から伊江に向う途中でも高校生数人に逢う。夏休みだから、これから行くてで、合うかも知れないわねと云つて去り行く彼等の疲れたような後姿を見送つて、私達も道を急いだ。現在、沖縄一週路線を敷く計画で、早や奥部落の方は立派に拡張された道路が出来上つていた。山や岡などが切断された后の生々しい、姿、形は近代の機械力の威大さを物語つているかのよう。左に山右に青々とした海原、その向うに小島が小さく影を落して点在している。奥の一歩手時に入る頃から、三人の顔色にそれとなく疲れが見え始めた。伊江と奥の間は工事中で、ブルトーザーで堀り起こされた土の山を滑つては転び靴の中は土砂でいつぱいお陰で白のソックスは、赤く染つてしまう。Mさんは靴づれが出来たので楚洲で求めたゴム草履を履いていた。その頃からMさんは真先に弱音を吐いている。少し歩いては休みましようと懇願するようになつたMさん。Aさんもそろそろ足の先が痛みだしたという不思議な事に、私は何の徴候も現われず至つて彼女等よりは元気だつた。しかし足には自信があつたとは云え喉が渇くのにはいさゝか参つた。道中でお菓子も飲み物も殆んど平げて来て、今まで陽気にはしやいでいたのに、いつの間にか口を聞こうとしなくなつた。楚洲を発つたのが二時すぎだつたろう、炎天下をテクラクと歩いて来

たから無理ないのだ、小さな泉を見つけては飛び勇んで口をつけたものである。不潔感がしないでもなかつたがその場では考える暇さえないのだ、奥の部落にやがて入る頃に、道の側にコンクートで作られた溝が長く走つており多分山から流れてくる水だつたと思うが、その水をMさんが止めるのも聞かずにAさんと私は手にすくつて飲んだ、天水を飲んで居るみたい。その面ではAさんも私も無神経すぎる程だつた大腸菌の潜伏期間が数日だとしても帰つてから発病するから、今はその心配がないといつた具合、全くあきれたお嬢さん達だ。奥の道を歩いた時間が一番長かつたような気がする。Mさんに歩調を合わせて歩くのだから無理もない。Mさんの后姿を見ていると、可愛いお婆ちやまのようだと、Aさんが直ぐ冷かしにかゝつた。あらつ、貴方はオジイちやま見たい！、いゝカツプルじやないのと軽い冗談を吐いたりして、腰を曲げたり踏みしめ歩くAさん、二、三歩いは立ち止つて、二人を待つ私、全く面白い光景だつたろう。奥の人家に着いた頃は、太陽は稍西に傾いており、ほんのりとした空気が当り一面に漂つていた。四里半の道をよくこゝまで歩いて来たものだと後を振り返つては溜息をつく私達だつた。それはいゝとして気が気ではならない最終のバスに間に合わすために私一人先になつて、急いで来たものゝもう三〇分前に辺戸名行きのジープは出てしまつたという、店の小僧さんにもう車はないのと尋ねるとい忙しいのか「無」いと無愛相に答える。疲れている、又明日の勤務も控えているので不安でならない。一人焦つていた私は、テクテクと近づいて来た彼女たちに今の模様を告げると、じや仕方ないから宿をとりましようという。私は内心友対だつた。Aさんも多少渋つていた。それよりどうしても今日のうちに名護迄は辿着きたかつた。思案にくれている折りに計らずも中型のトラツクを出して中年の親切そうなオジサンがお乗りなさいといつて、辺戸まで運転して下さつた。ほんとに何とお礼を云つてよいかわからなかつた。奥から辺戸間のコースが又何と険しい山道だつた事か！日光のいろは坂を通つた時の事が思いだされる、辺戸岳のもつ雰囲気がまさしくも威圧的だつた事も印象的だ。七時前に着いたから一時間バストツプで待たねばならぬ、最北端に立つているという実感も不思議に出ない、乗りものゝ事が気掛りなのと心身の疲れが何ものも受け入れなかつたのだろう。道端に積まれた材木の上にドカンと坐るともう立ちたくもない。そうしている時にふいに背后に人の気配を感じて振り向くと去年T、Bで入院していたGさんのはにかんだような笑顔がそこにあつた。陽に焼けた元気そうな青年になつていたから病院に居る頃とは話にならない。家はすぐそこだから是非寄つてくれという。半ば踏つてはいたが彼の好意を無視するのが憚れて自分達は遠慮するからといつてきかない二人を無理に誘つて一諸にお邪魔する事になつた。

彼の家族に招介されて、予想外のお待遇を受けた。食欲減退気味の私は田舎の山盛の御飯を見ると急に食欲が出たようで三人共お美味しく戴いた。八時前にはバスが出るのでお礼を云つて早々に辞退する。辺戸名に着いたのが九時頃だつた。もう最終のバスも無い。これから拾車をさがさねばならない。私達はその日は全く運よく出来ていたのだろう。折りからピクニツク帰りの那覇行きの（大型）タクシーが将に出んとしている処を見つけ難なく乗せて貰う事に成

功。第二の願いも叶えられた、余りのうれしさに口も聞けなくなつていた私。運転席に男の人が三人、后部のシートに私達三人それから小さい子供が二人、全部で八名、ルームライトを消してあるのでまずわかつこなし。運転は二人で交代でやつていた。インスタント時代にふさわしく、辺戸名からの夜の強行軍はヘトヘトに疲れた三人の女性に唯々眠る事のみしか教えてくれない。名護をすぎる頃からは皆おし黙つてスヤスヤ……男の人達の聞くに値しない冗談も軽く受け流し、冷んやりとする窓外の空気を頬に受けながら又いつの間にか瞼が重くなりぐつたりする私達だつた。この車は西線を通つているから当然のように嘉手納を通つて伊佐迄乗せて貰つた。時計を見ると十一時半だつた。丁重にお礼を云つて伊佐のバスストップより石川行きのバスに乗る。無遊病者のように、伴れて行かれるまゝに乗つていたとしか思われない。普天間に差掛るとき迄どの方向を走つているのかわからず、二人に、「貴方はまだねぼけているの」と云われて始めて、指向力の欠けた私をやつと意識徹回した有様石川には夜中の十二時過ぎに着く。冷い飲み物をとつて、タクシーで無事浜田に到着。

心の中でバンザイと叫んだ。

全く慌しい旅ではあつたが、そこに何か意義を見い出そうと懸命であつた事は確かである。旅行好きなAさん、Mさんから大いに得る所があつた。

脚

やまさとのぶこ

適当に色が白くてカモシカのようにとまではいかなくてもすんなりした型のよい脚はしとやかな女らしさを感じさせる。ことに夏の暑いほこりつぽい日などそのような脚にはくサンダルは涼しげで見た目にも気持がよい。この四、五年の間に靴もいろいろと流行があつた。踵が太く短かく、先の広いもの、舟底の重たい感じのもの……それから去年に流行つたイタリヤンカツトとやらつま先のしやんと尖つたものなど……靴屋の飾り棚はいつもにぎやかだ。しかし、私の脚は流行とは何のかゝわりもなく過して来た。麦わらでストローで編んだ今にも、白いさざ波のたつ浜辺に飛んでゆきそうなサンダル・デコレーションケーキのような毛のふかふかのスリツパ、踵にも模様をすかしたエナメルの靴、貴婦人のようなわに皮の靴、我まゝ娘気取りのすました靴、それらの靴には夢が一杯あつて思わずとりあげて足に履こうとすると！あなたのような脚の方の御用は承まわれません！とそつぽをむく、第一にあの鏡がいけない、足もとをみすかされた感じとはこの事を云うのだろう。にぶい螢光灯のシヨウウインドの中にずらりと並んだ靴に見とれている時、何かの拍子に床にたてられてある大きな鏡に写つた自分の脚に気がつく時、

胸がしゆんとなる。いつもきれいに洗つているのだが色が浅黒く薄汚れた感じがんる。形は悪くないと思うのだがすねは毛深く、それに足が大きすぎる。この靴はすてきだと喜びいさんでいてもきまつて足に合わない。私は手の指も長いが足の指は尚長い。サンダルを履くと靴のつま先から指が三本によきつとはみでておかしな恰好になるし、先の尖つたハイヒール等は指がつまつて暫く歩くととても痛くて我慢が出来ない、それでそんな靴はこちらからご免だと言いたくなる。それでも現代では靴は生活の必需品となり、どうしても脚に合う靴を探さねばならない。となると十文の足にはデザインが良いからとか、色が好きだとかがいろいろ文句もつけられなくなる。そんな足の指に最近靴たこが出来てしまつた。恰好なとど贅沢は言わないが勤務用の運動靴も履くことが出来なくなつた。思いあまつて医者に相談すると靴を履く身分ではないと言われた。田舎育ちのタークナサーヒサでスマートな靴を履くのが無理で第一に靴を履かないのが治療だとの事、それを聞いてすつかりしようげているとその医者は自分もそうだから毎日大きなスリツパを履いているのだと言つて慰めてくれた。人の顔は目、口、鼻と自ずから調和がとれているとよく言われるが、脚だけは別だと思う。それは顔や体つきに以つかわぬ脚を持つた人をよく見かけるからだ、足首が太すぎたり、お箸のように真直ぐだつたり、ガニマタになつていたりで…しかし整いすぎた脚に親しみが感じられないのは何故だろう、美人コンテスト等に出場している人達のずらりとならんだ脚、脚、脚!!、水泳着からはみ出た巨大な脚に顔と胸がついているように見える。ずらりとした脚について一つ思い出すことがある。数年前に米軍の陸軍病院へ研修でいた頃の事、見事な脚を持つたきれいな女の患者が居て膝の屈伸が不自由で治療を受けたが、さつと脱いだスカートの下から出た脚は金色の毛がむしやむしやと生えていて本当に嫌な気がした。今でもあちらさんの脚をみるとその太もゝを思い出す。それからもう一つ、男の人のあまり形の整つた脚には魅力がない、脚だけではなくて女の人にある腰や肩の線がきれいだとか、脚がきれいだとか、そんな部分的な美しさに欠けているのだろうか。普段は長いズボンをはいていて見えないからのなか、皆が高いとか、歩き方の評こそあれ、女の話題にあがらぬもので私も全く関心を持つてなかつたがある日、これも軍病院にいた頃の事であるが患者の慰問に来たハワイのクラダンスを見た。ビヤだるを二つ重ねたような年増の女がちゞれた髪に花を飾り、ムームーのドレスを着ていた、(今ムームーのドレスは流行つているがあの時はふとんカバーをまとつているのかと思つた)。彼女等のひくウクレレに合わせて踊つていた。若い女の踊りにすつかり見とれていたがその中に体格のいゝ男が風呂敷のような小さい布をきつく腰に巻きつけてリズミカルにゆれる腰や脚には何の美しさも感じられなかつた。多くの患者ははやしたてゝいたが何だか嫌な気がした。

ある雑誌に体の部分で一番どこが好きかと多くの有名人に聞いていたがある人は手と答え、ある人は額と答えていた、写真に載つていたその人は本当に美しい額をしていた。私は脚が好きだと思う。手は形もしなやかで表情も豊かであるが手をみていると嫌な事、辛かつた事しか思い出さないのだ、淋しい時に膝を抱く癖がある。不思議に足の持つ感じは暖い、啄木の詩に「わがくらし、楽にならず

じっと手をみる…とあるが 足を見と言つた方がぴったりすると思う、これでは詩にはならないだろうが……パールバックの「大地」に出てくる貧しい王竜（ワンルン）の妻になった阿ラン（オーラン）は大きな足をしていた、彼女はその足で沈黙ってよく働いた。そして豊かになつた。だが足を纏足していなかつたため王竜に捨てられてしまうが彼女は自分の足を愛していたと思う。足を清潔に手入れしてきれいにしたいと思う、好きな靴を沢山買つて足にまといたい、足もとをじっと見つめれて顔を赤くする事のないように……

（コザ病院）

十期生の記

備瀬信子

一九五五年四月二日沖縄看護学校入学、入学生七二名で入寮はその二日前の三月三十日であつたと憶えている。

コザ市はまだ越来村で今のゴヤ中央市場通りになつている附近の土地が軍から解放されたばかりの頃であろうか、あちこちに新しい家が建ちはじめてはいたが宿舎の二階からは、第十三号線の道路や嘉手納航空隊に通ずる道路が殺風景に見とうせた。

宿舎の前の掲示板に新入生の氏名と部屋の番号がはり出されてあつたが三年生が入り口までむかえに出てくれた 宿舎の壁が高く白すぎると思つた、その日から夕食がとれるとの事ですぐ食堂に案内されおそくなつた夕食をひとりでとつたが冷えた御飯と中味のない味噌汁はわかめの香りがした。御飯をはみながら、たそがれに灯つた宿舎の灯を見つめていると家をはなれてひとりできた淋しさが胸にこみあげた。

食堂前の広場で入学式があつた。校長は若い新垣浄治医師で簡単な激励の挨拶があつてすぐ終えた。その夜上級生が私達新入生の歓迎会の催しがあつてお菓子やお茶をのみながらお互に自己紹介をしたがそれまで威圧的に感じられていた上級生が親しみやすくなり、入寮からの緊張が少しほぐれるような気がした。

それからは講義、教室実習、病棟実習と心せわしく日々がすぎていつた。教室での最初の実習はベツト作りからだつた。毎日々々ベツト作りばかりでつまらなく、いつになつたら病人の看護ができるのかしらと思つた。

十月の載帽式も間近かな頃から、そろそろ退校する人がでた、去る人を見送る事は淋しかつたと思う、最初につらかつたのは宿舎の掃除当番だつた。各部屋交代で当番になるのだが二、三年生は朝勤、前夜勤と時間がまちまちであるのでどの部屋でも一年生がしていた、廊下や便所の当番はよかつたが浴室や洗面所の当番になると、そこを使用していないのは夜間ばかりなので、夜の二時頃から起きて四時頃までかゝりそれからひかと寝入りして授業に間に合わせたが、きれいに掃除をしても心もとない人がいてすぐ汚してしまうするときまつて掃除の仕方がわるいのだと注意をうけてほんとうに嫌な思いをした。

最初に楽しかつたのは中城公園へのピクニツクでした、お互がま

だめずらしく「あの人は八重山出身よ」「あの人は宮古の方よ」と話しあつていた、だれだつたかしら、通りがかりの馬をとめて意気揚々と馬にまたがりたずなをとつて写真機を向けたが馬が暴れだしはしないかと顔面蒼白になり馬からおろしてもらつたのは……

一年生のなかば頃越来村がコザ市に昇格した、コザ音頭が生れその音頭の振りつけコンテストがあるとかで、クラスの二、三名が振りつけて一年生全員が……ちよいとコザ音頭よいよい…と手拍子よろしく練習したがどうしたのか出場せずに一等の賞金ももらえなかつた。

その頃はじめて肺外科の手術がはじまつた、日本からも医師が招かれての事だつた、三年生は意気ごんでお部屋でも肺外科の手術について論じ合つていた、手術の日は私も興味半分で二、三名と見学に行つたが医師も看護婦もすごく緊張した面もちで動きまわつていた、ニュースカメラマンらいつぱいの人だかりで側にもよりつけなかつた、私達一年生は新築なつた結核病棟を見てまわつた、そして肺外科手術の第一号が成功した事はよく日の新聞で知つた。

夏の教室の暑さにはみんなが参つていた、映画館のマイクは鳴りつぱなしで講師の声もきゝとりにくいほどだつた、上映されている映画の声がそのまゝマイクから外にながれ、それに客よせのためのレコードまでかゝつていた。美空ひばりの♪私はブラジル花嫁さん……の歌が流行つていた、私達はよく（ゴンドラの歌）を口ずさんでいたが私はその歌をドラゴンの歌だと言つてみんなに大笑いされた。

二年生に進級する頃には同級生から十数名も少くなつた、そのたびに残つた自分達も動揺された、退校の理由は家庭の都合、病気と色々あつたが一番多かつたのは今までの夢と現実の相違でその生活についていけなかつた事だと思う。宿舎でも掃除、病棟に出ると又便尿器片ずけ病室の掃除其実習の意義や目的がまだ自分達では見いだせなかつた、講義時間、実習時間を合せて一日八時間、週四四時間せめて四八時間それがその頃の全生徒の理想であつた。今ではそれが当然の事でクラブ活動、クラス会、はては寮の当番の時間まですべて週四四時間制になり病棟実習からの肉体的な疲労は見られないその時間数について教務に談判に行つたのを思い出す人がいるだろう。この問題は今にはじまつた事でなく前々からの問題だが今はその時期ではないのだと言う。先輩は先輩になるに従つた自分達の学生の頃はもつともつと大変なものだつたらしい事を話してくれたが病棟実習、講義と合せて一日に十二時間近くになる日もあり大いに不満を持つていた。それが三年の夏休みから週四四時間制になり三ケ年間で琉大の単位が九九単位もらえるようになつた。

今より日本復帰の運動のさかんな頃で琉大の学生がそのために退学処分をうけそれらの学校の応援を自治会に求めた事があつたが学校から表立つた事はしないようにと注意された。

三年次のピツクニツクは楽しかつた。伊計、平安座、宮城島と与那城村の離島を巡つた、全学生のピクニツクは実習の都合で五月四日、五日、六日と三日間にわけられて行なわれたが一、二年生とも五日の子供の日を希望していたが三年生が強引にほんとうに強引に五日をとつた全くの意地つぱり……

空が蒼波も静かで五月の陽ざしは暑つた。先頃亡くなられた与儀

喜啓医師もいつしよだつた。

三年も卒業の年に学校は十周年をむかえてそれを記念してぜひ校歌を作ろうと言う事になり歌詩は新聞広告に出し四、五点は集つたが大城立裕氏に依頼してあつた歌詩を採用した作曲は渡久地政一氏にお願いした。卒業も間近かにせまつた頃校歌は出来あがり私達は式に間に合わすために学校のビービーきしむオルガンに合わせてソプラノもアルトも地声をはりあげた。渡久地氏はいく度もオルガンの手をとめて発声の注意をしたが……渡久地氏はオルガンも役に立たなかつたのかしらと思う。

校歌を最初に歌つて卒業したのは私達です。

一、天つ日　かぎろいて
　わが窓に　みつるとき
　白き衣に
　若き夢　あふれんばかり
　いざ　学びの友よ
　語りあいて築かん
　尊き使命　になう青春

二、ふるさと　いたつきの
　はらからに　しあわせを
　白き衣に
　このねがい　ふるえんばかり
　いざ学びの　友よ
　誇りもちて　みがかん
　恵みの園に　生くるつとめを

三。人の世とこしえに
　やすらぎの　あかしあれ
　白き衣に
　和魂（にぎりたま）　かがやくばかり
　いざ　学びの友よ
　双手あげて　よばなん
　望みひとしき　世界の友よ

ナイチンゲールの碑のあたり早春のひかりがいつぱい……。

一九五八年三月十日沖縄看護学校の第十期生として巣立つた卒業生九名。

現在は公看に九名、臨床に四六名、助産婦学校に一名、退職者三名（本土で勤務者も含めて）、年に一度同期会を催しお互の親睦をはかつている。

……前途に辛多かれ……

……辛多かれ……

（コザ病院）

想い出

金城安子

今から六年前、看護婦になる機会がおとずれた。高等学校の卒業を前に自分達の将来について一生懸命に考えている時だつた。

看護婦になるなどと夢にも見えなかつた事が現実になつてしまつた。試験を受けてみようと決心させたのは好奇心!!気まぐれ!!も手伝つていただろうと思う。何よりも大きな魅力は一生懸命自分が出来るだけの事はやつてみようというファイトだつたと思う。

又受け持ちの先生が大の看護婦支持者で私達も大いに影響を受けたと思う。入学願書も殆んど先生がやつて下さつた。

いよいよ入学試験という日は、友達と一諸に学校を探して行つてあの時始めてわかつた。コザの町にもこういう静かで清楚な所があるのかと不思議な感じを受けた。

しばらく立つて合格の通知を受け、いよいよ寮生活が出来るので嬉しいやつら心配やら、寮生活が始まつた。白い壁にかこまれ、東側にガラス窓がある小じんまりした、その中に六名分の机、その上には教科書やお人形と女らしく、きれいに整頓されたのが私の部屋、三年生二名、二年生二名、私達新米二人、でお部屋は構成された。

学校では新しい、むずかしい本を貰い、これからこんな沢山の本を学んでいくんだと意気込んだ毎日だつた。それにテストは七十点以上取らなければいけないとあつては皆一生懸命勉強した。夏休み前迄殆んど毎日を本とにらめつこして過した人も多いだろう。あの時の大きな悩みはどうしたら点数がかせげるかという事だつたらしく、あの頃の日記帳を見ると思い出す。

夏休みも間近にせまつたがだんだん怖い物に近づいて行くようで不安だつた。

戴帽式!!

いろいろな門を通りぬけて果して目的地のあの帽子が貰えるだろうか、という不安が皆の胸にあつた。そうしたある夜、映画を見て帰つて来ると、洗濯干場にかなりの人達が集まつている。いよいよ来るべきものが来たのかなと胸がドキドキしてきた。連れの友達と一緒に近づいて行くとやつぱり同級生ではいるがいろいろと討論していた。

皆の願いは「皆が帽子を貰えたら」とたゞそれだけだつた。

入学して四ケ月しかならない私達にはどうしてよいのかわからず、夜のふけるのもしらず坐りこんでいた。教務の先生に注意されて一応部屋には帰つたものの眠られぬ一夜を過ごした。——当時、那覇では、土地問題で琉大生がデモ行進をし問題になつていた時でその影響で私達もデモ行進をするのではないかと心配をなさつた先生もいらつしやつたとか、皆一緒にやめようという二、三の声もあつたが、そういう勇気もなく、その夜、私達の同級生が五、六名減らされた。

目の前に真黒い雲がおおいかぶされた感じで入学最初の大きなショックだつた。

でも戴帽式は涙の出る程、嬉しかつた。

前の日から髪を切つて貰つたり、制服、靴、ストツキングをそろえるのに忙しかつた。

あの日は道行く人々迄が私達に微笑みかけてくれたようだつた。時々あの時の写真を見ると妙な気持ちになる。傑作な写真ですネ。何名かの美女がクローズ・アツプされて！

二年生になつた時はさすがにホツトしました。下級生もいるので少し姉さん気分というところ、特に印象深かつたのは、看校創立十周年記念行事の演劇。

三年生にもなるといろいろな面から緊張して来る。皆、卒業後に行われる認定試験のことで頭が一杯だ。でも夏休みは思い出に残るようなことをしたいと本土旅行を計画し、二十名が参加出来た。それに看護婦さんも、三名加わつて、ほんとに楽しい旅行でした。今でも一緒だつた人は又いつの日か一緒に行こう等と話に花が咲く、がもうダメ、もう年ですもの。

休みの三週間があわたゞしく過ぎ去り、二学期が始つた。あと六ケ月、暦は一枚一枚めくられて行く、気はあせつて来る。大きな壁は何と云つても認定試験、でも学生会の役員として何もやつていないというあせりはどうしようもなかつた。私達より一年上の生徒は校歌を作つた。しかし私達はというとたゞ決つた事をやつて来たにすぎない。

そうこうするうちに十二月が近づいた。町には活気が出て来た。クリスマスには毎年全校生徒がクリスマス・パーテイーをしたものだ、それは学校の雰囲気や生徒の気分にピツタリした感じだ自分達の手ですべてがなされた。

あの時も役員会で案を作り、それを教務の先生と相談した。その結果は話合いがうまくいかない。いつも実習時間の問題でつまずく、その時もそうでとうとう行事に対して批難された。生徒全員がクリスチヤンでもないのにパーテイ等する必要はないのではないかと……私達は毎年やつている事だから、やつていいと思つていた。

又、役員会で相談し直し、自分達のことは自分達が出来る範囲で事を進めて行こうということになつた。各クラブの発表会と寮祭をやろうということになり、度々学校役員と寮長及び室長の会合を持つた。

プログラムが決つて行くと皆忙しくなる。

——ジングルベルの音楽にせき立てられながら……二十四日の一日を朝から晩迄フルに使うことに決め、生徒の実習時間はそのままにして朝参加出来ない人は晩に、又はその逆といつた風に、

当時寮長だつた長崎春子さんに寮の事をまかし、体育関係は部長だつた石川美津子さんに指揮を取つて貰つた。バレーボール、テニス、ピンポン大会が催され、各学年が参加し競つた。バレー部は石川さんがキヤプテンで随分強かつたし、ピンポンでは八幡さん達が活躍していたので勿論勝利は我が三年生に！教室では大城静江さん嶺井夕起子さんを先頭にした王花クラブの展示場、膿益や吸い飲みにもその日は花を！だしたね。

知念貞子さんの書道、豊岡さんの絵、その他手芸多数、又三年生が

行つている実習場からはいろいろ実習場の紹介をして貰つた。手術場からはセツトを、TB病棟からはTBに関する統計、外来からは救急処置の方法等を出して貰い、それを一心に見学にいらつしやつた方々に説明していた川端さん、山城千代子さんと下級生数名の顔が今でもアリアリと浮んで来ます。又図書室では石川恵美子さん宮城重子さん達のキリストに関する本や絵等の展示、脆には食堂をパーテイーの会場にも食堂のテーブルを一ケ所に寄せ集め、その上を毛布できれいにおおい舞台らしいものを作つたがいざ挨拶のために舞台に上がるとグラグラするがあとのまつり、プログラムは進行していく、バケツ、チリ取り等を持つた〇〇交響楽団、わがクラスの名物バカヨドリを思い出すと今でも吹出してしまう。お腹に洗面器を入れていたのは誰？

見物席には日頃お世話になつている先生方、各科病棟主任と実習以外の全校生徒に私達の隠し芸を見ていたゞいた。プログラムは最后を飾るダンスパーテイーに近づいて行く、その前にプレゼント交換があり、サンタさんには誰を選らぼうかと前々から話があつたのだが全校一緒にやるので一つすばらしいサンタをという事になり、外人を頼んだ、そのサンタさん、まさかパーテイー等に別用されているとは思わなかつたのだろう。コザ病院の小児科に入つて行つてしまつた。これは大変！私英語わからない！　会場につれ戻すのに大わらわ。大きい体のサンタの出現で皆一時はびつくり、でもプレゼントをくばつてしまうとクリスマスの歌やそれに合せてひようきんに躍つて皆を笑いの中、でもサンタさんが帰つた時には、ほつとした。

それから教務の先生方から学生に送られた大きなケーキを皆の手に、スピーチ！感激！私達の前途に祝福を！と雰囲気に酔う。いよいよダンスパーテイ、メロデイの流れにのつて皆の軽いステツプ、あゝ羨やましい、私達マンボ族にとつては、真夜中の十二時、日程を全部すまし幕をおろす。私達の計画は成功だつた。その夜、主だつたというよりも気の合つた人達が集まり喜びをわかち合つた。あの時、誰彼となく協力してくれた事は今でもいや生涯忘得ぬ事だと思う、あらためて皆に御苦労様でしたを云いたい。又行事をやる事が出来たのもあれ迄育んで下さつた先生方のお蔭だし、教務の先生や事務長さんがこれはすばらしいとあちらこちらに電話をかけたり、あと一日でものばせたらと残念がつていらつしやつたとの事も忘れがたいことです。

三月も間近かになつて来ると今度は、私達は卒業後の看護の面で力を入れようという事だつた。ちようど那覇病院の完成を前に私達の胸はもえた。沖縄全島に離れ々々になろうとも私達は那覇を中心に強く手をとつて行こうと、これが夢だつた。しかし現実はうまくいかない、同期生会でさえ卒業後の三年目にしか実現していない(二、三回集まつたことはあつたが)。今からでもと意気が合つているようだが、発展の途にあるか否かは個々の心構えによると思う。では最後に少しでも皆の想い出を呼び起こし、ファイトが湧けば幸いです。乱文で御免下さいね。

我が丑年生れの人に幸多かれと祈る！

（那覇病院勤務）

那覇看校の創始の思い出

宮良照子

那覇看校一期生である私はあのころを思い出しつつペんを走らせます。沖縄看護学校がコザ看護学校と那覇看護学校になり私達のクラス三一名は二ケ年のコザの生活をおえて友人や先輩後輩に後髪を引かれる思いで別れを告げた。亦新しく始まる那覇の生活に胸をふくらましつゝ……。

病院はまだ工事中でその規模の大きさにはびっくりしました。玄関は通れず枠板があちらこちら積まれ、仮小屋が三ケ所位あり、何如して宿舎へ行くのかもわからなかつた。同じ場所をぐる〳〵廻つている感じでした。会う人は少なかつた。二日前に一年生が入舎している丈だつた。三年生の部屋だという所には、あちこち荷物が転がつてあつた。当分は食事も授業もないとのことでしたので、本島の人は荷物をそのまゝにして帰つていつたらしい。ゴミが5cmもたまり。ガラスは白く拭いても拭いても反応はなし、ベットはタンスの引出に梯子を渡した二段式、押入れはスマートで開け放なし、二階に上れば隣室は空気で仕切られ市内ならず、同棟の才女の私生活は奥迄一目に伺え、隠事禁物、思い秘めて寝言でも発すれば、宣言同様でしまつたという間もなく知れ渡る。カーテン無しのガラス張りの中で昇日落日には日の光を欲し、夜は吸収熱にむせ、夏中は屋上に席を持ち寄つて暮した。故に私達は自然と品行は方正、雲りない近代的淑女？になつたわけである。

建物と備品は似合わず、上品、手入れ取扱いの件ではいつもお目むを乞う。寮長役員なる者は実に可愛そうだつた。

今ではあちこち故障しているが、私達としてあの時慎重に取扱いやさしくした心算だが……。クラス員が少ないせいか団結心固く自分等こそ那覇看校の校風を築くんだと！若い瞳は輝き、みんながそれ〴〵に役員になつた。連帯性がある学生会、寮の組織化、その他資金備品集めに明け暮れ、これといつた活動はなかつたが土台造りに懸命になり、すごくやり甲斐があつた。みんなやれば出来ると云う確信と、若さのファイトと協力をモットーとした。若さこそ生命であり行動こそ思想であり、協力して努力すればどんなにでも道はひらかれ力が湧いてくる。何ものかにすべてをかけている姿こそ実にすばらしく美しいということを学生活動を通して私は学びとることが出来ました。一年生の同期会は全員出席で楽しくはしやいだ。朋路会という同窓会も結成した。毎年会員もふえ、私達と共に年をとり規模も大きくなるだろう。どのように肉をつけ深さ広さを増して行くかということが、これからの課題であります。

無銭旅行記

那覇看護学校一年
伊波利恵子

去る夏休みのある日私達ナンチキグループの一人が無銭旅行をしないかとやって来た気の合ったメンバーだけあってすぐにOKそしていよいよ予定の日が訪れた。さてこの旅たるや、ナンチキに自信のあるお嬢様方五名でズボンに長袖のシャツ、そしてズックにショルダーバッグとナベをぶらさげた勇しい出立ちで石川を後に五日間の放浪の旅へと向った。屋嘉では野菜仕入れの三輪車をつかまえ金武で下車。小休息の後某ラジオ商会の車がチャーミング(?)な我々を見てストップ!「お嬢さん方どこまでかい途中まで乗せてあげようか?」ときた。我れらはそこがみせどころとばかり一時は辞退(このウソホント。)しかしわざわざどうぞと促すものだからソレツ!とばかりに上車「オーライ」となつた。辺野古の第二ゲート前で下されノコノコ歩いていたものゝ炎天下であるだけに一寸行つて山道で休憩していた。とその時車の音醤油会社の車だ!ストップさせ醤油瓶の上に大きなヒツプを乗せて出発。大浦までの山道を醤油瓶の上でヒツプがガタンゴトン〳〵、その痛いこと。痛いこと。

瀬嵩で昼食を済し車をつかまえるまで徒歩。それからずつと歩き続けて早四時そこでバスを利用することにした。絡点平良で下車して宮城へ行く途中雨に降られてズブぬれ!どうやら宮城に着いたのが五時すぎこれから宿泊所の交渉と夕食の準備で大量!他の四人は夕食を作りに海岸へ行つてしまい私一人とり残された「蚊」とけんかしながらの荷物番のつらい事……やれやれ夕食だ。弁当箱のふたに御飯中にお汁を込れフーフーいゝながら食べる事のたのしい事片付けをすまして床に着いたのが十時すぎ「蚊」のすばらしいコーラスが子守歌に化してウトウト。朝食は夕べの冷御飯にラツキョウとお味噌といつたAランチに値するヤンバルの朝食!しばらくして出発、ここは山又山で見わたす限り山ばかり、辺地だけにもちろんバスは通らない。いくらいつてもきりのないような大山道!頼れるものは只我が大根足のみ、この時初めて大根足に感謝した。

腹の虫はわめき、足はクタクタ、食べものはなし、やつと救いの人に出合つたその人夫に案内されオンボロの山小屋へ行き、谷から流れる水で米をとぎ中食をすませて一服お腹は景気ずいているけれど肢体コテンコテン、それでも重い足をひきずりひきずつてどうや

ら安波部落、今晩はそこに落ち着く事にしよう。公民館はなし民家をたよつて一泊させてもらつた三日目の朝が訪れた、去日からの疲れがとれてないそれで前進！口だけは意外に元気で深い静かなそして坂であろうと景気よく口ずさんでいる。さて一服しようと橋のたもとで腰を下していると材木を山積みした大きな車それとばかり車をみてにこり！五名揃つて愛嬌をふりまくと「どうぞどうぞお姉さんたち」我々はアリガタや〳〵と材木の上に大きなヒツプを落ち着けたガタンゴトン〳〵痛くともこわくとも仕様がないこれが辺地の唯一の交通機関らしい十二時すぎ与那へ横断謝敷まで行つてジユースとパンで腹がしらえそこで一休しているとブリヂトンタイヤの宣伝カーがやつて来た「途中迄でよいから御願いします」というと「サアどうぞと」ドアを開け席までゆすつてくれる男性群が三人このお兄ちやん方宜名真までの用事であるのを茅打バンタ辺土奥奥を引き返して辺土名塩屋までの間を一諸にドライブ？した。その間での談話の事実にバラエテーに富んであのすばらしい穏やかな澄んだ海を見ては「僕の心はあの海のようだ」といゝカヤウチバンタつてどう書くかときくとカはかんばちのカヤはやしるのカヤウチバンタだいという堂々たる説？をとなえるなど沖縄一長い宜名真トンネルにさしかゝると全くムードのある所だ「キツスをしよう！」あゝ明るみへでちやう後へバツク〳〵とヒヤ〳〵させられたり……。ところが芯の強いナンチキ娘のつぶ揃いだけあつて誰一人として一目ぼれするものはなしむしろお兄ちやん方要注意！こんな小さな車にガメツイ我らを乗せそう浮き浮きするとはどこまで利用されるか知らないですぞ！塩屋で下車、そこからバスで真喜屋まで、そこで公民館に一泊させてもらう事にしたところが囲りに若いオノコ（男性）多し、ビクビクガタガタ、落着けないもので九時すぎの真暗な田んぼのあぜ路を空いた腹をかゝえながら宿泊所を求め行く、その途中、田んぼへジヤブンとおつこちた。なんと気持の悪かつた事、その夜は一メンバーの知人の家へお世話になつた。そして翌日二人の落武者が出たのは残念だつた。それでも我ら三人は勇みよく今日も旅へと身をたくした、としばらくしてハイヤ「が自然ストツプ！ほんとに今日はついているとロ々にしながらではよろしくと仲宗根諸志を経て今泊まで、そこで中食だ予算は五〇仙にも足らない運よくも卵の安い事、小さいの三コで十仙！そこで卵を講入、調味料を買う変りアイスキヤンデーを買う事に意見一致キケンデーをしぼりながらいそいそと海岸へ潮水でナベ道具をガラガラ火をたきつけていると通りがかりのおばあちやん「イツターヤ、ハマヤドイルスルイ？」「いえいえワツターヤ旅行中ルヤイビール、ナマヤゴハンニチヨウビン。」と舌をカラマセながら説明するとやつと、ところがこの食事なんと診品ぞろい、底はナンチキ上はプチヤプチヤ、お汁は味噌に塩、そして卵と調味料がなかつた性か一人のものが砂まで入れてくれた。それでもおいしい事、たのしい事、食後は北山城跡へたらふく食べたら元気百倍、一挙に登つてしまつた。

ここ城跡も三、四年前とうつて変つて今は立派な観光地と化している。そして本部島を一周して渡久地へ、そこで旅装をとき五日めを迎えた。さあ今日は伊江島だ、船に乗るとなると皆大はしやぎ、十時半港を発ち四十分程して夢の伊江島へ上陸、先すは期待のアニーパイルへ、はてさてここは又意外に期待はすれ、某小校の子供らが

一生懸名逆立ちの練習をしている。しかし一向に来出ない女の子、一寸と気の毒に思えて……ああ女に生まれたこの私も出来ないものかやってみたくなつた……。

アニーパイルを引き上げいそいそと腹ごしらえ景気づけて今度待望の伊江島タツチユウへ、鉄のクサリをつたつて……四つんばいになつたり、フーフーしながらどうやら頂上、ああこの感激誰が知ろう海の中にポツカリと浮いたこのタツチユウ見わたす限り大海原ではてなくなおすばらしい、間のあたりに見える真白な備瀬半島!!ずらつと並らんだモクマオ並木!!自然的模様にえがかれたアスファルトもう少しで良いから感受性が高ければなあ、すばらしい詩も生れたろうに、この親ゆずりの鈍才には表現しようのないすばらしさ、みとれてみとれて座つていようと仕様がない、やがて船が出る、波止場までワイショワイショ。間に合つた、船中では波の打ち寄せるスリル万点の所で声を上げ注目を浴びる。某おじさん曰く「伊江島にはすばらしき男性多いでしよう?」「何をおつしやる〃ハンドウ小〃みたいにされたらそれこそ大変!!どうも皆最低に見えてね」というやおじさんのホツペタ早フーセンに早変り……そうこうして渡久地に着いたのが五時すぎ日がれない中と家路へ急いでいると今度は某社のザリ運ばんの大型トラツクに出合つた。手を高く上げてストツプ!!ソレソレ急げとザリの上へドシンとヒツプをおく、予算もなく名護も素通り、仲間、安富祖と西線を通つてやつと石川へ着いた時はとつくにくれていた。ペコペコした腹をかかえて食堂へ、幾日ぶりにおソバを腹一杯食べホツト一息といつた時、無計画の計画の中、無事若き青年時代の思い出ともなろう楽しかつた無銭旅行に幕は下された。

伊原の壕

具志八重

十六周忌を迎えてやつと戦友のねむれる伊原の壕に碑を建てる準備が出来た。今次戦争の犠牲の大きかつた沖縄の人々の蔭で終始黙々と只一筋に負傷者の看護の為に死を越えて昂然とした態度で働いていたのは看護婦ではなかつたでしようか。一九四五年六月十九日第三外科勤務の二一名は摩文仁の伊原の壕で立派な最後を遂げたのである。当時陸軍病院は南風原国民学校で、伝染病棟は学校の西側の丘陰にあり腸チフス患者が圧倒的に多く、感染の危険率も高かつたが誰一人不平をいう者はなく、看護に、壕ほりに、水汲みにと一生懸命やつた。初めの間は伝染病の看護をやり夜は壕ほりをやり午ら照明弾の上る首里を眺めつつ静かな夜を楽しんでいた。

しかし友軍の攻撃は思う様に行かず日々戦斗は激しくなり第一線よりの負傷者が殺到し外科病棟のみでは収容出来ず、内科は第二外科伝染病棟は第三外科とし病院全体が多科病棟に改称された。

首里が陥落しそうになつた五月下旬頃第三外科は第一第二の外科の後を追つて泥濘の道を摩文仁に移動することになつた。これだけの患者を解放させるのはしのばれず、どうしても歩けない重病の負傷者には別れを告げ、何とか歩行の出来る者又目の見えない者は手を引き、背負い、各自持てるだけのほう帯材料医療品をかついで移動した。数日後みつけたのが伊原の壕と云われている自然の洞くつであつた。（現在姫百合の塔と云われている所）その前より少数の生徒が軍と行動を共にしていたが、六月十五日一高女の女生徒が担当に入つて来た。人の出入りが激しい故に発見され十六日の晩に黄燐弾の様な物を投下され壕を出ることも許されず、又出ようとする人もなく壕一杯の煙の中で初めは苦しくむせついていたが、いつの間にか静に息をひきとつて居た。それぞれ手をとり合つてねている様に死んでいる姿は神々しく美しく見えた。

壕の中にねておられる方々

看護婦名	住所	
○宮崎久江	熊本陸軍病院から派遣	
○赤嶺ヨシ	南風原宮平	県病院
○上地ヨシ	国頭名護	同
○内間ヨシ	与那城村平安座	同
○国吉文子	那覇市	同
○島袋エミ子	首里	同
○野原秀子	首里	同
○宜座文子	三和村	同
○福原ツル	糸満町	同
○田原千代	久米島	同
○米須トミ	北谷	同
○宇江城カタ	読谷	同
○潮平フミ	佐敷	同
○玉寄ノブ	東風平	同
○小波倉正子	首里	同
○上江洲ミツ	小禄	同
○東風平ツル	南風原	同
○佐渡山ツル	宮古	（琉大砂川先生のお母さん」
○高良ツル	那覇市	同
○高江洲春子	那覇市	同
○宮城清子	浦添	
○仲順千代	首里	南風原の陸軍病院の時戦死

嘉手川医師　海軍転属なされて戦死された。

奇しくも生きながらえているもの

長田紀春	医師	現在　松尾通り開業
西平守生	医師	同　崇元寺に開業
看護婦　大嶺	浜松病院	安谷屋　那覇保健所
屋富祖（玉城文義医師夫人）		本永　久米島仲里
仲松中城村		具志　那覇保健所

◉古傷（ふるきず）のうづく度毎思うかな
　島尻に残せし幾多の戦友（とも）を

◉わびしさに口をかざして友呼べど
　声は出ですに涙ながるゝ

私は生きたい

名護保健所
納島洋

一、病気

一月三日の朝であつた。
私の生命が二回も反乱を起した。
咳をするつもりであつた。
胸が大きく起伏した。
血の生ぐさい香が鼻をついた。
私は突然喀血した。

その時私は見た。
生命の一部分の顔を。
反逆児の顔は美しかつた。
反乱の計画が何時からなされたのか。
私は知らなかつた。
何の予報もなかつた。
私は反逆児の姿をじつと見つめた。
それはあたかも！
〝よう，初めまして
御気分如何ですか

私は反乱軍の先峰、
我々は思いきり君と戦いたいよ！
と言つている様に思えた。
〃汝、汝自身の敵を愛せよ〃
という顔付に見えた。
私はぎくつとした。
そう見えたのわ私の生命ではなかつた。
親密そうに見えた私の生命は、
私はそうしたくありませんでした。
この悪魔めが私をつれ出して来たのですと言つた。
見にくい顔付をした悪魔め！
地獄からはい出して来たサタンめ！
私の美しい生命にかくれやがつて
恥知らずの悪魔め！
自分の顔は見せずだまつていやがる。
その上私の生命まで！
君の住み場に退りやがれ
君の如き者は一度に全滅だぞ！
君の名前は何だ！
〃私の名前？、
悪魔だよ！
サタンだよ！
地獄からはい出して来たね。
ハハハ……
私の友達はその呼び名もあまり好まないがね！
人間共の社会よりも我々は共闘を忠実に守る種族さ！
君はその事を知らぬと思える。
名前が呼びたけれや！
結核君でどうぞ！
ハハ……
でも全滅だなんて
出来るものならどうぞ
最後までやつて見ましよう！〃
結核君は長期戦の予告をした。
私が迷い初めたのわこの時であつた。

二、美しい過去

それは馬天の小さな町で起つた。
労働者の集る町
皆一日のかせぎで、
一日の営みをする人達
私も労働者、

一日の働きが一日の糧、
古鉄の商売に引かれて来た
私も引かれて来た
海が私の生い立の場！
海に生きる私に！
海はこよなく笑みかけた。

海！海には生があり魂がある。
山があり
谷があり
平野がある。

山には無数の草木が繁つている。
大小の小屋らしきものもある
その中を色々の住み人達が行き来る。

海は深くなればなるほど色は濃い。

谷は暗く光線が反射する
それは花の様に放射状をなす
クラゲが一、二匹先に照うされ。
おちぎをしながら過ぎて行く。

平野は砂ばかり！
処々にナマコが黒く見える
砂は列をつくつて並んでいる。

潮の流れが
平野を通り、
谷を通り
山にやつて来る。
砂は列をつくり
谷は眼をぱちぱちさせ
山の草木や魚は行儀良くおちぎをし
皆揃つて右えならいをする。

海は時々怒る。
だが平和をこよなく愛する
嵐の時でさえ私は海を愛する。
海は色々のものを育てるから。
あゝ、
海は私を心地よくつつんでくれた。
私の魂はつきる処を知らなかつた。
この国の可愛い者達に
私は話しかけた。

〃美しく可愛い者達よ！
海に触せられた男！
海に生きる男を！
君達の仲間に入れてくれと〃

生あるものが全て明るく
ようこそ、とあいさつをしてくれた。
私と同じ営みをする魚達
私はつきる事を知らず話しかけた。

海よ！慰めてくれ、
悪魔めの無限の反逆を！
今日も御身等と過ごしたい！
だが出来ぬのだ。

過去はなんて美しい事よ！
心地よく迎えてくれた海があり妻があつた。
海は大手をひろげ、妻は笑顔で
迎えてくれた。

私の妻
私達はどこで知りあつたつけ
小さな町の、小さな四つ角で
私は酔つていた
その時貴女が現れた。
やさしい眼で
やさしい口唇で笑んでいた。

〃さあ、御宅までお送りしましよう
風邪をひいたら大変よ〃
と貴女は言つてくれた。
その時からであつた
美しい貴女の瞳を求めて
夜な夜な私は歩いた。
貴女は美しく、やさしかつた。

貴女に会えた時
私は自分を忘れるのが常であつた。
こんな話もしたつけ、

〃私の出身地は海の中にある小島
周りが一里半、砂の島
その昔、ゆり若が水を求めて
来たと云う島、
島の真中は大牧場さながらと

貴女は
一度つれていつてね、と言つたつけ、
私達は小雨の降る日に結ばれた。

あゝ返らぬ過去よ、
貴女は変つてしまつた。
私も変つてしまつた。
私の生命の部分を
外におびきよせた悪魔めのために

貴女も私も海も変つてしまつた。

過去よ、帰れ！
私は過去が憎くなつてしまつた
海も私にそつぽを向けてしまつた
眼にうつるもの全てが憎くなつた。
愛の言葉さえも憎くなつた。

愛の言葉に
私も海も生きていたのか。
愛の尊さ、愛の空しさを教えるのか、
私には解らなくなつてしまつた
全てのものが憎くなつた。

三、悪魔との闘争

予告通りにやつて来た
私の体内に過巻くサタンめが
私の生命を少しづつかじつていた。
私は悪魔めに話しかけた。

〃結核君
君の滞在期間はどれぐらいだ、
私は働かねばならないのだ
一日も早く出て行け
恥知らずの悪魔め

〃わめけ、叫べ、
予告通り長期戦の覚悟さ！
十年でも二十年でも
勝負がつくまで戦うつもりさ、
コンキ強くね〃と笑つていた。

あゝ、私は働かねばならないのだ。
君等にかまつておれないよ。
生きていりや食はねねばならないのだ、
それでも君は私に戦いをいどむのか。

私のたくましい腕よ、胸よ
この悪魔めをどうしたら
取除く事が出来ようか
君の力を私は信じ
私の生命の力を私は信ずる。

四、故郷へ

私はあの町を去つた。
色々の憶いを胸に抱いて、
象でさえも死時には祖先の墓に行く
と云う
出来る丈故郷の近くに行くため！

四月四日に宮古島に着いた。
町も人も相当に変つていた
叔父、叔母も老けていた。
周囲の物全てが黙して語らなかつた。

私は悪魔のために
やせおとろえていた
悪魔めが愈々勢力を増して来ていた
苦しくはないが
体々は段々と細くなつていた。

私は町はずれの小さな家におちついた。
畑にかこまれ、家もまばらな処だつた。
住心地は良くなかつた
悪魔めはニヤリと笑つていた
私は益々周囲のものに憎悪を感じた。
妻は益々不気嫌になつて来た。

私の働きはなく
原始の生活に段々と返つて行つた。

妻は酒場で働く様になつた
家に帰らぬ日が多くなつて来た
私の心は暗くなる一方でした
悪魔めはそれにひきかえ
嬉んでいた。

電灯のつかぬ暗い部屋で
私は過ごす様になつた
悪魔を呪いながら
妻の帰りを首を長くして待つた。

私はたまらなくなつて
外を出歩く様になつた。
昼は煙草銭をかせぐために
懐しい海に身を沈めたりした。
夜は足のむくまゝ歩き廻つた。
悪魔めはいつもフクミ笑いをしていた。

憎んだ海は変つてなかつた
いつもの様に温く迎えてくれた。
私の弱り方に驚いていた。
夜も私を心良くつつんでくれた。
十一月、秋の虫達も喜んでくれた。

四、愛の空しさ

愛↓美しいからにつつまれて
これも又私を苦しめる。
純真であれと、誰が誰に向つて言える

人は最後まで一人で歩かねばなるまい
個々別々の者が
どうして一体となれよう
都合のいい言葉
巷に溢れるこの言葉
偽装されたこの言葉
愛と云う言葉に
私は憎しみを憶えた。

妻は愈々変ってしまった
あゝ、君が私から遠ざからうと
サダメならやむをない、
貴女を止める権利が私にあろうか。
私は働く事の出来ない癈人
自らの運命に泣く以外に手段がないもの！

私が首を長くして待つようになってから、五、六ケ月が過ぎてしまった。
彼女は黄金の後を追っていた
妻がそうしたのわ生活のためであった。
私の腕はほそくなって行った
弗は私からもうとつくの昔、
遠ざかっていた
私は毎日叔父や叔母の処に行った
恥しいながらも一日の糧のため！

五、決心

私は行こう
全ての人に平等に与えられた大地へ
偉大なる母の胸に帰ろう
人間がひどく淋しく孤独な動物であるとしても
行くべき処に行かねばなるまい
薄情だと人々を憎んでみた処で何になろう。

私には海があり大地がある。
今日は別れのアイサツに海に行こう
その後は大地がつつんでくれるであろう。
永遠に！

海は相変らず温くつゝんでくれた
海よ、私は今日より母の胸に帰るぞ！
別れのアイサツに私はやって来た
海は別れの土産に古鉄を私にくれた

私は海からの帰り道
叔父、叔母の処を尋ねた
別れのアイサツに来たとも知らず
叔父や叔母は心良く迎えてくれた。

さらば！叔父、叔母よ
平等なる母の胸に先に失礼を！
私は心の中で叫びながら、
別れのアイサツをかわした。

私は海の土産の古鉄を
三〇銭に変えた、
薬品にそれを変えた。

海よ、有難とう
人々よ、妻よ、有難とう
最後まで私は御身達に頼った。
最後の道さえも御身達の
恩恵を受ける。

自らの血に対する無限の反逆
宿命への果敢な挑戦
悲劇の子として生れ出た私は
無限の闘争を試みた。

私の心は静かだ
周囲のもの全てが親しく見える。
私は妻の帰りを相変らず待つ、
帰らぬ！
妻よ！この辛多かりし者を許せ！

もう東の空が明るくなつて来た
妻はとうとう帰らぬ

九時五分！
サタンめが反乱を起した時と同じ時間だ。
悪魔よ！喜べ、
とうとう私は負けた
否、仲良く共同の大地に帰ろう！

海よ、妻よ、人々よ、
御身達の贈り物に
私は心から感謝する
大地よ、永遠に汝の温い胸に
幸多かりし我が身をつゝんでくれ！

（完）

吐息（といき）

大浜公看駐在所
悦綾子

うす暗いコンクリートのいきむれのする中。見るものすべては脱色され、いかなる色をも塗り得ない温みを失つた絶望と圧迫感のみがあるような……栄三にはなまぬるい、いきむれのする中のこれ以上の対座は絶えられるものではなかつた。彼はそつと左肺尖部に触れかけた、瞬間に疲れをおぼえた。きび畑の中であおむけになり四方を新鮮な視線でみまわした。気流の不気味さは、きび畑をひとゆれさせる、細長いきびの葉は気流と共にいりみだれ、そのたびにきびの葉の影はチラチラと、栄三の顔を愛撫するのだつた。思えば四年間肺結核という病名のもとに在宅、療養所での療養生活その思いは深い底知れない沼のように思われてそこえ身を投げ入れたらと希つたのである。それは投身者のすべてが希う欲望に似たものである投身者の欲するものそれはかならずしも死のみだらうか投身者の后にくるものそれは今までと別の世界のものであれば満足なのである退院の日、みちあふるる、透明な日光あの光りを、あびた時感じたものそれは解放だつた。健康人への嫉妬からの…療養所からの……眠れないままに夜を明かし考えた死からの……栄三は軽作業を許された自分の力で生きていかなければならない。時々彼は瞳に映ゆる空が火の粉で充たされた一角を思い出す。火の粉は栄三の行く先あますところなくふりかかる。しかしそれが恐しい事とは思えなかつた、それを恐しいと思う事は自分のエゴなる感情を認める事だつたから。一日の終りに何をも待つてはいけない待つ事それはエゴなる感情だ、栄三のこんな感情が高まれば高まる程望みを裏切られた親父の、しわがれた顔を思い出す時、奇妙な親愛の感情をおぼえた。父親の視線はゆるやかな中にもするどさがあつた。父親のゆるやかな視線にすいこまれる時、栄三にもう一つのものを思わせた、何を語るとも知らずただ動いている鈍感な大きまな瞳、栄三にはそうとしか思えなかつた。それは看護婦の視線である。安静だとか仕事をやめろうとかその顔はさけびながら訴える、そんな時、栄三にはぶざまな破れ顔にしか思えない、だが彼には今のままをどうする事もできなかつた。何かに頼りたいよりすがりたい絶対的な偉大は何かこの事は栄三のささやかな希いだつた、幼い頃学校から帰つてもいつも一人だつた兄弟の多い家をどれ程うらやましく思つた事か…。運命、目に見えぬ呪の力は栄三をぶ厚くとりまいているように思えた。幼い頃からのこの痛ましい自覚、それは淋しい人生と化し彼の日常をうす暗くしていた。人間の人間として起してもいい願いを、墓場にいくまでその間に現実のいかなる障害にあつてもくじけずあきらめず持ち続けるもの、栄三はこのような感情を求めなければ…そしてその願いは墓場の向うで完成させる。栄三は左肺尖部にふれた、ほとんど疲れはなかつた。にぶい電灯の光、きびの葉のざわめきあたりは昨夜と変るところはなかつた。

だが一日はすぎたのだ。

名護町

産婦人科
外科
性病科

比嘉医院

医師 比嘉松栄

電話57番

日立の家庭電気品
電化で築く家庭の幸福

くらしに
ゆたかな爽かさを
憩いに
デラックスな楽しさを!!

那覇市若松通り 電(8)−2166〜68
沖縄総代理店
昭南電氣産業株式会社

＝祝 看護協会創立十周年＝

久茂地川畔

那覇外科医院

医師 金城綱一

呼吸器科　消化器科
循環器科　小児科

伊豆見 内科 小児科 医院

医師 伊豆見元俊

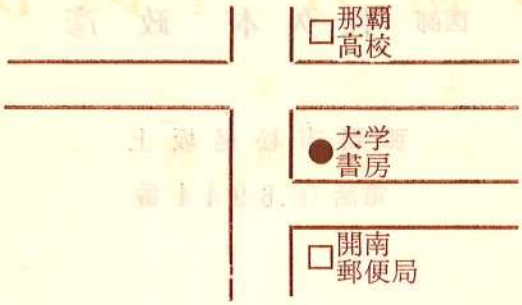
政府立那覇病院向い

電話 8－2227

＝専門書の店＝

大学書房

那覇市開南郵便局隣り
電話（8）5037



精和病院

院長　平　常美
医師　屋良澄夫
事務長　神山茂市
婦長　島袋スエ子

南風原村（8）－3901番

小児科・育児相談

佐久本小児科

医師　佐久本　政彦

那覇市松尾坂上

電話 ⑧ 6944番

口腔外科　一般歯科

開南歯科医院

医師　金城一史

那覇市樋川47　電話 8−6123